

一一 シベリア経済援助一件 二六一

三三四

スル深大ナル利益ヲ扶植スルニ至ルヘキヲ憂フルモノ尠カ
ラス第二ニ「スチーヴンス」問題ノ成行ヲ見ルニ本野外務
大臣在職中「スチーヴンス」ヨリ本野大臣ノ求メニ応シテ
差出シタル「ステートメント」中ニ若シ露国ニシテ独墺側
ト单独講和スルカ如キコトアラハ「スチーヴンス」一行ハ
直ニ露国援助ヲ中止シテ帰國スヘキ訓令ヲ受有セリトノ趣
旨ヲ明言シアリ右「ステートメント」ハ「スチーヴンス」
ノ任務ニ関スル疑惑ヲ解カンカ為本野大臣ヨリ各方面ニ之
ヲ示シ當時一般ニ満足ノ念ヲ以テ迎ヘラレタル処其後獨露
間ニ「ブレスト、リトウスク」条約成ルニ至ルモ依然トシ
テ「スチーヴンス」ハ本国ニ帰ラサルノミナラス西比利亞
出兵ト共ニ「スチーヴンス」モ亦同方面ニ赴キ踵テ米国ヨ
リ西比利亞鉄道ヲ一手ニ管理シタキ旨ノ申出アリタル為此
ノ間ノ消息ニ通セル向ノ間ニハ一度消滅シタル疑惑再発シ

茲ニ米国ノ野心遂ニ其ノ仮面ヲ脱シ来レルモノト誤解スル
ニ至リ米国ハ西比利亞ニ野心ナシトノ声明ヲ指摘シテ之レ
ヲ説得スルモ前記「スチーヴンス」氏ノ帶有セル訓令カ事
実上変更セラレタル例ヲ引キテ右様ノ声明ヲ信頼セサルモ
ノナキニ非ス本件ヲ除キテハ只米国ノ極東方面ニ於ケル經
済的活動カ遂ニ本邦商工業ヲ圧倒スルニ至ルヘシト云フカ
如キ漠然タル疑惑ニ過キスト縷述シタルニ大使ハ大ニ会得
シタル旨ヲ述ヘテ謝意ヲ表シ尚附言シテ米国実業家五百人
云々トノコトモ調査ノ結果実ハ五人ノ実業家西比利亞ニア
ルノミニシテ而モ殆ト現実ノ事業ヲ為シ居ルモノ無シトノ
旨ヲ述ヘ居タリ右御参考迄尚「セメノフ」一件ニ付テモ会
談ノ次第アリ別電ヲ以テ申進ス

右在英大使經由各大使ヘ転電方取計アリ度シ

事項一一 シベリア及東支兩鐵道管理ニ關スル交渉一件

二六二 一月二十九日

在英國珍田大臣宛(ヨリ)
本野外務大臣宛(電報)

東支鐵道管理問題ニ關スル露國側交渉代表者
ノ上田書記官ニ對スル談話ニ付在露内田大使
ヨリ報告ノ件

附 記 一月二十三日在本邦中國公使ノ本野外務

到底右提議ヲ承諾セサル場合ニハ浦潮其他ニ在ル露兵ヲ鐵
道沿線ニ入レ支那兵ヲ驅逐スル覺悟ナル由因ニ勞農政府ハ
旧「ツアール」政府及日本ヲ以テ共ニ併有主義ニ依リ支那
ヲ苦メタルモノトナシ弱者ヲ助クル趣旨ニ依リ支那ニ対シ
多大ノ同情ヲ表シ居リ哈爾賓問題ニ付テモ同地カ支那ノ領
土タルニ鑑ミ可成円満解決ヲ希望シ居ル趣

註 右在露國大使來電第五二号ハ一月三十日外務大臣發在支芳

(附 記)

一月二十三日在本邦中國公使ノ本野外務大臣ニ對スル内話
要領

大正七年一月二十三日在本邦支那公使外務大臣ヲ來訪シ東
支鐵道今後ノ处分方ニ關シ将来露國側ヨリ支那政府ニ對シ
何等交渉アル節ハ必ス之ヲ日本政府ニ内報スヘキ旨並露國
側ニ於テ若シ該鐵道ヲ讓渡スコトト成ル場合ニハ支那政府
ニ於テ之ヲ讓受ケ度考ナルモ其節ハ右讓受費ニ充ツル為日
ヲ求メ一兩日中ニハ右訓電ニ接スル答ナルカ若シ支那側カ
同鐵道ヲ管理セシメ其代リニ支那兵ヲ同鐵道沿線ヨリ撤回
統中ナルカ為ニシテ勞農政府ハ「ホルワット」將軍初メ同
鐵道幹部員ヲ斥ヶ同政府ト支那政府トノ連合委員会ヲシテ
セシメンコトヲ支那公使ヘ提議シ同公使ハ本国政府ノ訓令
ヲ求メ一兩日中ニハ右訓電ニ接スル答ナルカ若シ支那側カ
同鐵道ヲ管理セシメ其代リニ支那兵ヲ同鐵道沿線ヨリ撤回

一二 シベリア及東支兩鐵道管理ニ關スル交渉一件 二六二

三三五

一二 シベリア及東支兩鐵道管理ニ關スル交渉一件 一二六

二六四

三三六

二六三 二月三日 在中国芳沢臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛（電報）

本野外務大臣宛（電報）
在中国芳沢臨時代理公使ヨ

二付外交次長二問質シタル件

一號（亟必）

第一三一七（機種）

二月一日外交次長來訪ノ節貴電第四五号中適當ノ部分ヲ語リタル上東支鐵道管理問題ニ關スル支露両國間交渉ノ次第ヲ詳細問質シタル處次長ハ本問題ニ就テハ支那政府ハ未タ露国過激派政府ト交渉シタルコトナク唯過日在日本支那公使ヨリ貴電第四五号御来示ノ如キ報道ヲ電報シ来リタルニ付右実否取調方在露支那公使ニ電訓シタル迄ナリ元来支那政府ハ是迄「ホルワート」側ト接触シ来リ過激派ヲ度外ニ置キ現ニ過般北満ニ於ケル過激派ノ軍隊ヲ立退カシメ支那軍隊ヲシテ秩序維持ノ任ニ当ラシメタル等ノ為メ過激派政府ヨリ抗議ニ接シタルコトアリ最近在露支那公使ヨリ露国

ト附言セリ) 不日極東ニ向フ旨來電アリ統テ右代表員ノ出
発ハ中止セラレタル旨(延期ノ意味ニアラズ) 追電ニ接シ
タルモ其中間約四通ノ電報未着ノ為メ前後脈絡ヲ欠キ從テ
右露国代表員ハ露國公使ノ資格ヲ有スルモノナルヤ或ハ東
支鐵道管理問題商議ノ為メナルヤ將又「ホルワート」ノ後
任ナルヤ其辺ノ事情判明セサルヲ以テ是等ノ点ニ闕シ陸線
ハ不正確ナルニ付特ニ海底電線ニテ折返シ問合セ置キタリ
尚支那兵ノ鐵道沿線ヨリ撤退方ニ閑シ仮リニ露國側ヨリ提
議アルニセヨ支那領土内ニ於ケル駐屯ナルノミナラス露本
國及北滿ノ現状ニ顧ミ支那政府トシテハ之レヲ撤退スル考
ヘ更ニ之レナキ旨答ヘタリ尚在露支那公使ヨリ其内何等カ
ノ電報到達スヘキニ付追テ更ニ外交部ニ問合ノ上何分ノ儀
追報スヘシ

〔二月六日章公使來省同様ノコトヲ告ゲタリ（本野大臣）〕

東支鐵道管理問題ニ關シ在本邦中國公使及中國
國外次長ノ談話要領通報ノ件

第二六号（極秘）

在英大使宛貴電第五二号ニ関シ一月二十三日在本邦支那公使來訪東支鐵道今後ノ処分方ニ關シ将来露國側ヨリ支那政

旨並ニ露國側ニ於テ若シ該鐵道ヲ讓渡スコトナル場合ニ
ハ之部ニ付ニシテ裏モニシニモ一ノ其方ニニモ是モ貴

ニ充ツル為日本ヨリ借款スル積ナル旨内話ノ次第モ有之タ
ルニ依リ右含ノ上ニテ貴電ニ閑スル眞相突留方在支代理公

使ニ対シ一月三十一日訓令シ置キタル処二月三日回電アリ
外交次長ハ東支鐵道管理問題ニ關シ支那政府ハ未タ露国過

激派政府ト交渉シタルコトナン元來支那政府ハ過激派ヲ度外視シ現ニ過般北滿ノ過激派軍隊ヲ立退カシメ支那軍隊ヲ

ハ言ひ起ス！

一二 シベリア及東支兩鐵道管理ニ關スル交渉一件 二六五

二六六

部署參事劉崇傑談話ノ件

東支鐵道管理ニ關スル露國及中國交渉ニ付外交

二二六 二月一日

例ノ不通ノ電報ハ今猶未着ナルカ二月八日接到ノ在露支那

公使來電ニ依レハ露國外務省員「ウォズネセンスキ」ハ
支那公使館員ニ対シ哈爾賓ノ自治及鐵道問題（敢テ共同管
理ト云フ次第ニアラス）ニ付露支兩國ヨリ委員ヲ出シ懇談
ヲ遂ケ度キ旨ヲ申出デ同時ニ「ホルワート」（脱）「ホ」

ヲ是非トモ露都ニ召喚シ度キ所存ニテ目下東支鐵道中央當

局ト交渉中ナルカ「ホ」ノ上京ヲ見サル場合ニハ「ウエン
ツエル」ヲ捕縛スルヤモ計リ難キ旨ヲ語リタル由次テ支那
公使館員ヨリ英米側ニ於テ東支鐵道ニ閑シ何等希望ヲ申出
デザルヤノ間ヲ発シタルニ対シ「ウ」ハ米國技師ノ一人昨
年渡米ノ節東路買收方希望ノ旨ヲ申出デタル際「ケレンス
キー」政府ハ米國一ヶ國ノ申出ニテハ考慮シ難キ旨ヲ答ヘ
爾來其儘トナリ居ル趣ヲ語リタル由ナルガ支那政府トシテ
ハ過激派政府ニ対スル根本方針未決定セザルニ当リ兩國ヨ
リ委員ヲ任命シテ懇談セシムルカ如キ処置ニ出ヅルヲ得ズ
旁々単ニ條約上ノ権利ヲ實行スルニ止ム可キ所存ニテ在露

支那公使ニ対シテハ多分其意義ニテ電訓スルコトナル可

シ尚在日本支那公使ニ対シ簡単ニ以上ノ次第ヲ電報シ置キ
タリ云々

二六七 二月十三日 在中國芳沢臨時代理公使宛（電報）

「ホルワット」ヨリ東支鐵道守備ノ中國軍撤
退要求ヲ支持方申出ノ件

第七二号

二月十一日在本邦露國大使本大臣ヲ訪問シ「ホルワット」
將軍ハ東支鐵道警備ノ為義勇隊ヲ編成致度意向ニシテ右編
成完了ノ上ハ目下守備ニ任シツアル支那軍隊ノ撤退ヲ支
那政府ニ要求シ度考ナルニ付右撤退要求ニ閑シ日本政府ノ
支持ヲ得度旨申出タリ仍テ本大臣ハ支那軍隊出動ノ為現ニ
哈爾賓ノ治安力維持セラレアルノ事実ニ顧ミ今更同將軍力
其撤退ヲ希望セリトテ帝国政府トシテハ之ヲ支持スルコト
ヲ得サル旨答へ置キタリ御含迄

二六八 二月二二十四日 斎藤在中国日本公使館附陸軍武官ヨ 田中參謀次長宛（電報）

ヲ去ラサルヘカラサルノ場合ニ於テ鐵道問題ヲ持出スモ交
渉ヲ遂ケ得ルヤ否ヤ「レニン」政府ヲ承認セサル今日ニ於
テ仮令購買契約ヲナシタリトスルモ其効力ハ甚タ疑ハシト
云ヘリ依テ本職ハ東清鐵道ハ一交通機關ナリ之ヲ一個物件
ト見做シ購買シ爾後支那軍隊ヲ以テ之ヲ守備セハ其購買ノ
有効ナルコト勿論ナリ又仮令近々公使カ露都ヲ去ルトスル
今日少クモ從来米露間ニ購買ノ契約ナカリシヤヲ確メ置ク
コト必要ナリト述ヘ支那側ニ於テモ既ニ前回本職ノ勸告ニ
ヨリ日本政府ノ内意（鐵道買収並ニ守備ニ閑スル）ヲ充分
了解シ尚此際研究ヲ遂ケ馮總統トモ計リ其結果ニ付近ク本
職ニ報スヘキヲ約セリ本件ニ付テハ此ノ外ニ軍事當局ニモ
申込ム筈

二六九 三月一日 在浦潮中島少將（ヨリ） 田中參謀次長宛（電報）

シベリアニ於ケル米英ノ勢力拡張企図ニ鑑ミ
我方ノ鐵道敷設権獲得ノ必要ニ付上申ノ件

第十五号

米国人ヲ主宰トスル自衛警察隊ノ事業ハ著々進行シ漸次其
權力ヲ拡張セントス

米国ヨリ陰ニ資金ヲ出シアル模様ナリ米、英ハ之ヲ以テ過激派ヲ抑ヘ溫和派ヲ操縦スルノ機関トスルノ底意アリ尚ホ米国ハ西伯利ニ勢力拡張スル為メノ門戸タル浦塩ニ確乎タル優先権ヲ得ントスルノ企図ニモ利用セントスルニアラザルカ米国ノ蔭ニハ常ニ英國ノ潜ミアルモノアリ戰後ハ英米同盟シテ極東ニ勢力ヲ拡張シ日英同盟ハ生ケル屍トナルモ知レズ今ノ間ニ沿海州、黒竜州ニハ日本ノ勢力ヲ伸シ時機ヲ見テ烏蘇里鉄道買入又ハ哈爾賓、ラゴエチエンスク間ノ鉄道敷設権ヲ得之ヲ長春ニ接続シ米国ガ浦塩及「カムチャツカ」方面ヨリ西ニ向テ延長スル勢力ヲ横断スルノ必要ヲ感ズ

二七〇 三月六日 斎藤在中国日本公使館附陸軍武官ヨリ
田中參謀次長宛(電報)

東支鉄道管理經營ニ關シ「ホルワット」ヨリ
中國政府ニ提議ノ件

支極秘電第一二七号

昨日王郅隆ヲ通シ段祺瑞ニ「ホルワット」ノ支那側ニ協議シタル事項ヲ承知シタシト告ケタルニ委細曹汝霖ヨリ間取ラレタシトノ回答アリシヲ以テ本日曹ニ面談シタル所「ホ

ルワット」ノ支那側ニ申入レタル次第ハ從來東清鉄道ハ露支両國間ニ存スル條約ノ範囲ヲ超越シ殆ント露國ニ於テ管理經營シ来リタル所今ヤ在上海露清銀行頭取「ブチロトフ」カ該会社ノ重役タルハ露國政府ノ任命セシモノナルニ露國政府ノ殆ント統治ノ能力ヲ失フニ至リタルニ依リ此際該鐵道ハ全ク露支條約文面通り公平ニ露支両國間ニ於テ管理經營セントスル意見ヲ有ス依テ支那側ニ於テモ郭宗熙ノ外ニ一、二ノ重役ヲ出シ会社ノ組織ヲ変更シタシト申出タルニ依リ支那政府ハ之ニ同意シ重役ヲ出ス筈ナルカ未タ人選ヲ終ラス尚支那側ヨリ同鐵道ノ守備ハ當然支那軍隊ヲ以テ之ニ當テラルヘキモノナルコトヲ提言シタルニ「ホルワット」ハ露國ノ無力ナル今日支那軍隊ニ依リテ守備セラルルコトハ當然ニシテ更ニ異存ナシト確答セリ彼ノ來訪ニ就テハ以上二件ノ外ニ何等相互ニ提議若クハ協定シタルコトナシト断言セリ

旅順スミ

二七一 三月十日 在中国芳澤臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

東支鉄道管理經營ニ關シ「ホルワット」ノ支那側ニ協議シタル事項ヲ承知シタシト告ケタルニ委細曹汝霖ヨリ間取ラレタシトノ回答アリシヲ以テ本日曹ニ面談シタル所「ホ

シトノ同國側希望ニ關スル件
第三三五号

往電第三二一号ニ關シ三月十日仏國代理公使來訪今回東支鉄道理事局改選ノ際仏國側ヨリモ理事若干名ヲ出シ度キ所存ノ處最近右仏國側ノ希望ニ對シ日本ヨリ反対ノ意向ヲ表白セラレタルヤニ仄聞シタルカ果シテ事實ナルヘキヤト質問シタルニ付本官ハ何等承知スル處ナキ旨答ヘタル上右報道ノ出所ニ付同代理公使ニ尋ねタル處本国ヨリノ報道ナルカ間接ノ途筋ニテ本国ニ達シタルモノナル旨答ヘタリ就テハ右ハ或ハ同代理公使カ虚説ヲ齎ラシテ我方ノ意向ヲ探ラントシタルモノナルヤモ測リ難キモ何等本邦側ニテ實際反対ノ意向ヲ表白セラレタルコトナキヤ御承知ノ次第有之ニ於テハ御差支無キ限り御垂示ヲ請フ

二七二 三月十二日 本野外務大臣ヨリ
在中国芳澤臨時代理公使宛(電報)

東支鉄道理事局ニ關シ回訓

ノ件

第一五六号

貴電第三三五号ニ關シ本邦側ニ於テ御來示ノ仏國側希望ニ

一二 シベリア及東支両鉄道管理ニ關スル交渉一件 二七二

二七三 二七四

明ノ件
第三八一号

貴電第一六八号ニ關シ

三月十八日露國公使來訪ノ際本件ニ關シ質問ニ及ヒタル処

同公使ハ「ホルワット」將軍來燕ノ主タル目的カ東清鉄道理事局改選問題ナリシコト並ニ其後仏國側ヨリ同国人ヨリ

三四一

一一 シベリア及東支兩鐵道管理ニ関スル交渉一件 二七五

三四二

モ理事ヲ出シ度キ旨ノ要求ニ接シタルコト等往電第二六一

号及第三一一号ノ内容ト全然同様ノ事実ヲ述ヘタル外仏國

代理公使カ東清鐵道理事問題ニ關シ本國政府ト往復スル処

アリタルヤニ想察セラル節アルノミナラス最近自ラ外交

部ニ赴キ在支露國公使ハ東清鐵道ノ処分ニ關シ何等權能ヲ

有セサルモノナル旨ヲ吹込ミタルヤニ仄聞シタル處右仏國

代理公使ノ措置ニ対抗スルニ於テハ之カ為連合寺國ノ協調

ニ一波乱ヲ生セシムルコトトナルノ虞アリ頗ル遺憾ニ堪ヘ

サルニ付姑ク之ヲ黙過スルコトトシタルモ之ト同時ニ本件

ニ関連シテ紛糾ヲ生セサラシメンカ為理事局ノ改選ハ断然

姑ク実行ヲ見合ハスルコトニ決定セル次第ナリ元來東清鐵

道ノ条例ニ依レハ之カ株主モ亦露支兩国人ニ限ルヲ以テ同

鐵道ノ管理權ヲ右両国人以外ニ掌握セシムルコトハ不可能

ニシテ只露都ニ於ケル同鐵道本部ハ不幸ニシテ現ニ過激派

ノ勢力下ニアルヲ以テ或ハ同鐵道讓渡シノ暴挙ヲ計画スル

カ如キコトナキヲ保シ難キモ當地方ニ於テハ自分並ニ「ホ

ルワット」將軍ヲ始メ何人ト雖モ斯ノ如キ考察ヲ有スルモ

ノ断シテ之ナク要スルニ東清鐵道讓渡シノ如キハ多分右等

ノ事実ニ基ク誤伝ナル可キ旨ヲ述ヘタリ御参考迄ニ

二七六

在哈爾賓總領事ヘ転電セリ

二七五 四月一日 在哈爾賓佐藤總領事ヨリ

本野外務大臣宛(電報)

東支鐵道從業員指導ノ為ノ米國鐵道隊員任用

ニ關スル協定成立ノ件

第一七四号

四月一日附ヲ以テ当地米國領事ヨリ左ノ通知アリタルニ付御参考迄電報ス

米國鐵道委員長「ジエー、エス、スチーヴンス」氏ヨリ去

三月二十七日附ヲ以テ「ホルワット」トノ間ニ在哈爾賓米

國鐵道隊員中ヨリ若干名ヲ露國鐵道從業員指導ノ為メ單ニ

東支鐵道ニ限り任用スルコトノ協定成立セル旨本領事ニ對

シ通告アリタリ尚ホ右米國鐵道隊員ハ指導者トシテノ職務

以外ニハ他ニ何等ノ權限ヲ有セサルモノナリ

在支公使ヘ転電セリ

二七六 四月十八日 在中國林公使ヨリ

本野外務大臣宛(電報)

東支鐵道ノ米國鐵道隊員僱聘ニ關スル件

第五四五号

四月十七日露國公使ヨリ東支鐵道ニ關シ往電第五四三号ノ通リ内話シタルニ付テハ此機會ヲ以テ貴電第二四三号ノ趣ニ從ヒ「スチーヴンス」ノ件ヲ尋ねタル処同公使ハ同人等ハ單ニ東支鐵道從業員ニ對シ技術上ノ「サジェスシヨン」ヲ為ス為メ僱聘シタルノミナリトテ同人等ノ使命ハ至テ輕微ナルモノニテ世間ニ伝ヘラルカ如キ何等重大ナルモノニアラサル旨ヲ答ヘタリ
哈爾賓ヘ転電セリ

(附記)

右ニ付小幡政務局長ヨリ參謀本部高柳少將ニ對シ前記「クルペヌスキ」大使來談ノ趣ヲ語リ參謀本部ノ意向ヲ確メタル所同少將ハ參謀本部トシテハ東清鐵道ハ矢張リ「ホルワット」將軍管理ノ下ニ置キ軍隊輸送等軍事上ノ必要ニ応シ我方ノ使用ニ供シ得ルコト致置クヲ最モ得策ト思考スルニ付只今ノ所之ヲ占領スルノ意思ナク且ツ右ノ意向ヲ外務省ヨリ露國大使ニ言明スルモ差支ナシト謂ヘリ(七月二十二日記)

二七七 七月十九日 在本邦露國大使會談

日本ノ西比利亜出兵後ニ於ケル東支鐵道ノ地位及管理ニ關スル件

附記 右ニ關スル參謀本部ノ意向

「クルペヌスキ」大使七月十九日(金曜)幣原次官ヲ來訪シ日本政府ニ於テハ愈々出兵實行ノ場合東清鐵道ヲ占領スルノ意圖ヲ有シ居ラルヤニ噂セラル處御承知ノ通り

同鐵道ハ西比利亜鐵道ナドト事情ヲ異ニシ「ホルワット」將軍ハ一二同鐵道ニ依リテ其立場ヲ保持シ居ル次第ニ付日

本軍ニ於テ之ヲ軍隊ノ輸送等軍事上ノ目的ニ使用セラル

一二 シベリア及東支兩鐵道管理ニ關スル交渉一件 二七七

二七八

別電

八月二十一日在浦潮菊池總領事發後藤

ウスリー東支兩鐵道ノ管理問題ニ關シ米國派遣隊長ヨリ提議ニ付松平政務部長ヨリ請訓ノ

二七八

八月二十一日 在後藤外務大臣宛(電報)

三四三

務大臣宛電報第四九八号
米國派遣隊長ヨリ連合国各司令官宛電書

第四九七号

松平政務部長ヨリ

第五号

米國派遣隊長「スタイヤ」大佐ヨリ連合国各司令官ニ対シ
八月十七日附ヲ以テ別電第六号ノ如キ覚書ヲ提出セリ右ニ
依レハ単ニ烏蘇里鐵道ノミナラス東支鐵道ヲモ包含シ居ル
モノト解セラル所仮令列國軍ノ指揮下ニ置カルト雖此際
全然米國ノミニ鐵道行政ヲ任ス事ハ将来ノ為メ面白カラサ
ルノミナラス一面鐵道長官タル「ホルワット」ヘ意向ヲセ
確メスシテ決定スルハ如何アルヘキニ付軍司令官ニ於テモ
其回答方ニ關シ目下講究中ナリ右ニ対スル御意見指示ヲ請
フ尚別電写シハ參謀本部及鐵道院（木下局長ノ依頼ニ依
リ）
夫々御送附ヲ請フ

（別 電）
八月二十一日在浦潮菊池總領事発後藤外務大臣宛電報第四

九八号

米國派遣隊長ヨリ連合国各司令官宛電書

No. 498. Betsuden No. 6.

Kikutuchi

Memorandum for Allied Commanders, Vladivostok:

It is apparent to me from observations since arrival that the allied military object requires the prompt reorganization of the railway administration for the direct line in rear of the allied advance from Vladivostock north and west. The American railway engineers now here and in Harbin are organized for this special purpose, and are prepared with full knowledge of the situation, based on full investigation and practical cooperation. As a military measure of the first importance, I believe, they should be placed in charge of the railway administration at once. I propose to so represent to my Government by cable to-day, with recommendation that the service of these engineers be formally placed at the disposal of such military official or body may be appointed by the Allied Commanders, to supervise the military use of the railway, *should it appear necessary for joint operation. Your views are requested.*

註 右菊池總領事発後藤外務大臣宛電報第四九七号及同第四九

八号全文ハ在中国林公使宛第六七五号及第六七六号在哈爾
賓佐藤總領事宛第二七七号及第二七八号並在米國石井大使
宛第三一六号及第三一七号ヲ以テ夫々転電セラレタリ

~~~~~

一七九 八月二十二日 浦潮派遣軍司令官ヨリ

上原參謀給長宛（電報）

列國ニ依ル臨時鐵道委員会ノ組織及其決議II

關シ報告ノ件

浦參第十九号

二十一日臨時鐵道委員会ヲ組織ス英米仏ノ臨時代表武官及  
其隨員、露國ヨリ鐵道當業者三名及ヒ隨員、日本ヨリ竹  
内、中嶋、木下出席ス中嶋ハ會長ニ押サル其主要ナル決議  
事項次ノ如シ

一、浦潮「スペスロエ」間ノ輸送力ハ二列車ヲ増加シ合計

五列車トナス

二、「スペスロエ」「スピヤキナ」間ニ於テハ待避線又ハ  
他ノ一線以上ヲ築設スルコム

三、鐵道委員会ヲ連合軍司令官ノ隸下ニ置ク、委員会ヲ軍  
事班ト技術班ニ分ツ

四、シベリア及東支兩鐵道管理ニ關スル交渉一件 一一九

五、連合軍ノ為メノ病院列車ハ追テ定ム

一一〇

三四五

委細書面ニテ報告ス

二八〇 八月二十二日 在浦潮木下鉄道院運輸局長ヨリ

列國鐵道委員会ニ於ケル審議ニ対スル我方ノ準備會議並該審議模様報告ノ件

報告第一号 (八月二十八日接受)

大正七年八月二十二日

浦鹽斯德ニテ

木下淑夫

中村鉄道院總裁閣下

拝啓本月十八日午後五時御用船熊野丸ニテ下関出帆途上風浪可ナリ高カリシモ一行無事二十日午後二時當浦鹽斯德ニ入港致候小生ハ着港後直チニ我カ陸軍々司令部ヲ訪問刻下ニ於ケル作戰経過並ニ當地政情ノ概況ヲ聽取候處鐵道關係ニ就キテハ一両日來列國代表者委員会ヲ組織シ輸送事項ヲ協議致居ルトノ趣ニテ差當リ米國軍ヨリ提出セラレタル重要問題ニ關シ協議致度ントノ事ニ當二十日夜晚食後司令部ニ於テ日本側關係者會議相催シ候

米國軍ノ提出案ハ別紙写(写省略ス)ノ如クニ候力軍參謀

部ニテハ翻訳官ノ翻訳些カ正確ヲ欠キシ故ニカ本問題ヲ余リ重要視セサリシ如クニモ見受ケラレ小官一見ノ上本提案ハ実ニ今後北滿州並沿海洲鐵道政策ノ根本方針ニ関スル頗ル重大ナル問題ナレハ特ニ審議ノ必要アル可キヲ申出セシモノニ候當夜大谷總司令官病氣ノ為メ出席セサリシモ会合者由比參謀長中島稻垣兩少將木村外務省派遣員(松平參事官病氣欠席)武内中將並小官ノ六名ニテ會議ハ午後八時ヨリ午前一時ニ至ルノ長時間ニ亘リ申候

參謀部側ノ之ニ対スル一部意見ハ作戰計画カ出来得ル限り列國協調ノ態度ニ出テ各其長所ヲ利用シ以テ對敵行動ノ能率ヲ最上タラシメン事ニ努メツタル結果今次ノ米國側提出案モ差支ナキ限リ先方ノ申出ヲ採用スルハ已ムナシトノ考ニアルヲ見受ケ申候外務省派遣員側ノ意見ハ多少之ト異リ參謀部側ノ意見モ尤モ乍ラ鐵道經營ヲ此際米国人ニ委スルハ将来西伯利亞ニ於テ我カ政治的並經濟上ノ勢力失墜ノ恐レナキヲ保セス殊ニ最近出兵其他ニ就キ米國側カ日本ノ提案ニ同意ヲ表セサルモノ多シ我亦彼カ言フ儘ニ從フノ必要ナキニ由リ我カ國モ米國側ノ提案ニ対シ鐵道管理ノ仲間入リスルノ対案ヲ出シテハ如何トノ意見モ出テ候

小官ハ列強ノ長所ヲ利用シテ對敵作業ノ効率ヲ増サントスル參謀部ノ根本主義ニハ賛成候モ今後北滿洲沿海洲鐵道經營ノ中心ヲ變更シ「ホルワット」乃至露国人ヲ斥ケ米国人ニ其監理ヲ委ヌルコトハ果シテ可能ナリヤ仮リニ多數ノ露人ヲ敵トシテ作戰行動ヲ為ス如キニ至ラハ鐵道守備ノ為ニモ多大ノ軍隊ヲ要シスクテハ到底西伯利亞奥地迄突入セントスル希望ハ実現致難カル可ク、又露國鐵道ノ改善ニ關シ或程度迄米國側ノ援助ヲ藉ルハ已ムヲ得ストスルモ當然我カ國ノ優越權を認メラレタル北滿洲等ノ鐵道ヲ米國人ノ管理ニ委ネントスルニ至リテハ我カ鐵道當局者トシテモ忍フ能ハサル旨ヲモ申述候

會議ハ前述ノ如ク長時間ニ亘リ候モ結局本提案ハ米國ノ感情ヲ害セサル程度ニ於テ英仏ト連合シ次回會議ニ於テ之ヲ斥クルニ決シ申候幸ヒ中島少將ハコノ方面ニ親密ノ關係ヲ持タレ兩國代表トモ已ニ意志ノ疎通ヲ計リ置カレタル由ニ御座候

斯クテ昨二十一日午後五時ヨリ我軍令部ニ於テ列國軍代表

者ノ鐵道會議開催出席者英米仏各國代表者露國鐵道關係者各両三名我カ國代表者トシテハ武内中將中島少將並小官出

一二 シベリア及東支兩鐵道管理ニ關スル交渉一件 二八一

報告第三号

大正七年八月二十三日

浦鹽斯德ニ於テ

木下淑夫

二八一 八月二十三日 在浦潮鐵道院總裁

中村鉄道院總裁

東支鐵道管理問題等ニ關シホルワット將軍ト

ノ會見及同將軍ヨリノ書翰ニ關スル件  
附屬書 右ホルワット將軍ヨリ木下局長宛書翰和  
訳文

大正七年八月二十三日

報告第三号

大正七年八月二十三日

浦鹽斯德ニ於テ

三四七

中村鉄道院總裁閣下

拝啓本月二十一日即チ当地着翌日小官ハ武内中將中島少將大村石田両技師ト共ニ「ホルワット」將軍ヲ客車内ニ訪問致候訪問ニ先立チ時刻打合セノ為山中書記ヲ將軍ノ許ニ遣ハシ候ニ將軍ハ客月小官ヨリ送リシ一書ニ対シ別紙ノ如キ返書ヲ認メ數日前發送セント致居リシモ小官ノ來着ヲ聞キ

留置キシモノヲ同書記ニ托シ送越シ申候同書面ハ多少「ホルワット」將軍ノ心中ヲ推測シ得ルモノト被存候ニ付同封貴覽ニ相供シ候初同日ノ見会ハ午後三時半頃ヨリ同五時迄約一時間半ニ亘リ申候カ當方ヨリハ先ツ最近列國協調ノ上出兵シタルニ就テハ鐵道輸送事務ニ關シテモ深ク調査ヲ要スル必要アリ軍司令部附武内中將ハ将来專ラ運輸通信ノ方面ヲ担任スヘク小官モ幸ヒ二三週間ノ閑ヲ得タレハ之ト同行シ同時ニ大村石田両技師モ各専門事項ニ就キ貴鐵道最近事情ヲ調査センカ為ニ出張シタル次第ナル旨ヲ告ケ尚斯ル調査ヲ為スハ今回ノ出兵ニ我カ日本カ其主力ヲ出シ居ル結果鐵道輸送上ニモ其責任ノ輕カラサルヲ自覺シテノ事ナレハ調査ノ上必要アラハ各種材料人力等ニ於テモ相當ノ援助ヲ辭セサルノ覺悟アルヲ附言致候「ホ」將軍ハ小官等ノ

使命ニ對シ深ク感謝シ予テ余等ハ貴國カ極東露國ニ對シ非常ナル好意ヲ表サレツツアルヲ常ニ感謝シ居ル次第ナレハ此ノ際何事モ打明ケ御話シ申上ク可ク詳細ハ極東政府鐵道部長タル「ウストルゴフ」氏並其他關係者ニ伝ヘ置ク可キヲ以テ同氏等ニ就キ調査ノ歩ヲ進メラレン事ヲ乞フ旨答ヘラレ候

輸送力ノ大要ニ就キ「ホ」將軍ノ語レル所ヲ綜合スレハ露獨開戦ノ当初ニアリテハ兵員軍需品輸送ノ為メ極東ヨリ歐洲ニ向テ一日十五列車ノ運転ヲ計画シタルモ實行ニ至ラスシテ終リ最近連合軍ノ出兵ニ對シテハ「ウスリー」線ニ於テ一日三回ノ軍用列車ヲ提供シツツアルカ現在ノ線路狀態並輪転材料ヲ以テセハ東清「ウスリー」兩鐵道ヲ通シ約五回列車ヲ提供スルハ困難ナラス（無論普通ノ營業列車ハ此ノ以外ニ運転スルモノニ候）トノ事ニテ只若シ浦塙「イルクツク」間ニ五個列車以上ノ軍用列車ヲ運転スルカ如キ場合ニ立至ラハ現在ノ輪転材料並從事員數ニテハ到底間ニ合ハス勢ヒ日本其他連合軍ノ援助ヲ仰カサルヲ得ストノ事ニ御座候話題ハ一転シテ米國鐵道隊ノ事ニ移ルヤ「ホ」將軍ハ米國カ過激派ノ一部ニ軍器ヲ渡シタルカ如キ其真意ヲ解

スルニ苦シムト語リ（中島少將ハ右ハ「ホ」將軍ノ誤解ナリト小官等ニ告ケ申候）又鐵道隊ニ至テモ或ハ通信線ヲ多ク獲得セン事ヲ申出テ或ハニ「トレーンデス・パッチングシステム」ノ指導ヲ終ルモ其場所ヲ去ラス或ハ鐵道事務ニ煩些ナル干渉ヲ試ミツアリナト凡テ米國側ニ好意ヲ有セサル如キ言辞ヲ弄シ候カ右ハ小官等一行ノ歎心ヲ得ンカ為トモ推セラレ何分御承知ノ如キ猩親爺ノ事ナレハ彼ノ言ハ幾分割引シテ聞クノ必要アリト被存候

更ニ米國鐵道隊カ機関車ノ運転ニ「ブーリングメソード」ヲ唱道スルニ對シ同法ハ理論上効果アルヘキモノナルニ不拘実施ノ結果ハ機関車ノ保存上充分ノ注意ヲ為サシムルヲ得ス效果必シモ良好ナリト言フ能ハサルモノアリト申居候小官ハ米國ニアリテ鐵道ヲ研究シタル一人ニ候故米式ノ運転其他ニ就キ多少ノ心得モ御座候カ同法ハ其長所アルト共ニ短所モアリ今日大敵ヲ目前ニ控ヘナカラ數十年來慣行セル露式ヲ棄ツルハ其時期ニ於テ最モ注意ヲ要ス可ク又機関車ノ「ブーリングメソード」ノ如キ貴説ノ如ク現ニ同法ヲ使用シ居ル米國ニ於ケル全國機関車一日平均走行哩七十哩ナルニ不拘同法ヲ行ハサル我カ國ノ走行哩ハ九十哩ニ

達セル旨ヲ告ケ今日露國鐵道トシテ努ム可キ点ハ所謂泥棒ヲ見テ繩ヲ絞フ式ノ拳ニ出テニヨリハ在来ノ方式ニ基キ一般従事員ノ励精ト幹部ノ奮闘トニ由テ其能率ノ増進ヲ計ル方寧ロ適當ナラスヤトモ考フル旨ヲ告ケ更ニ面会ヲ約シテ引取申候

昨二十二日當地新聞中「ウスリー」鐵道ヲ米國鐵道隊及独塊捕虜ニ經營セシムルノ報ヲ伝フルモノアリ軍令部ニ於テモ已ニ二十二日ノ列國軍代表者會議ニ於テ前陳ノ如ク議了セルニ不拘「ホ」將軍ノ態度ニ就キ稍疑惑ヲ抱キ居レルモノノ如ク武内中將ヨリ小官ニ「ホ」將軍ト更ニ会談セン事ヲ求メラレ候ニ付同日午後四時ヨリ六時迄約二時間ニ亘リ单独ニテ会見致候其要領大略左ノ如クニ御座候

木下 今朝軍令部ニ於ケル少壯士官中「ウスリー」鐵道カ米國鐵道隊及独塊捕虜ニ於テ管理經營セラル可シトノ情報アルヲ語リ閣下ノ態度ニ就キ稍疑惑ノ念ヲ有スルモノアルカ如シ本件ニ關シ其真相ヲ拝聴致シ度

ホルワット 其ハ余ニハ全ク初耳ナリ米國鐵道隊ハ已ニ述ヘタル如ク哈爾賓其他數ヶ所ニ數名若クハ十數名ヲ配置シ業務ノ指導ヲ為シ居レルモ最近別ニ何等計画

後ノ状況ハ已ニ貴下ニ語リタル次第ナリ幸ニ之ヲ諒セラレヨ

木下 右ノ如キ風説ヲ生シタル理由モアラハ更ニ申上ク可シ

米国鐵道隊ニ關シ余等日本側ハ其行動ニ關シ別ニ容喙干渉スル次第ニ非サルモ聞クカ如クンハ同隊ノ入リテ露國鐵道カ大ニ改善サレタリトノ事モ無ク格別効果モ認メラレサルニ似タルカシカモ此ノ上多数ノ米人ヲ入ラシムルニ於テハ何カ特別ノ理由モアルニヤ此ノ際打明ケタル御意見拝聴致シ度シト思フ次第ナリ

ホルワット 抑々米国鐵道隊カ露國ニ入込ミタルハ「ケレノスキ」内閣ノ當時「エリユウルート」カ遭露米國大使トナリテ來訪シ是ト同時ニ「スチーブンス」鐵道技師一行ヲ率イテ来邦シ當時ノ臨時政府ト種々協商ノ結果米国ヨリ數千ノ機関車ト數万ノ車輛ヲ供給ス可キ契約ヲ結フト共ニ露國鐵道改善ノ為メ米國鐵道技師ヲ指導者トシテ派遣セン事ヲ約シタルモノニシテ現在余等ト米国トノ間ニハ何等特別ノ約束モ無キ次第ナリ數ヶ月前其一隊哈爾賓ニモ來レルカ其

木下 今回ノ連合軍共同出兵並日本政府及日本國民ノ決心

ニ就キ此ノ際打明ケテ貴下ノ諒解ヲ得シ事必要ナリト勘考ス素ヨリ日本ノ朝野ニモ多少異ナレル議論観察ヲ為スモノアレト余ハ今日本ノ一國民トシテ今日感スル所ヲ卒直ニ申上ク可シ出兵ニ關シテハ無論列國協調ノ上ニ出テタルモノナルヲ以テ何處迄モ列國ノ援助ニ由リ其目的ヲ達セントスル考ナリ然レトモ連合軍ノ主力ハ言フ迄モナク我カ日本軍ニシテ今後

軍事行動ノ進展ニ連レ更ニ多數ノ出兵ヲ要スル場合モアリトセハ最モ迅速ニ之ニ応シ得ルハ獨リ我日本アルノミ從ツテ我カ國民ハ今回ノ舉ニ對シ最モ重大ナル責任ヲ感スルト共ニ最モ細心ノ準備ヲ要ス現在日本ハ一万乃至二万ノ兵員ヲ戰線ニ送リ居ルモ今後戰線ノ拡大ニ伴ヒ更ニ又數倍ノ出兵ヲ要スルヤモ計リ難シ斯ク多數ノ將卒カ沿海州黑龍江州更ニ進ンテハ西伯利亞奥地ニモ入ルニ當リ若シ萬一ニモ鐵道ノ連絡ヲ欠クカ如キ事アリトセハ彼等ヲシテ空シク寒

地ニ困憊セシムルノ外ナカル可シ余等カ刻下鐵道問題ヲ攻究スルノ目的モ実ニ此ノ点ニ存ス余ハ閣下ヲ信シ且貴國鐵道従事員ニ敬意ヲ表スルカ故ニ輸送上ノ事ハ全ク之ヲ閣下及閣下ノ多年訓練セラレタル従業員諸君ニ一任セントス然レトモ若シ閣下ノ従業員ニシテ不足ヲ感シ他ヨリ援助ヲ要スルカ如キ事アリトセハ余ハ其最初ノ援助ヲ日本ヨリ出サン事ヲ我カ政府ニ要求スルモ可ナリ是レ日本軍ヲ以テ主力トセル今次連合軍ノ組織ニ於テ其後方交通連絡ヲ完全ニシ戰線ニ於ケル將卒ヲシテ些カノ危惧ナカラシムルハ我等日本鐵道當局ノ義務ニシテ又當然ノ権利ナリト確信スレハナリ

ホルワット 御説御尤ノ次第ナリ余モ亦シカク信スルカ故ニ何処迄モ日本ト協力以テ我鐵道ノ事績ヲ挙ケント欲ス余ノ考ニテハ大谷總指揮官ノ下ニ數個ノ部属ヲ設ケ作戰兵站其他ノ事務ヲ分掌セシムルト共ニ鐵道部ヲ設ケ日本人及露国人ヲ以テ其事務ヲ執ラシムルモ一策ト思ハル現在我カ勢力間ニアル東清「ウスリ一」兩鐵道ノ業務ハ余カ多年訓練シ來レル従事員ニ

木下 作戰行動ノ進行ニ由ル鐵道占領問題ハ軍司令部ノ考

ニ依テ決セラル可キモノナル故ニ余ハ何等ノ意見ヲ述フルヲ得ス然シ貴説ハ之ヲ拝聴シ置ク可シ唯茲ニ我日本カ東清「ウスリ一」兩鐵道ノ經營ニ貴下ヲ中

二二 シベリア及東支兩鐵道管理ニ關スル交渉一件 二八



## 一一 シベリア及東支兩鐵道管理ニ関スル交渉一件 二八一

三五四

生等ノ企図セル大事業ニ対シ貴國ヨリ有力ナル援助ヲ与フルモ可ナリトノ御提案ハ小生ノ最モ感謝スル所ニ候御承知ノ如ク事業ノ凡テハ一二露國ノ更生ヲ熱心希望シツツアル直言セハ來援ノ準備ヲナシツツアル貴國民ノ同情ニ基クモノニ候只貴國力列國トノ関係上速カナル解決ヲ得ントシツツアル小生等ノ希望ヲ促進セシメ難キ状態ニアルハ寔ニ遺憾ノ次第ニ候モ小生ハ貴國力絶エス我々ニ有形無形ノ援助ヲ与ヘ鼓舞サレツツアルヲ確信致居候貴下ノ御懇篤ナル御申出ニ由リ小生ハ若シ出来得ルナラハ貴國力必要ナル財政上ノ援助ヲ与ヘラレ且其援助ニ関シテハ直接御助力賜ハラン事ヲ御承諾被下様御依頼申上候東清鐵道ノ現状ニ関シテハ同鐵道ハ御承知ノ如ク技術方面ニモ經濟上ニモ秩序ヲ保チツツアル我カ露國唯一ノモノニ有之米人ノ作業參加ニ關シテハ次ノ如クニ御座候革命初年ニ於テ前露國臨時政府ハ米國ト同國カ露國ニ対シテ機関車並車輛ノ多數ヲ供給ス可キ契約ヲ結ヒ申候同時ニ米人ハ我カ各鐵道ヲ視察シ作業改善ノ為メ就業ヲ申出候露國ニ対スル供給地トシテ最モ重要ナル位置ヲ占ムルハ申上クルマテモナク浦鹽斯德ニ有之然ルニ同港ニハ滯貨甚シカ

業ニ於テ露國戰線ノ復旧露國民ノ前進等ニ於テ多大ノ誤解損失ヲ招ク可ク願ハクハ与國カ速カニ其誤解ヲ一掃サレ正當ナル行動ニ出テラレンコト切望ニ不堪候終リニ臨ミ貴下ノ御健康ヲ祈リ御來書ニ対シ茲ニ繰返シ衷心ヨリ感謝ノ意ヲ表シ候 敬具

二八二 八月二十四日

田中參謀次長ヨリ  
浦潮派遣軍參謀長宛（電報）

東支鐵道等列國管理案ノ実現阻止方訓電ノ件

発送番号第二十五号

第九号報告及浦參第十号報告ノ東清及黑竜鐵道ニ關シ

東清鐵道ノ實權ヲ列國管理委員ノ手ニ握ルコトハ仮令委員長ヲ日本ノ手ニ收ムルトシテモ遂ニハ東清西部線迄モ列國ノ管理ニ帰スルニ至ルヘク畢竟スルニ「ノックス」以来ノ懸案タル滿洲鐵道ノ列國管理ノ端緒タルヘキヲ恐ル故ニ帝國軍部ノ意図トシテハ烏蘇利方面ニ多クノ鐵道要員ヲ要スル時期ナルヲ以テ米國技師團（單純ニ「ホルワット」ノ雇聘者ト見做シ別個ノ勢力ト認メサルヲ要ス）ヲハ可成烏蘇利及黑竜鐵道方面ノ運輸業務ニ誘致シ烏蘇利及東清線ハ依然「ホルワット」ノ手中ニ置キ事實上帝國軍ニ於テ其ノ実

一一 シベリア及東支兩鐵道管理ニ關スル交渉一件 二八二

二八三

二八三 八月二十四日 在浦潮木下鐵道院運輸局長ヨリ

東清鐵道等ニ關シ「ウストロゴフ」ト會談ノ件

報告第四号（写）

三五五

リシ結果西伯利亞幹線ニテ作業セシムルノ目的ヲ以テ同國人ヲ招致ス可シトスル其提案ヲ許容セル次第ニ候東清及烏蘇里線ニ於テハ「ニコリスク」「ウスリスキ」「ハニダオヘウツエ」齊々哈爾、海拉爾ノ四駅ニ「デスペツチャ」ヲ置キ運転ノ整理ニ当ラシメ本屋ヲ有スル各駅ニ指揮官ヲ配置シテ專ラ米式運転ヲ指導教示セシメ候而シテ我カ鐵道業者カ米式ニ熟達セル後ハ運転ニモ牽引ニモ米人指揮官ハ閑散トナレルハ當然ノ事ニ候然ルニ彼等指揮官ハ今日迄負担ス可キ仕事モ無キニ不拘依然トシテ各駅ニ散在シ就業致居候米人ノ数ハ精確ニハ判明不致候モ卑見ニテハ百五十名ヲ超エサルモノト計算致居候斯クノ如キ次第ニ米人技師ノ多數カ當鐵道ニ作業致居ルトノ風評ハ信スルニ足ラサルモノニ候連合軍ノ露領出兵後コノ点ニ關シ如何ナル結果アル可キヤ明言致難ク候モ米人ノ作業參加ハ多クノ場合貴政府ノ行動ニ由リ左右セラル可キモノト被存候小生等ハ外國ノ干渉ヲ俟タスシテハ到底露國秩序ノ回復困難ナリト認メ居リ從ソテ連合軍ノ到着ニ對シテハ多大ノ歎迎ヲ表シ居候只小生等ノ憂慮ニ堪ヘサルハ連合國カ露國ノ代表者ト相語ル無キノ一事ニ候此ノ結果露國援助ノ重大事

大正七年八月二十四日

木下淑夫ヨリ

中村鐵道院總裁閣下宛

將軍ヨリ聞カレタルコトト信ス今日ハ一行ヲ貴下ニ  
紹介センカ為メ一同ヲ同伴シ来レル次第ナリ

ウストルゴフ 然リ、貴下一行ニ閔シテハ己ニ「ホ」將軍  
ヨリ聞及ヘリ前夜ノ連合軍代表者會議ニテ貴下モ御

十二日午前十一時ヨリ午後一時迄約二時間客車内ニ於テ  
「ウストルゴフ」氏ト會見ヲ遂ケ申候

「ウストルゴフ」氏ハ戰前西伯利亞鐵道一部ノ長官タリ  
「ケレンスキイ」臨時政府ノ組織サルルヤ拳ケラレテ交通

次長トナリ同時ニ西伯利亞鐵道ヲ主宰シ來リタルモノニ有  
之候曩ニ「スチーヴンス」氏ノ露都ニ至ルヤ「ウ」氏ト協

調ヲ遂ケ共ニ携ヘテ西伯利亞鐵道ヲ巡視シ其結果米國ヨリ  
鐵道隊ノ來援ヲ計画シタル次ニ有之候從ツテ同氏ト「ス

チーヴンス」氏トノ間ニハ如何ナル諒解ノアルヤモ存セス  
候故ニ小官ハ差当リ同氏ニ對シテハ全然米國鐵道隊ニ閔ス

ル談話ヲ避ケ申候目下同氏ハ「ホルワット」極東政府ノ鐵  
道主任者トンテ露國鐵道ヲ代表シ連合軍代表者ト軍隊輸送

其他交渉事務ノ衝ニ當リ日々敏腕ヲ振ヒ居候同氏トノ会談  
要領大略左ノ如クニ御座候

木下 余等一行ノ使命ニ就テハ貴下ハ己ニ「ホルワット」  
現現在連合軍ニ於ケル出兵數ノ最多数ヲ占ムルノミナ  
ラス他日戰況ノ推移如何ニ由リテハ更ニ又多數出兵  
ノ要ナキヲ保セス殊ニ急速增派ヲ要スル場合ニ於テ  
実際之ヲ行ヒ得ルモノ只我カ日本アルノミ従ツテ日  
本ハヨノ際コノ特殊ノ地位ニ鑑ミ軍事輸送ニ直接関  
係アル鐵道ニ就キ予メ充分ノ講究ヲ為シ置クノ要ア  
ルハ言フヲ俟タス即チ現在ニ於ケル東清、烏蘇里鐵  
道ノ最大輸送力ハ幾何ナリヤ将来其輸送力ヲ一定標  
準ニ増加セン為ニハ如何ナル施設ヲ要スルヤ從事員  
ノ補給ニハ如何ニスヘキヤ等各方面ニ亘リ詳細ノ研  
究ヲ遂ケントスルモノナリ目下軍司令部ニ於テハ各  
國代表者會議アリ将来鐵道ノ改善ニ閔シ研究スル所  
アランモ余等一行ノ任務ハ全然之ト異ナリ別箇ニ閔  
ヲ受ケタルモノナルコトヲ記憶セラレタシ我カ政府  
ハ日本ノ特殊地位ニ顧ミ出兵問題ニ重大關係アル交  
通線路ニ閔シ充分ノ調査ヲ行ハント欲スルモノナリ  
素ヨリ余等研究視察ノ結果ハ軍司令部ニ於テ将来永  
ク連合軍代表者會議ニ出席スヘキ武内中將中島少將  
等ニモ伝フル考ナルカ故ニ間接ニ日本軍代表者ノ意

木下 每年余等一行ノ使命ニ就テハ貴下ハ己ニ「ホルワット」  
見カ余等ノ研究ニ依テ定メラルモノアルハ信シテ  
疑ハサル様ナリ

ウ氏 御説明ニ由リ貴下一行ノ使命任務ヲ充分了解セリ御

研究ハ先ツ当地ニテ或程度迄遂ケラレ更ニ詳細ナル  
研究ハ東清鐵道中央事務所所在地タル哈爾賓ニ赴カ

レ該處ニ於テ行ハルヲ便利ナリト考フ

木下 然リ余モ亦斯ク信ス今余ノ同行セルハ保線及運転ノ  
技師ニシテ尚一両日中ニ大連溝鉄ヨリ保線運転工場  
等ノ技師來着ノ筈ナリ即チ余等一行ノ研究ヲ(1)保線  
(2)運転(3)工場ニ別チ貴鐵道ノ各專門技師ニ就キ十分  
ノ研究ヲ遂ケシメント欲ス研究ノ結果日本ヨリ援助  
ヲ要スルモノアラハ夫等ニ就テハ余ハ帰朝ノ上本国  
政府ニ復命ス可ク又連合軍ノ進出其他将来計画ニ閔  
シ予メ協調ヲ要スルモノアラハ之亦篤ト協議シ置キ  
度シト考フ

ウ氏 貴意了承目下露國鐵道ニ於テハ當地ニ鐵道輸送地方  
委員会ヲ設ケ「モイシーフ」氏ヲ委員長トシテ執務セ  
シメ居ル故ニ御同行ノ技師諸君ヲ同氏ニ紹介スルコ  
トトスヘシ同所ニ於テ夫々各専門技師ニ就キ御調査

一二 シベリア及東支兩鐵道管理ニ閔スル交渉一件 二八三

一一 シベリア及東支兩鐵道管理ニ関スル交渉一件 二八四

三五八

アランコトヲ望ム尚令後ノ軍事行動ニ連レ黒竜江及

後貝加爾鐵道モ貴國ノ援助ヲ乞フ可キモノ多カル可

キカ故ニ是等ニ就テモ御研究アランコトヲ望ム云々

斯クテ小官等一行ハ「ウストルゴフ」氏ニ別レ直ニ前記鐵

道輸送地方委員会ニ至リ右専門技師タル「モイセーフ」氏

並ニ「ワシリエーフ」氏ニ面談致候大村、石田兩技師ハ昨

日ヨリ「モ」「ワ」兩技師及同技師「オッフェンベルブ」

氏ニ就キ調査ニ着手致候

「ホ」將軍「ウ」氏其他ニ対シテモ小官ノ此際最モ努ム可

キハ日本側ニ於テハ是等諸氏ヲ信頼シテ鐵道經營ヲ托スル

ノ意アルコトヲ知ラシメ同時ニ今回調査ノ必要ヲ感シタル

理由ヲ十分説明シ其間些ノ誤解ナカラシムルニアルヲ信シ

是等ノ点ニハ充分ノ注意ヲ払ヒ居候即右応答ノ外日本側ニ

於テハ實際必要ナル援助ニ就テハ全力ヲ傾注ス可キ鐵道

經營自体ニ関シテハ軍事輸送ニ差支ナキ限り何等干渉ノ意

志ナキコトヲ充分ニ申置候 敬具

二八四 八月二十五日 在浦潮木下鐵道院運輸局長ヨリ

東支鐵道問題ニ關シ「スチーヴンス」氏トノ

会談要領報告ノ件

三五九

報告第六号 (写)

大正七年八月二十五日

浦塩斯徳ニ於テ

木下淑夫

中村鐵道院總裁閣下

拝啓小官ノ当地出張ニ關シテハ當地滯在ノ米國鐵道隊先任

官「ラントリー」中佐ヨリ其旨「スチーヴンス」氏へ報告

セシ事ハ先便ニモ一寸申上候如クニ御座候カ「スチーヴン

ス」氏昨夜深更來浦候ニ付本日午後同氏ト會見致候右会談

要領左ニ御報告申上候

最初小官ヘ今回當地出張ノ任務ヲ簡単ニ説明シ今後種々協

議スル事アル可キヲ告ケ先ツ差当リ東清「ウスリー」兩鐵

道ノ現状ニ就キ調査中ナルモ東清鐵道係員ノ説明要領ヲ得

サルト数字ノ如キモ説明者ニ由リ一致セス困難ヲ感シ居ル

旨申述候

(会談要領)

スチーヴンス氏 東清鐵道狀況調査ノ困難ナルハ余モ又經

驗スル所ナリ實際其職員ヨリ自己鐵道ニ關シ充分ノ

要スルナルヘシ

木下 貴說ノ如クンハ鐵道管理上ニモ兵力ヲ要ストノコト

ナルカ曩ニ東京政府カ貴國政府ノ出兵案ニ對シ回答

ヲ与フルヤ貴國政府ハ稍制限的ノ意向ヲ以テ之ニ回

答セリトノ事ニモ聞ケリ本件ニ對スル貴意如何

ス氏 連合軍カ此ノ際急速強大ナル出兵ヲ要スルハ當然ノ

事ナリ「ワシントン」政府ハコノ点ニ關シ大ナル誤

解ヲ有ス「チエック」軍及西伯利亞住民救援ノ為ニ

ハ單ニ浦港出兵ヲ以テ止ム可キニアラス目下中部西

伯利亞ニ於テハ「イルクツク」「チエリヤビンス

ク」並「チューメン」附近ノ間「チエック」軍ニ占

領サレ鐵道及多數ノ車輛モ其ニ属ス然カモ「バイ

カル」以東ニハ數万ノ独塊捕虜アリ北滿洲トノ連絡

ヲ断ツ從ソテコノ際強大ナル軍隊ヲ滿洲里ヨリ突出

セシメ「イルクツク」ヲ救フハ人道上最モ必要ナル

事項ニ屬スト思ハル我鐵道員タル「エマーソン」

大佐ノ如キ今春「ヴォルゴダ」ニ米國大使ヲ訪ネン

トシテ「オムスク」附近迄赴キタルモ遂ニ其目的ヲ

果ス能ハス途中ヨリ引返シテ目下「チエック」軍ト

共ニ「イルクツク」附近ニアリ尤モ同大佐ヨリハ久シキニ亘リ音信不通ナリシモ最近「イルクツク」ヨ

リ南方三百哩蒙古方面ノ某地ニ特使ヲ派遣シ電報ニ

由リ漸ク其消息ヲ我等ニ伝ヘタル次第ナリ而シテ是等「チエック」軍ノ占領地域ハ長区間ニ亘ルモ守備

頗ル薄弱ナレハヒト度歐露方面ヨリ独壇勢力ノ東漸スルニ於テハ容易ニ破碎セラル可キハ明白ナリ是等

「チエック」軍ヲ救援シ沿道露人ヲ救助シ又鉄道及車輛ヲ安全ニゼン為メニモコノ際急遽「イルクツク」方面ニ出兵スルヲ要ス

如斯中部西伯利亞救援ノ意味ヨリスルモ東清鉄道從事員ヲ忠実ニ服役センムル上ヨリスルモ連合國ハ此

ノ際大出兵ヲ為スノ必要アルハ素ヨリ之ヲ争フノ余地ナシ余ハ客年十二月中旬頃ヨリ出兵ノ要ヲ説キ是

カ為メ数千弗ノ電報料ヲ支払タルモ我ガ政府カ未タ充分其真意ヲ解セサルカ如キハ遺憾ニ不堪然レトモ

今回ノ浦港出兵カ多少ソノ結果ニモアレハ又満足不可キノミ（斯ク言終リテ同氏ハ呵々大笑セリ）

詳細ナル数字ハ「ジョンス」中佐ニ就テ之ヲ聞カン

木下

聞ク処ニ拠レハ当地ニ千数百輛ノ貨車材料哈爾賓ニ百余輛ノ機関車材料アリド是等ハ目下如何ニナル居ルヤ

ス氏

然リ哈爾賓ニ組立未了ノ機関車百余輛アリ是ハ「デカボット」型ナリ目下我ガ米国技師十二名ヲ送リ督励シテ組立ニ從事セシメ居レリ當地ニ貨車材料ノ多

數アルモ亦事實ナルモ今茲ニ其数量ヲ記憶セス（ス氏ノ談「ホルワット」將軍ノ語レルモノト一致ヲ欠キ又在哈爾賓ノ機関車ニ閑シテハ「ラントリー」中

佐ハ「コンソリデーション」型ナリト謂ヒ「ス」氏ハ「デカボット」ナリト謂フ是等一致セサルモノニ就キテハ詳細調査ヲ遂ケ御報告申上ク可シ）満鉄ニハ多數貨車アルカ割讓シ得可キヤ

木下 満鉄ニ於テモ車輛ハ目下ノ處余裕ナク寧ロ不足シ居ルノ状況ナリ然レトモ非常ノ場合ニ立至ラハ相当考慮シ得ヘント信ス蓋シ輸送貨物ノ一部ハ沿道住民ノ必要品タル食糧品ト異レルヲ以テ多少調節ノ余地アレハナリ

ス氏 哈爾賓長春間ヲ「スタンダードゲージ」ニ改築スル

一二 シベリア及東支西鉄道管理ニ關スル交渉一件 二八四

モ幸ヒニ大局ヨリ見タル輸送上ノ貴意ヲ知ルヲ得ンカ

運用ニ就テハ大ニ之ヲ改善セサル可ラス又從事員モ忠実励精ナラシムル必要アリ例ヘハ浦鹽斯德ト国境

駅タル「ボグラニーチナヤ」駅間ニ於テ余カ調査セシメタル処ニ由レハ約六百輛ノ貨車無益ニ滯泊シ居

レリ旅客列車ノ如キモ哈爾賓浦鹽間ノ如キ其弊最モ大ナルモノニシテ距離合計僅カニ四百八十八哩ニ過

キサルニ駅ノ停車時間ノミニテ合計八九時間ニ達ス

名モナキ小駅ニ二三十分ノ停車ヲ為スカ如キハ余等ノ殆ト解スル能ハサル所ナリ機関車乗務員ノ如キモ

乗務者頗ル多ク然カモ頗ル不經濟ナル運転ヲ為シ石炭及蒸氣ノ浪費ヲ為ス大ナリトス其修繕ニ当リテモ

其期間頗ル長ク例ヘハ「タイヤ」ノ入換ノ如キ我等カ僅々二日間ニテ終ル可キ六週間ノ長時日ヲ要ス

又以テ其一班ヲ知ルニ足ル可シ即チ是等運輸修繕等各方面ニ向テ根本的改善ヲ試ムルニ於テハ鉄道輸送ハ著シキ増大ヲ見ルニ至ラン

木下

ニ於テハ輸送上ノ利便ヲ増進シ東清線車輛ノ不足ヲ一部救濟スルヲ得ンカ

至極適切ナル御意見ナリ余モ同感ナルカ此ノ問題タ

ル單ニ戰時ニ於テノミナラス平時ニ於テモ必要ナリト考フ軍事行動ノ變化ニ從ヒ万一千急速之ヲ実施スルノ必要アルニ至ラハ貴下ノ賛同ヲ乞フ可シ

ス氏 然リ工事ハ約二日間ニテ終了シ得ヘント信ス

木下 貴下ハ東清鉄道ニ対スル這般ノ交渉ヲ何人ヲ中心トシテ行ハルルヤ

ス氏 「ウストルゴフ」氏ナリ彼ハ東清鉄道唯一ノ人物ナリ「ホルワット」ハ政治ニノミ没頭ス

木下 連合軍ノ前進ニ連レ敵ハ退却ノ際橋梁其他ノ建造物ヲ破壊スルナランカ之力修復ハ東清鉄道職員ノミニ

テ為シ得ル見込ナリヤ

ス氏 修膳ノ程度ニ由ルモ大修繕ハ到底覚束ナシ

木下 貴鉄道隊中ニハ此ノ方面ノ技師ヲ有セラルルヤ

ス氏 然リ多少ヲ有ス（「ラントリー」中佐ノ語ル処ト異

レリ「ラ」中佐ハ此方面ノ技師ヲ有セスト語レリ）

コハ余談ナルカ黒竜江ニハ世界大鉄橋ノ一アリ是等

三六一

ヲ保護セんニハ日本ハ先ツ軍艦ヲ以テ直チニ「ハバロフスク」ヲ衝クノ要ナキカ尤モ余ハ軍人ニアラス

從テ勿論素人ノ突飛ナル考ニ過ギサランモ只之ヲ実施セン為ニハ結冰期ニ先立チ即チ今日直チニ着手セ

サル可ラスト思フ

木下 妙案ナリト考フ但シ余ハ黒龍江カ目下幾何ノ航通力

ヲ有スルヤヲ知ラス兎ニ角当局ニ話置ク事トゼン

右ノ外「スチーヴンス」氏ハ「ペーリング」海峽鐵道ノ差當リ見込無キ事ヲ語リ「アラスカ」ニハ鐵道アレトモ他ノ

鐵道系統ト連絡ヲ欠ク斯ル地方ニ莫大ノ資ヲ投スルニハ未タ其時期ニアラサル可ク若シ連絡鐵道ヲ敷設ストセハ「トンネル」ニ由ルナランモソハ永キ後ナルヘント説明致候

又「デスペツチャーシステム」ニ閑シテハ目下実施中ナル旨語リ候モ右ハ先使申上候「ラントリー」中佐ノ言ト全ク一致居候

同氏ハ当地ニ猶數日滯在ノ筈ニ候小官モ同様ノ予定ニ付再会ヲ期シ今後共同作戦ノ目的ヲ遂ケン為メ鐵道問題ニ就テモ互ニ協調ヲ執リ相互ニ誤解ヲ招クカ如キ事無カラシコトヲ懇談シテ相別レ申候

敬具

### 東支鐵道ノ列國管理問題ニ付日本側ノ態度表

#### 明ノ件

#### 浦參第五九号(舞鶴經由至急)

本日「ホルワット」ハ鐵道代表者ヨリ東清烏蘇利兩鐵道ハ從来總テ「ホルワット」ノ指揮下ニ於テ統一運行セラレア

リ從テ軍事輸送亦統一ノ必要アリ依テ東清鐵道モ當地鐵道陸軍委員ノ指図ノ下ニ運行セン等ヲ提議シ各國代表悉ク同意セシモ予テ御來電ノ趣モアリタルコト故中島ハ軍司令官ノ指揮區域ノ關係ヲ理由トシ体好ク断ハリタルニ各國代表者ハ稍々意外ノ様子ナリキ

将来日本軍「チエック」軍滿洲里方面ノ策動ニ伴ヒ連合軍モ亦該方面ニ増加スヘキハ避ケ難キ趨勢ナルモノノ如シ而シテ連合軍ハ依然浦潮ヲ根拠トシ沿海後貝加爾兩方面ノ歐米國軍ハ「ジャナン」「グレーブス」「ノックス」等ノ内ニ

於テ統一スルコトトナルヘシ然ルトキハ列國軍ハ指揮ヲ異ニスル日本國司令官ノ命ヲ受ケサルヘカラサルコトトナリ又指図ヲ異ニスル鐵道ノ下ニ輸送セサルヲ得サルニ至リ甚

タ複雜ヲ生スヘシ加之(脱)軍司令官ハ浦潮「ハバロフスク」間二百里ニ亘ル連合軍ヲ指揮セサルヘカラサルト同時ニ追々列國軍隊指揮官及其最高外交官モ当地ニ來リ軍事外交ノ枢軸ヲ成形スヘシ從テ軍司令官ノ当地ニ在ルコト益々重要トナルヲ疑ハス又指揮上ニ於テハ要スレハ特別列車ニテ急行シ且ソ満洲里當地間ノ直通ノ二電線ヲ設クレハ敢テ差支ナカルヘシ故ニ将来ハ連合軍總司令部ヲ当地ニ置キ一軍司令部ヲ「ハバロフスク」方面ニ他ノ一軍司令部ヲ「チタ」方面ニ出シ之ヲ當地ノ連合軍總司令ニテ統一セシムルコト列國對日本ノ軍事配當上彼是レ便利ナリト考フ御詮議アリタン目下列國軍側ニモ日本軍カ列國軍ヲ指揮スル二個ノ司令部アリテ統一セラレサルヲ妙ニ感スルモノモアリ一考アリタシ

二八六 八月三十日

(在浦潮由比參謀長ヨリ  
田中參謀次長宛(電報))

### 鐵道統轄機關ノ所在地ヲ浦潮トスルノ要アル

#### 旨具申ノ件

往電第二四号鐵道統轄機關ヲ置カルルコトハ至極同意ナリ

一二 シベリア及東支兩鐵道管理ニ閑スル交渉一件 二八六

二八七 八月三十日

(在浦潮菊池總領事ヨリ  
後藤外務大臣宛(電報))

### ウスリー東支兩鐵道管理問題ニ閑スル米國提議ニ對シ日英仏露諸國反対並軍事輸送委員会

二八七

二八七

三六三

## 設置ノコトニ協定ノ件

第五一三号

松平政務部長ヨリ 第一五号

貴電第六号ニ閔シ軍司令部ヨリ參謀本部へ既ニ報告済ニ付  
本官ヨリ電報セサリシカ御電訓ニ依リ本件担任中島少将ニ  
就キ確メタル要領左ノ通リ

往電第六号米國覺書ハ各國指揮官ニ提出セラレタル結果鐵  
道會議前仏英代表武官各別ニ中島少将ヲ來訪シ等シク米國  
鐵道班ヲシテ露國ノ鐵道ニ對シ技術的援助ヲ与ヘシムルハ  
差支ナキモ其運転ヲ管理セシムルハ米國勢力ヲ露國鐵道ニ  
扶殖セシメ之ヲ掌裡ニ取ムルノ野望ヲ達セシムルノ虞アル  
ヘシトノ趣旨ヲ述ヘタルニ對シ中島少將ハ之ニ同意シ日英  
仏共同シテ米國カ右經營ニ手ヲ染ムルヲ防止スルニ努力セ

ンコトヲ約シタリ八月二十一日各國代表武官及露國鐵道代  
表者会同米國提案ニ閔シ商議シタルニ日英仏各代表者ハ前  
頭ノ如ク話合済ミノコトトテ米國ノ提議ニ不同意ヲ唱ヘ露  
國代表者「ウストロコフ」「ホウヘンブル」モ露國鐵道ノ  
内部ニ外國人ヲ加フルコトヲ好マサル旨ヲ明言シ結局軍事  
輸送ノ整理ヲ計ル為メ列國代表武官及露國委員ヨリ成ル軍

事輸送委員会ヲ設置シ該委員会ヲ更ニ陸軍班技術班ニ分チ  
技術班ハ露國委員之ニ當リ陸軍班ノ要求ニヨリ列車ノ運転  
工事等ヲ担任シ該班ハ鐵道長官ノ令下ニ立ツコトトナレリ

然ルニ米國委員ハ米國鐵道班ヲ陸軍班ノ下ニ置キ技術班ヲ  
米國班ノ下ニ置カソコトヲ提議シタルモ會議ニ於テ否決セ  
ラレ同委員ハ強テ之ヲ主張セサリン由ナリ

尚米國技術者ヲ露國鐵道工場ニ入レ露國側ノ力ノ不足ヲ  
補助スルコトニ閔シテハ同會議ニ於テモ別ニ異議ナク又日  
本鐵道隊ヲ鐵道ノ修理ノ為及戰場附近ニ於テ使用スルコト  
ニ付テハ各國共同意セル由ナリ然ルニ目下當地ニ在ル米國  
鐵道班ハ運輸吏員ノミニシテ技術上ノモノナキ由ニテ今尚  
鐵道業務ニ從事シ居ラス

二八八 九月三日

後藤外務大臣 在本邦米國大使會談

滿洲里派兵、出兵增加西比利亞及東支兩鐵道  
管理等ノ諸問題ニ閔スル件

附屬書 九月三日附在本邦米國大使館ヨリ日本外  
務省宛覺書

シベリア及東支兩鐵道ニ對シ「ステイ

事業、避難者救濟、一般物資供給等ノ如キ各般焦眉ノ急  
務ヲ遂行センニハ運輸機關ノ改善ニ俟タサルヘカラス然

ルニ西伯利亞鐵道等ハ憐ムヘキ現状ニアリ之ヲ打捨テ置

クノ不利ナル喫々ヲ要セサルトコロトス偶米國鐵道技師  
ノ該地方ニ在ルアリ同技師等ハ長距離鐵道ノ運用ニハ予

テ經驗アルモノニシテ直チニ鐵道改善ニ有効ニ着手セシ  
ムルヲ得ヘク唯タ同技師等ハ之ヲ為スノ權限ヲ有セサル

カ故ニ今日徒ニ拱手傍観スルノミ之連合側ニトリー損失  
ト称スルヲ妨ケス極メテ愚ナルコトス米國政府ニ於テ

ハ「ステイvenss」氏カ嘗テ巴奈馬運河ニ閔シテ万般ノ  
管理經營ヲ為スノ權限ヲ有シタルカ如クニ此等鐵道ニ對

シ帝國政府ノ之ニ対スル意向ヲ知ラント欲スルモノナリ  
大臣ハ之ニ答ヘテ木下運輸局長ヨリノ報告ニ依リ同局長

「ステイvenss」氏間ノ關係極メテ円滑ノ模様ニシテ同局  
長ヨリモ亦日米共同交通機關運用ノ時宜ニ適セルモノナリ  
コトヲ稟申シ来レルモ茲ニ考量セサルヘカラサルハ他与国  
ノ意見ナリトスト述ヘラルルヤ大使ハ

答ナリト答ヘラル

転シテ米國大使ハ本日會見ヲ求メタル主要問題ハ之ナリト

テ在西伯利亞米國鐵道技師ヲシテ西伯利亞鐵道及支那境域  
内東支鐵道ヲ管理運輸セシメントノ提案ニ付テ左ノ通説明

ス

在西伯利亞連合与國軍事行動ハ勿論之ヲ例スレハ赤十字

一二 シベリア及東支兩鐵道管理ニ閔スル交渉一件 二八八

傭セラレ居ルモノシテ同技師ノ勤務ハ米國ノタメニアラス露國ノ為ナリ即チ同技師ハ「ケレンスキ」政府時代ニ成立セル契約ニ由リ露國ニ來レルモノシテ今日ニ至ル迄同一行ニ関スル諸費用ハ全部在華盛頓露國大使ノ仕払ニ係リ米國ノ負担ニ非サルノ事実ハ他与國ニ對スル好簡ノ説明ニシテ合衆國政府ハ他与國ヲシテ之ヲ諒解セシムルヲ得ヘン本提案ハ露國內何レカノ党派ノ為ニアラス実ニ露國民ノ為ニナスモノナリ

ト弁シ右ニ引続キ大臣ヨリハ諸鐵道荒廢ノ現状露國人ノ米國式經營法ニ從フニ意ナキコト又大使ヨリハ露人間ノ信用ニ関シ夫々談話アリ大臣ヨリ在浦塙連合軍事會議ノナセル鐵道管理ニ關スル決議ニ付語ラルルトヨロアリ實際上鐵道關係技術者ヲ派シ居ルハ日米兩國及英國(極メテ少人数)ナルカ他与國ニモ意見アリ本件ニ對スル意見必スシモ一致シ居ラサル旨ヲ説カルルヤ大使ハ右ハ議ニ与ルモノ多キカ為ニシテ已マラ得サルトヨロナルカ技能ナキモノハ如何ニシテ實際上運輸ヲ改善スルコトヲ得ンヤト熱心ニ本提議ヲ支持シタル後右ニ關スル覚書ヲ大臣ニ手交シ問題ノ性質上急速帝國政府ノ決定ヲ知リ度ニテ述く大臣ハ急速慎重審議

ノ上回答スくシト約サレタリ  
次ニ大臣ヨリ英仏伊諸政府向レモ「ハイ、ローマンシナル」ト称スベキモノヲ任命派遣シ其一人ナル「ルニモ一ト」語ラレタル上帝國政府ニシテ若シ英仏伊三國政府ノ為ストヨロ軌ワニセンカ将来右三政府ノ意中ニアル西伯利亞干渉問題ニ關連シ同政府等ト其行動ヲ一ニセサルヲ得ナルナキヲ保セス一方日本ハ米國トノ協調ヲ完全ニ維持セン決意ナレハ此間帝國政府ニ於テ「ハイヨミツショナー」ヲ任命シタルカ為混雜ヲ惹起スルカ如キハ全然杞憂ニモアラサルベケレハ先ツ本件ニ關スル米國政府ノ意見ヲ知ラント欲シ石井大使ニ訓令シ置キタリ大使ニ於テモ右帝國政府ノ意ノ存スルトヨロヲ諒解サレタシト説カレ大使ハ右ハ單ニ閣下御懸念ノ通リ日本ニ取リテノ問題タルニ止ラス米國ニモ亦攻究ヲ要スル問題ナリ赤十字、基督教青年会、活動写真應用露國人啓發講演等軍事以外米國ノ事業多岐ニ亘レルニ顧ミ必要ヲ認ムルニシキ早速本国政府ノ注意ヲ喚起スベシト答<sup>タリ</sup>  
(附屬書)

九月三日附在本邦米國大使館ヨリ日本外務省宛覚書  
シベリア及東支兩鐵道管理ヲ「スホイークンベ」鐵道班ニ移スコト同意方申出ノ件

#### Memorandum

As is known to the Imperial Japanese Government, the members of the railroad units under the supervision of Mr. Stevens are the agents of the Russian people and are being paid and supported by their Ambassador in Washington from funds belonging to the Russian people. It is felt by the Government of the United States that complications would be avoided and that the best results would be attained if Mr. Stevens, for and in behalf of the Russian people, were to have general direction of the Trans-Siberian Railway and its branches, and those parts of the Chinese Eastern Railway and its branches which lie within Chinese territory.

Some members of the Commission, chosen by the Chinese Government in consultation with Mr. Stevens, should have the management, in coordination with other members of the Commission in charge

under the general direction of Mr. Stevens. If this plan were adopted, it would be the duty of Mr. Stevens and the members of the Commission to serve the requirements of the military forces. It would also necessitate the displacement of Horwath and old Russian agents while the roads are being thus used by the military forces. As the preservation of Russian interests and the success of the expedition in aid of the Czechs are primary considerations of the Government of the United States, it would welcome the cooperation of the Imperial Japanese Government in arranging that the railways mentioned be thus operated by the engineers chosen by the last recognize Government of Russia, and in furthering the efforts of these engineers to take charge of the lines, to put them in as good working order as possible, and to operate them, during the military occupation, subject to the requirements of the military forces.

Tokyo, September 3, 1918.

(續外註記)

111 ハマラア及東支兩鐵道管理ニ關スル交渉一件 1188

一一一 シベリア及東支那鉄道管理ニ関スル交渉一件 一一八九

三一六八

一一八九 九月五日

田中參謀次長ヨリ  
浦潮軍參謀長宛(電報)

浦潮臨時鉄道委員会ノ權能ヲ東支鉄道ニ及ズ

スマート反対ナル旨回示ノ件

第七十四号

東清鉄道ヲモ浦潮臨時鉄道委員会ノ勢力下ニ統一スルヲ有利トスルノ御意見ナルモ當部ハ為シ得ル限り連合与國勢力

ノ西漸ヲ防遏シ東清鉄道(将来ハ後貝加爾鉄道モ同様)ノ國際化ヲ全然分離セシメ臨時鉄道委員会ノ權力ヲ成ルベク

狹ク烏蘇里地方ニ極限スルヲ最必要ナリト信ス其理由ムシテハ左ノ如ク主張スルヲ可ナリト考フ

帝国ノ後貝加爾方面ニ使用スル兵力ハ列國ニ數十倍ス而シテ其命脈ハ一ニ東清鉄道ニ懸ルカ故ニ該鉄道ハ飽ク迄日本(若シ支那力多クノ兵ヲ出ス場合ニハ日支)ニ於テ其優先

權ヲ保持スル必要アリ若シ該鉄道ニシテ浦潮鉄道委員会ノ權力下ニ移リ一々列國ノ制肘ヲ受クルコトアリカ我軍ノ

保持上大ナル不便ヲ感セスンハアラス此ヲ以テ帝国ハ列國軍ニ対シ其輸送ニ不便ヲ感セシメサル保証ヲ与フルヲ条件

(附 節)  
ラーンコトヲ切望ス

「本電報ハ九月三日大谷大將發總長宛左記電報ニ對スル返

電ナリ

九月三日午後四時發浦參第九八號

一、連合國ハ軍事輸送ニ要スル費用ヲ露國ニ支払フコトニ

異議ナシ

日本ハ前渡金百万円ヲ「ホルワット」ニ支払フコトニ決

定セリ

「当鉄道委員会ノ權能ヲ東清鉄道ニ及ボスコトニ決定」

ク」

一一九〇 九月五日 グレイヴス米國派遺軍司令官ヨリ

ハグニア及東支那鉄道ノ管理ニ關ハ申由ヘ件

(Copy)

WAR DEPARTMENT,

HEADQUARTERS AMERICAN EXPEDITIONARY

FORCES SIBERIA

Vladivostok,

5th September, 1918.

My dear General Otani,

It is reported to me that at the meeting of the Railroad Committee on September 3rd General Nakajima announced that you as Commander-in-Chief of the Allied Forces in Siberia, as a matter of military necessity, have taken over the operation of all railways including those of Manchuria and the Trans-Baikal region.

I request to be informed whether General Nakajima has been correctly quoted and, if so, to be informed to what extent the operation of the railroads is affected, and also that I be furnished with a copy of your orders taking over the operation of the railways.

It is also reported to me that announcements were made at the same meeting of the Railway Committee that the Railway Administration desired 5,000,000 yen advanced for its immediate needs, and that Japan would deposit one million yen in the

Russo-Asiatic Bank to the credit of the Railway Service, and that the question was asked what the United States would do in the way of making a similar advance. I have no authority to commit the United States in such matters. I believe, however, that the military requirements make it necessary to make improvements in the railway service. In order that I may be able to fully present the facts to my government, I request that I be given as much information as is practicable as to the specific objects for which this money is to be expended, and the means proposed to insure that expenditures are made in accordance with approved objects.

In connection with the management, repairs, and operation of the railway, I beg to invite attention to the fact that the Kerensky government, which is the latest Russian government to be recognized by the Allied, employed and brought to Russia a number of the most experienced railroad men in the United States. These men are still here, many of them are available for use in rebuilding and operating the railway. It seems to me in every way advi-

sable to make use of these railway experts, as I assume there can be no question as to their efficiency.

I would be pleased to have a reply as soon as practicable, in order that I may be in a position to submit the question propounded by General Nakajima to my Government.

Very Sincerely,

(signed Wm. S. Graves.

Major General, U.S.A.  
Commanding.

To;—  
General K. Otani, Imperial Japanese Army,  
Commander-in Chief, Allied Armies, Siberia,  
VLADIVOSTOK.

一一九 一 九月五日 在米國石井大使（ヨリ） 後藤外務大臣宛（電報）  
ハベリア鐵道管理問題ニ關ハシムハグ國務  
長官ト意見交換ノ件

第四九五号

九月四日夜或ル晩餐会ニ於テ國務卿ヨリ今回在日本米国大

米國委員ノ一行ハ露國傭聘者ニシテ引続キ露國ヨリ俸給ヲ受ケ居ルモノナレハ之レニ鐵道事務ヲ委任スルハ全然外国人ノ形式ヲ脱シ日下ノ場合露國民ノ感情ヲ顧ル点ヨリ最モ得策ナルベシト熱心ニ語レリ之ニ対シ本使ハ委員長「スチーヴンス」カ本野子爵ニ与ヘタル書面中ニ露國カ独擅ト单独講和ヲ遂クル上ハ米國ハ鐵道援助ヲ撤回スベシトアリシヲ記憶ス此点ノ為メカ我政府ハ勿論在浦塙与國官憲ハ在浦塙米國鐵道委員ヲ以テ單ニ露國ノ使用人ト見做サス一種ノ米國代表機關ト見做シ居ルモノノ如シ且東部西比利亞鐵道ハ日本ノ血ノ漂ヒタル地方ヲ通過スル事實及義ニ「ノックス」中立提議ノ行懸等ノ事実ニ鑑ミ日本ニ執リテハ重要ナル歴史的關係ヲ有スルコト御承知ナルベク該鐵道ヲ此際米國鐵道委員ノ管掌ニ帰セシムルト仮定セハ所謂惡感情ナルモノハ必然日本國民ニ起ルベシ貴官ノ所謂惡感情ハ露國人カ又ハ米國人カ何レナリヤラ知ラサルモ露國人トスレハ既ニ領土迄占領セラレタル露國人力領土内ニ在ル鐵道線ヲ占領セラレタリトテ別段ノ惡感情ヲ起スヘキ理由ナカルベク又米國人トスレハ接壤國間ノ特殊關係ヲ認ムルニ客ナラサル貴國政府及公衆カ我誠意ヲ疑ヒテ惡感情ヲ起スノ理由諒

使ニ浦潮ノ出張ヲ命シタリ右ハ英仏ノ如キ委員ヲ派スルノ意味ニ非ズ委員ヲ派セザル決心ナル事ハ英仏政府ニ回答シタル通リナルガ日下浦潮ニハ種々ノ問題アルニ付実地調査ノ上意見ヲ上申セシムル為メ特ニ出張セシムル次第ナリト云ベリ次テ國務卿ハ本日接手セル在浦潮米國領事ノ電報ニ依レハ日本軍ハ鐵道ヲ占領シツアリトアリトアリトスレバ bitter feeling ヲ起サシムベク日本政府ノ為ミニモ不得策ナルベシト語レルニ付本使ハ本使ノ接シタル最近ノ電報ニハ然ル事項無シ却テ米國代表武官ヨリ鐵道管理ヲ米國鐵道班ニ托セラレタシトノ提議アリタルカ右ハ武官會議ニ於テ成立セサリシ旨ノ電報ニ接セリト答ヘタルニ國務卿ハ尚ホ熱心ニ語リ続ケントスル模様アリシニ付本使ハ該問題ハ頗ル機微ニ亘ル点モアルニ付明朝面会ノ上意見ヲ交換シ度シト述ヘ一先ツ談話ヲ打切りタリ今朝面会スルヤ否ヤ國務卿ハ大統領ハ日本軍鐵道占領ノ報ニ接シ甚タ憂慮シ居リ只今モ電話アリタル所ナリト前置シ米國鐵道委員一行カ現ニ浦潮ニ在ル以上ハ鐵道運輸事務ヲ挙ケテ是レニ委スルハ最モ自然ノ事ナルベキニレバ排斥シテ日本軍占領ノ下ニ置クカ如キハ非常ナル悪感ヲ起サシメザルヲ得ズ

在欧洲各大使へ転電セリ

二九二 九月七日 在本邦米國大使会談 後藤外務大臣米國大使会見録

(大正七年九月七日)

- 一 出兵増派通告ニ関スル件
  - 一 米大使館附武官ノ參謀本部ニ於テ為セル談話ニ
  - 一 関スル件
  - 一 東支鐵道管理交渉ニ関スル件
  - 一 ハイコミシヨナー任命反対ノ件
  - 一 米国大使浦塩出張ニ関スル件
  - 一 ブラード同行者ノ件
- 午前十時求メニ依リ米国大使來訪ス大臣ハ石井大使來電ニ  
基キ本月三日同大使國務長官會談ノ模様ヲ叙シ米国大使ニ  
何等電報ナカリシカヲ質問セラル米国大使ハ「トランスポ  
ーテーション」云々ハ自分ニモ初耳ナリ又増派通告ニ對シ  
本国政府ヨリ何等電報ナシ但シ本日閣下ニ御話セント用意  
シ来レル別添覚書ノ如ク本国政府ハ本使ノ浦塩出張視察ヲ

命シタルコソ間接ニ此間ノ消息ヲ語ルモノカト思惟ス」ト  
テ覚書内容ヲ語リ次ニ大臣ヨリ大使館附武官參謀本部ニ  
於テ米国政府ノ意見ト認メテ差支ナシトナセル「ハバロフ  
スク」「カラムスカヤ」兩方面軍事行動必要説ニツキ大使  
ニ於テ何等知ルトコロナキカラ尋ナラレタルニ大使ハ「右  
ハ承知セス又前述ノ如ク浦塩出張ヲ命シタルハ該地方ニ於  
ケル実情ニ関シ詳細ノ報告ヲ得ントスルモノニシテ大統領  
予テノ慎重ナル態度ニ顧ミ米国政府ノ方針ハ本使復命ヲ待  
チテ而シテ後決セラルヘキモノト推測セラル」ト答フ  
東支鐵道管理ニ関シ米国政府ヨリ在米支那公使ヲ通シテ支  
那政府ニ對シテ交渉アリ支那政府ハ日米兩政府ノ感情ヲ慮  
リ先ツ日本政府ノ意向ヲ確ムヘキ旨ヲ回答シタリトノ新聞  
電報ト過日米国大使提出ノ同鐵道管理ノ議トハ何等關係ア  
リヤ大使ニ於テ之レニツキ語ルコロアラハ幸甚トノ大臣  
ノ質問ニ對シ大使ハ「右ハ承知セス又之ヲ信憑スヘキ報道  
ト認メス或ハ國務長官在米支那公使問ニ東支鐵道改良ニ關  
スル談話位ハ之ナカリシヲ保シ難ク其事実カ例ノ所謂北京  
電報式ニ支那側ノ為ニ誇張サレタル報道トナリタルナラン  
カナレトモ何等事實上ノ根拠ナシト思考ス」ト述フ

大使ハ更ニ浦塩方面視察ノ有益ナルヘキコトニツキ又大臣  
ハ日本軍「ハバロフスク」入市ノ報ニツキ更ニ之ヲ確実ニ  
スルニハ送兵ヲ要スヘキ旨ヲ述ヘラレ大使ハ大臣予テノ談  
話ノ「カムスカヤ」占守必要論ハ之ヲ充分領解シ大体大臣  
ノ所説ハ大使ノ所信ニ近ク浦塩方面視察ニ當リテモ大臣ノ  
所説ニ付テハ同情的攻究ヲナス考ナリトノ意ヲ述ヘ米国政  
府ノ「ハイ、コミシヨナー」任命ヲ好マサルハ思フニ此種  
委員ノ任命ハ列国会議ノ如キモノヲ造ルノ俑トナリ既ニ混  
雜セル地方ノ政況ニ更ニ混雜ヲ惹起スルモノナルヲ憂フル  
カ為ナルヘク自分ノ考ニテハ米国政府ハ從來帝国政府力執  
ラレタル慎重ナル態度ヲ多トシ居ルコト疑無ク今後ト雖モ  
引続キ日米兩國ノ協調ヲ完全ニ維持シ露國ニ對スル政策ヲ  
決セントスト謂フヲ妨ケス今次浦塩出張ノ如キ其訓令ニ在  
ルカ如ク大使ノ報告ハ國務長官石井大使間論議ニ對スル資  
料トナルモノニシテ茲ニ日米兩當局者ハ精確ナル報道ニ依  
リテ議ヲ完カラシメントノ素志ノ一反映ト謂フヘク日米兩政  
府双方ニ此態度アルハ憚フヘシ云々ト弁シタリ次ニ大使ハ  
今回ノ旅行ニツキ世上ノ誤解ヲ予防センカ為同大使ハ近々

二九三 九月七日 在本邦米國大使浦塩出張ニ關スル本國政府ノ  
訓令ニ付通報ノ件

在本邦米國大使浦塩出張ニ關スル本國政府ノ  
訓令ニ付通報ノ件

後藤外務大臣宛

協調ヲ完カラシメントノ素志ノ一反映ト謂フヘク日米兩政  
府双方ニ此態度アルハ憚フヘシ云々ト弁シタリ次ニ大使ハ  
今回ノ旅行ニツキ世上ノ誤解ヲ予防センカ為同大使ハ近々

ハ一時のニシテ且公式ノモノニアラズ  
到着後本使ハ主ナル露国人並連合与国文武官憲ト会談シ露  
国人ニ閑シ予テ発表セラレタル米國政府ノ企図ヲ今後如何

ニ進ムヘキカニ閑スル本使ノ意見國務省ニ詳報セラルヘシ  
本使ノ調査及報告ハ經濟、社会、財政、政事及軍事上ノ諸  
項ニ亘ルヘシ

本訓令ハ隔意ナク之ヲ日本ノ外務大臣ニ告クルヲ要シ且日  
米両國政府ニ閑スル部分ノ報告ハ必ス華盛頓ニ於テ日本大  
使ト充分攻究セラルヘキ旨ヲ添言スヘシトノコトナリ尚  
在東京連合側外交代表者ニ対シ本使ハ本旅行ノ非公式、特  
別且一時的ナルコトヲ告クヘシ

本使ハ彼地実況ニ閑シ自分ノ實見セルトコロニ由リ完全ナ  
ル視察報告ヲ提出スルヲ要ス米國政府ニ於テハ「チエツ  
ク」人ニ対スル軍事援助ヲ補充スルニ西比利亞ニ於テ賢明  
ナル救濟ヲ謀ルヲ以テスルヲ最緊要ノコトトナセリ

註 右ハ九月七日米國大使ノ持參シタル覺書ノ仮訳文ナリ  
ナル救濟ヲ謀ルヲ以テスルヲ最緊要ノコトトナセリ

二九四 九月八日 後藤外務大臣 在本邦米國大使会談

シベリア及東支兩鐵道管理、日本軍司令官ノ

ラ承知シ居ラス亦米國政府ヨリモ何等之ニ閑シ來示ニ接セ  
ス從ツテ何等ノ意見ヲ開陳スヘキ権限モ謂レモナシ昨日会  
談ノ際ノ御話ハ全ク參謀本部ニテ何事カヲ誤解セルモノナ  
ルヘシトノ事ナリ尚此カル事項ニ就キ米國政府ノ態度若ハ  
意見ヲ表示スヘキ要アラハ本使ヲ經テ為スヘキ筋合ノモノ  
ナルニ昨日御話シ申セシ通本使ニ於テモ未タ何等本國政府  
ヨリ訓示ニ接セサルナリト語レリ

次ニ米國大使ハ本日來訪ノ主要目的ニ就キ是ヨリ申述フヘ  
シ即チ昨夜米國政府ヨリ至急閣下ニ伝達スヘキ旨ヲ以テ左  
ノ趣旨ノ電訓ニ接セリ

米國政府ハ（或筋ヨリ）在浦潮日本軍司令官ハ鐵道ヲ軍  
事的管理ノ下ニ置クヘシトノ命令ヲ發セル趣ノ情報ヲ接  
受セリ合衆國大統領ハ右報道ニ就キ強ク憂惑セルカ之ヲ  
以テ日本帝国政府ノ願望若クハ意図ヲ代表スルモノトハ  
信スル能ハス合衆國ノ懷ケル露國援助ノ趣旨ニ就テハ日  
本モ同感ナルコトヲ合衆國政府ハ敢テ信セントスルモノ  
ナル處前掲報道ニ係ルカ如キ措置ハ右ノ趣旨ト全然相背  
馳スルモノナリ露國鐵道班（スチーヴンス大佐ノ率ユル  
モノ）ハ依然露國民ノ雇傭及支配ノ下ニ在ルモノニシテ

一一 シベリア及東支兩鐵道管理ニ閑スル交渉一件 二九四

鉄道占領命令、對露借款等ノ諸問題ニ閑スル  
件

附屬書 九月七日附米國政府発在本邦米國大使宛

訓電写 日本軍司令官ガ鐵道占領命令ヲ發シタリ

トノ情報ニ閑スル件

後藤外務大臣米國大使會見錄

（大正七年九月八日）

一 米國大使館附武官ノ參謀本部ニ於テ為セル談話ノ件  
一 帝國浦潮派遺軍司令官ノ鐵道占領命令ニ閑スル件  
一 日本軍軍票發行ノ事情及列國共同金券發行ノ私案ニ閑  
スル件

一 対露人團体借款ニ付与國間了解必要ノ件

一 西比利亞及東支兩鐵道管理問題ニ閑スル件

一 ブラード同行者決定ノ件

米國大使自身ノ申出ニ基キ午後三時來訪ス大使ハ先ツ本日  
日曜ナルニ拘ラス敢テ閣下ノ安息ヲ妨ケントスル要談ニ入  
ル前昨日ノ會談ニ於テ問題トナレル米國大使館附武官ノ談  
話ナルモノニ閑シ一言シ置キタシト前置シ自分「ボーリド  
ウキン」少佐ニ聞質シタル所ニ拠レハ同官ハ問題自體ヲス

石井子爵ハ合衆國政府ニ告クルニ連合國司令官等ニ於テ  
右露國ノ支配ノ下ニ在ル班員ヲ承認セル趣ナリ  
トテ語ヲ繼キ右ニ閑シ本使ノ卑見ヲ申述フレハ実ハ閣下ト  
ノ間ニ前來鐵道問題ニ付談話ノ次第モアリ右報道ノ如キ事  
ハ到底本使ノ信シ得サル所ナルモ東支鐵道其他ノ問題モア  
レハ右電訓ニ接セル儘取急ギ之ヲ閣下ニ伝フルニ如カスト  
信シカクハ急遽會見ヲ求メタル次第ナリト告ケタリ之ニ對  
シ大臣ハ实ハ自分モ至急貴大使ニ面談シ度思ヒ居リタル事  
項アレトモ日曜日ノ事ニテモアレハ躊躇シ居タル折柄恰モ  
閣下ヨリ會見ノ御求メアリ誠ニ好都合ニ存シタルナリ備テ  
右日本軍鐵道占領云々ノ件ニ就テハ石井大使ヨリモ來電ア  
リ殆ント信ハ置カサルモ事ノ閑スル所重大ナレハ不取敢本  
日浦潮宛テ事實ヲ取調ヘ且同地米國領事ニ就キ聞質シ其結  
果回電スヘキ旨電訓ヲ發シタル計リナルカ实ハ本大臣ニ於  
テモ右様ノ事ニ就キ何等ノ報道ヲ有セス從ツテ今茲ニ何等  
的確ナル意見ヲ述フヘキ根拠ナキモ仮ニ之ヲ想像スルニ或  
ハ破壞ニテモ予防スルノ必要上一時一部区域ノ鐵道ヲ占領  
シタル如キ事ニテモアリ之ヲ速断譯伝シタルニ非サル乎詮  
スル所「占領」ナル文字ノ濫用ニアラサレハ誤解ニ基クモ

ノニ非サルナキ乎兎モ角右間合セニ対スル回報ニ接セハ事実自ラ分明スヘク其回報ニ接シ次第直ニ御通報スヘシト挨拶セラレタルニ米国大使モ単ニ何等ノ誤解ニ基クモノナル

ヘク此点ハ全然同感ナリトテ自分トシテハ此報ニ断シテ信ヲ置カサルモノナル事ヲ反覆シ唯大統領ハ現ニ露國援助問題ニ就キ熱心且慎重ニ考量セラレ居ル際ナレハ若シ仮ニ事実ナリトスレハ援助問題ニ重大ナル影響ヲ及ホスヘキモノナルヲ以テ此カル報道ニモ自然意ヲ勞セラル訳ナリ想フ

ニ右米國政府ノ電訓ナルモノハ直接大統領ノ命ニ依ルモノナラント附言シ且右浦潮ニ問合ハセノ措置及回報通知ノ約ニ対シ深ク謝意ヲ表シ更ニ後述要談中最初ノ二件ニ就キ談話ヲ了シタル後米国大使ヨリ右米國政府ノ電訓ニ対シ閣下ニ於テ浦潮ニ問合ハセノ電報ヲ發セラレタル事及閣下ハ何等ノ誤解又ハ誤伝ニ過ギサルモノトノ感想ヲ懷カル事並浦潮ヨリ回報ヲ得ハ直ニ之ヲ通知スヘキ旨ヲ約サレタリトノ事丈本使ヨリ不敢返電シ差支ナキヤト問ヒタルニ付大臣ヘ差支ナキ旨ヲ答ヘラレ尚本件ニ関シテハ當方ニテ參謀本部ニ就キ質サハ或ハ直ニ其占領ノ有無判明スルナランモ素右情報ノ出处在浦潮米國領事ニ在ルヲ以テ却テ同領事ニ

就キテモ之ヲ質ス方可ナラント存シ右様電問ヲ發シタル訳ナリト附言セラレタリ

大臣ハ實ハ本日余ノ貴大使ニ會見シタルト思ヒタル主要ナル事項ハ第一ニ日本軍ニ於テ軍票ヲ行使セル事情及通貨問題便法ニ關スル本大臣ノ私見ニ關スル事ナルカ素我軍ニ於テ金票ヲ發行行使セルハ留相場其他露國通貨ノ現状ニ顧ミ必要ニ基キ万已ムヲ得サルニ出テタル措置ナルノミナラス露国人ノ為ヲ計リタルモノニシテ断シテ之ヲ露国人ニ押付クルト云フ如キ趣旨ニアラサルハ申迄モナキコトナリ右ハ無価値ノ紙片ニハ非ス其背後ニハ保証アリ即チ之ヲ以テ支払ヲナスハ事實有償的ナルナリ然ルニ本問題ニ付本大臣思索ノ結果結局与國共同ノ金券ヲ發行スルコト可ナリト考ヘ而シテ關係列強ノ間ニ右ニ付協議ヲ遂ケタリトモ金票ヲ印刷調達スルニハ二三ヶ月ノ時日ヲ要シ中々手間取ルコトナルヲ以テ此点ニ付更ニ考量シタル末一案ヲ得タリ曰ク現ニ日本ニ於テ有スル帝國ノ紙幣ヲ利用スルノ捷径ナルニ如カス即チ其紙面ニ列國共同ノ金票ナル旨ノ印及留ニ対スル価格率ヲ示セル印ヲ押シテ直ニ之ヲ行使スルコト是ナリ尤モ右ハ全然余一個ノ未熟ナル一考案タルニ過キス之ニ関

シ貴見ヲモ聽キタシ而シテ追テハ首相ニモ協議シタル上若成案トモナラハ何レ關係列強政府ト夫々協議ヲ遂ケサルヘカラサルコト勿論ナリトスト說カレタルニ大使ハ日本軍ニ於テ軍票ヲ發行セラレタルハ固ヨリ必要ニ迫ラレ事情已ムヲ得サルニ出テタル事ハ本使ノ能ク諒会スル所ニシテ断シテ非難ヲ容ルヘカラス実ハ自分モ米國大藏省ヨリ陸軍省経由ノ電問ニ接シ考量ヲ遂ケタル結果略闇下ト同様ノ意見ヲ懷クニ至リタルカ本使ノ覆申ニ及ヒタル意見ナルモノハ例

之比律賓銀行ヲシテ或高ノ留紙幣ヲ買收セシメ之ヲ本トイテ銀行券ヲ發行セシムニ在リ目下信用アル帝政時代ノ留紙幣殊ニ低額単位ノ紙幣ハ多ク買占メ藏蓄セラレ其影ヲ沒シ通貨トシテ残レルハ主トシテ「ケレンスキ」時代ノ信用ナキ百留ト云フ如キ高額単位ノ紙幣ニシテ日常ノ用ヲ弁スルニ甚タシク困難ヲ感セル有様ナルヲ以テ此等高額単位ハ之ニ對シテ銀行ノ所有スル百留紙幣ヲ交付スト云フカ如キ方法ヲ講スルヲ可トス即チ卑見ニテハ飽ク迄留ハ之ヲ本位トシテ保存スルノ途ニ出ツルコト肝要ナリ支那通貨、墨

ハ之ニ對シテ銀行ノ所有スル百留紙幣ヲ交付スト云フカ如キ方法ヲ講スルヲ可トス即チ卑見ニテハ飽ク迄留ハ之ヲ本位トシテ保存スルノ途ニ出ツルコト肝要ナリ支那通貨、墨ハ之ニ對シテ銀行ノ所有スル百留紙幣ヲ交付スト云フカ如キ方法ヲ講スルヲ可トス即チ卑見ニテハ飽ク迄留ハ之ヲ本位トシテ保存スルノ途ニ出ツルコト肝要ナリ支那通貨、墨

思索シタル結果ニシテ全然自分限ノ私見ナリ是亦前掲金票

發行ニ閔スル意見ト同シク練リタル考ニアラス全ク言ハハ

「アカデミック」ノ論ニシテ首相トモ未タ何等相談シタル

次第ニアラス唯東支鐵道借款問題ニシロ少クトモ日米ノ間

ニ了解ヲ付ケ関係露人ニ対シテ日米間ノ了解認諾ヲ基トス

ルモノニアラサレハ到底成立セストノ了解ヲ予メ与ヘ置ク

ノ要アリ彼等ノ離間ニ乗セラレサルノ用意ヲ必要トナス旨

ヲ説カレタリ大臣ニ於テ未タ「ク」氏ノ提唱ニ係ル

案ヲ耳ニセラレサルヲ意外トセルモノノ如ク要スルニ實際

問題トシテ現下主ナル債權國タリ得ルモノハ米ト日ナリ（

トテ暗ニ英仏等カ此事ニ手出シヲ為スハ余計ナル事ナリト

ノ口吻ヲ洩シ）故ニ此両国ハ本件ニ就テモ能ク了解ヲ付ク

ルノ要アリ此点ハ全然閔下ト同感ナリ哈爾賓、浦潮辺ニテ

ハ日米離間ヲ目的トスル種々ノ流説、陰謀行ハル模様ナ

ルカ之ニ耳ヲ藉スベカラスト述ヘタルニ付大臣ハ此点ハ固

ヨリ同感ナルカ兎モ角貴大使カ近ク浦潮ニ赴カルルニ際シ

不取敢右ニ事項ニ閔スル卑見ヲ告クル所以ノモノハ更ニ之

ニ閔シ現場ニ於テ貴大使ノ研究ヲ煩ハサンコトヲ欲スレバ

ナリト告ケラレタルニ大使ハ其大臣ノ用意ヲ多トシ右リ就

（附屬書）

九月七日附米国政府発在本邦米国大使宛訓電写

日本軍司令官ガ鐵道占領命令ヲ發シタリトノ情報ニ閔スル

件 Instruction received by the American Ambassador

Sept. 7, 1918, verbally communicated to Baron Goto,

Sept. 8, 1918.

The American Government has been informed that the General commanding the Japanese forces at Vladivostok has issued an order placing the railroad under military control. The President of the United

趣ニテ右ノ次第同公使ヨリ電稟ニ接シタルニ付早速國務會議ヲ開キ討議ノ結果之ヲ拒絶スルニ決シ九月五日在米公使ニ其旨電訓ヲ發シタリトノ事ナリ御参考迄

一九六 九月八日 在浦潮菊池總領事ヨリ  
後藤外務大臣宛（電報）

連合諸國鐵道運輸委員会ニ於ケル討議經過及

決議ニ閔ハ報告並請訓ノ件

第五四四号

松平政務部長ヨリ

第1111号

貴電第一一号ニ閔ハ

鐵道委員会ノ経過ニ付重要ナル諸点念ノ為メ再電ス

中島少将ニ確メタル所ニ依レハ從來ハ軍事輸送ノコトニ閔

シテノミ連合諸國鐵道輸送委員会ニ於テ又一般ノ管理運転ハ旧来ノ儘露國鐵道官憲ニ於テ行ヒ來リシカ往電第五一三

号ノ如ク米國代表武官ヨリ露國鐵道ノ管理ヲ米國鐵道班ニ委任セシコトヲ提議シ來リシヲ以テ茲ニ鐵道輸送委員会ニ

於テハ米國ノ鐵道管理独占ヲ防止スル為メ軍事輸送ハ別問ハ題トシ鐵道ノ管理ハ依然露國ヲ主体トシ唯之ヲ援助スル為

貴電第七四〇号ノ(二)末段ニ閔シ徐樹錚ノ齊藤中將ニ内話セ

ル所ニ拠レハ最近米國國務次官ハ在米支那公使ニ對シ東支鐵道ヲ米國ノ管理ニ移属セシメテハ如何トノ提議ヲ為セル

一一一 シベリア及東支兩鐵道管理ニ閔スル交渉一件 二九五

二九六

三七九

第11101号

東支鐵道管理ノ米國移属方提議ニ閔ハ中國政

府拒絕ノ件

メ技術班ヲ設ケ其班内ニ露國ノ外日、米、英、仏各其技術委員ヲ派セントヨリ提議シ米國委員ハ右技術班ヲ連合諸國ノ鐵道班ト為スニ異議ナキモ右ヲ全然露國鐵道官憲ノ令下ニ属セシムルコトニハ反対シ結局露國鐵道官憲ト對等ノ地位ニテ技術班ヲ置キ連合國鐵道輸送委員ノ顧問トシテ露國鐵道官憲ヲ援助シ運輸作業等技術上ノ改善ヲ謀ルコトニ八月二十一日略ホ議纏リタリ然ルニ我藤井支隊長及「チエツク」軍愈々東支鐵道ニ依リ「チタ」方面ニ向フコトトナルヤ東支鐵道ノ上ニモ亦軍事輸送ノ問題惹起シ之レカ統一ノ必要ヨリ八月二十九日ノ會議ニ於テハ独リ「ウスリー」鐵道ノ如ク露國內ノ鐵道ノミナラス支那領土内ニ在ル露國鐵道ニ對シテモ浦塙ニ於ケル鐵道輸送委員會ノ權限ヲ拡張セントノ議起リ中島少將ハ此際東支鐵道迄モ連合國ノ輸送委員ノ指揮内ニ置クコトハ我國策上不可ナリト思考シ我軍司令官ノ指揮区域ノ満洲ニ及ハサルヲ理由トシテ右委員會ノ權限拡張ニ反対シタルニ各國代表者ハ東支鐵道ト雖モ「ウスリー」ト共ニ其運轉管理ハ一露國鐵道官憲即チ「ホルワット」長官ノ手ニ統一經營セラレアルニ軍事輸送ニ閑シテモ之ヲ統一シ得サル理由ヲ知ルニ苦シムノ態度

ヲ以テ意外ノ様子ナリシ由ナリ從テ右前後二回ノ協議ハ一露國鐵道ノ管理經營即チ「アドミニストレーション」ノ問題ニシテ他ハ軍事輸送ニ閑シ委員會ノ權限ヲ露國國境以外ニ拡張シ東支鐵道ニ及ホサントスルノ問題ナリ但シ技術班ノ行動範囲モ亦輸送委員會ノ權限ト共ニ拡張セラルヘキハ勿論ナリ斯クノ如クニシテ本問題ハ未タ確定議ニ至ラサル間ニ西比利亞政府カ州參事會ヨリ沿海州ノ行政權ヲ移転セラレタルヲ口實トシ「モロウスキ」同政府ノ交通大臣トナリ極東露國鐵道ノ管理權ヲ主張シ東支鐵道員ニ対シ「ホルワット」及其代理者ノ命ヲ奉スヘカラサル旨電報及宣言ヲ發シ事態愈々錯雜シ來リシヲ以テ軍參謀長ハ西比利亞政府ノ此處置ノ無効無權限ナルコト並「ウストロゴフ」ニ於テ從前通り鐵道ノ運行管理ヲ統行スヘキコトヲ勸告スルノ電報ヲ同人ニ発シ「ウストロゴフ」モ亦此際西比利亞鐵道東支鐵道「ウスリー」鐵道ヲ同人ヲ長官トスル特別委員會ノ管理ニ移シ同委員會ハ連合國ノ委員會ノ監督ノ下ニ行動スヘシ但シ鐵道ニ對スル主權モ所有權モ露國ニ屬スヘキハ勿論ナリトノ提議ヲ「ウストロゴフ」ヨリ我軍司令部ニ内報シ來リシ閑係モアリ九月七日ノ鐵道委員會ニ於テ西

比利亞政府ノ鐵道ニ對スル処置ヲ憤慨シ連合國ニ於テモ此際断乎タル措置ヲ執ルヘシト議一決シ左ノ趣旨ノ決議ニ達セリ

(一)此際露國ノ国有鐵道(西比利亞鐵道黒龍鐵道「ウスリー」鐵道)及東支鐵道等一切ノ鐵道ヲ政爭外ニ置クコト  
(二)露國鐵道ノ統一運行改善ノ為メ連合諸國ヨリ資金及材料ヲ供給スルコト

(三)鐵道ノ財政及管理ヲ露國鐵道代表者ヲ委員長トシ日米英仏支ヨリ出ヅル委員ヲ以テ組織スル技術委員會(Le Comité Technique Administratif)ニ一任スルコト

四右技術委員ハ連合諸國代表武官ヨリ成ル監督委員(Le Comité Supérieur)從來ノ鐵道委員會ヲ以テ之レニ當ツノ指揮監督ノ下ニ行動スルコト

(五)右ノ決議ニ付大谷司令官ノ承認ヲ求ムルコト  
右ノ決議ハ九月八日日英仏外交官會議ニ於テモ問題トナルカ仏ハ日英ニシテ異議ナケレハ同意シテ差支ナキ訓令ニ接シ居ル旨ヲ述ヘ英ハ別ニ異議ナキモ右ノ如ク本官ノ意見ヲ尋ネシニ付本官ハ斯ノ如キ鐵道ノ問題ハ事重大ナルニ付

一應本國政府ニ照電スルニアラザレハ贊否ヲ決シ難シト述

ヘ置タリ右ニ閑シ至急何分ノ御電訓ヲ請フ  
尚「エリオット」ハ斯ノ如キ問題ハ軍事ニ閑スルノミナラス政治上ニ重大ナル關係ヲ有スルニ付大谷司令官ノ承認ヲ得ル前我々ノ同意ヲ要スルモノト思考スル旨申居レリ

二九七 九月九日

在浦潮菊池總領事ヨリ  
後藤外務大臣宛(電報)

### 鐵道委員會ノ決議ニ閑スル件

第五三三号

松平政務部長ヨリ

第三七号

往電第三三号ニ閑シ九日鐵道委員會ニ於テハ七日ノ決議ニ基キ更ニ監督委員(往電第三三号ノ決議四参照)ハ大谷司令官ノ下ニ隸屬シ該委員會ノ委員長ニハ日本ノ將官ヲ以テ之ニ當テ技術委員會(決議參照)ノ委員長ニハ露國人ヲ以テ之ニ任シ其下ニ與國政府ニ於テ任命スル技師ヲ置キ尚以前ノ通軍事輸送委員會ヲ置キ同會ヲ監督委員ノ指揮監督ノ下ニ立タシメ其委員長ハ日本ノ將校ヲ以テスルコトニ決議セル由右ニテ七日ノ決議ハ一層具体的トナレルモノト認メラル尚原案ニハ技術部ノ副委員長ニ米国人ヲ置キアリシヲ

中島少將ニ於テ異議ヲ述へ削除セシ由ナリ本案及七日ノ案トモ仏國代表委員ノ提出ニ係ルモノナル由

二九八 九月十日

在浦潮菊池總領事ヨリ  
後藤外務大臣宛(電報)

日本軍司令官ガ鐵道占領命令ヲ発シタリトノ

米國側情報ニ關シ調査ノ結果報告ノ件

別電 同日菊池總領事後藤外務大臣宛  
電報第五五一号

(九月十二日接受)

第五五〇号

貴電第三四九号ニ閑シ

御訓令ニ基キ先ソ由比中島両將軍ニ就キ鐵道占領ノ事實有無ヲ突止メタルニ全然然ル事ハ形跡モ無キ回答ヲ得タルニ付次ニハ米國領事ニ対シ御申越ノ趣旨ニテ電報シタル事情ノ有無ヲ質問シタルニ全然之ヲ否認セリ依而如何ナル事情ニ基キ國務卿カ右様ノ誤解ニ陥リタルヤ心当リヲ突止メタルニ彼ハ居合セタル「グレーヴ」少將ト暫時会談ノ後下ノ如ク語レリ約一週間以前列国軍事會議ノ席上中島少將ハ列席ノ米國將校ニ対シ「會議ニ対スル發言トシテニ非ズ単ニremarkエシテ」 We have taken charge of the railway

and put in one million yen 之ニ付米國側ハ如何セラルヤトノ意味ヲ述ヘタルニ依リ將校ハ勿論此事ヲ直ニ「グレーヴ」ニ伝ヘタルカ「グレーヴ」ハ大谷將軍ニ対シ書面ヲ以テ右中島少將陳述ノ意義ヲ一層明確ニセラレンコトヲ求メラレタリ之ニ対シ日本司令部ヨリハ何等書面ニ依ル回答ニ接スルコト無カリシカ但シ中島少將ハ「グレーヴ」ヲ訪問シ百万円支出ノ目的ヲ説明シ其他ハ大要上述ノ所ヲ繰返シタリ結局「グレーヴ」トシテハ我司令官ヨリハ書面ニ依リ何等明確ナル説明ヲ得ル能ハザリシニ依リ彼ハ未タ米國政府ニ何等電報スルニ至ラズ米國領事カ本件ニ關シ發電シ居ラサルハ上述ノ通り但シ右ノ顛末ヲ聞知シタル二人以外ノ者カ何等米國ニ電報シタルコトハ甚タ有リ得ヘキ所ナリト云フニ在リ依而本官ヨリハ鐵道占領ト云フカ如キ何等形跡スラ無キ事ヲ説述シ米國領事ヨリ本国政府ノ誤解ヲ解クカ為メ發電センコトヲ求メ彼レ快諾セリ

尚御参考ノ為メ上述大谷將軍宛「グレーヴ」書翰ノ要領及本電報案ヲ更ニ由比中島両將軍ニ提示シタルニ対シ中島少將カ本電報末尾ニ附加スヘキ文書トシテ自ラ筆ヲ取り記載シタル所ヲ別電各々甲、乙トシテ添附ス

追而本件松平參事官ニ語リタルニ本件ニ關シ今日迄何等中島少將ヨリ聞知セル所無ク本官ヨリ提示セル右書翰写ヲ一見シ頗ル意外トセラレタリ(十日)

註 菊池總領事發後藤外務大臣宛電報第五五四号別電甲「グレーヴ」將軍ヨリ大谷將軍宛書翰ハ前掲(二九〇文書)ニ付省略ス

(別電)

九月十日在浦潮菊池總領事發後藤外務大臣宛電報第五五一号

電報第五五〇号ノ末尾ニ中島少將カ附加スヘキ文書トシテ記載シタルモノ

第五五一号 別電乙

尚中島少將ニ事實ヲ取質シタルニ百万円ハ輸送ノ前渡金タルモノニシテ之ヲ秘密ニ「ホルワット」ニ与フルトキハ却テ一般ノ疑惑ヲ受クルヲ虞レ委員会ノ席上ニ於テ鐵道ニ賃銀ヲ支払ハザルトキハ運行ニ支障ヲ生ズベシ日本ハ既ニ一万近クノ兵ヲ輸送シタル故兎ニ角先づ前渡金トシテ百万円支払フヘシト通告シタルニ米國武官ハ之ニ付米國亦其用意アリト云ヘリ米國武官ハ委員会カ軍事輸送ヲ助勢スルヲ見テ鐵道ノ輸送迄モ担任シアル如ク思ヒ居タルナラン一面

二九九 九月十一日 在哈爾賓佐藤總領事ヨリ

日本軍ニ依ル鐵道占領ノ事實ノ有無ニ付調査  
ノ結果報告ノ件

一 一一 シベリア及東支兩鐵道管理ニ關スル交渉一件 二九九

(九月十二日接受)

第五三三号

三八三

貴電第三三六号佐々木へ転電致シ置キタル処左ノ通り回電  
アリタルニ付右不取敢転電ス

ト能バス但シ日本軍ノ「チタ」方面進出ヲ以テ米国人ハ不  
安ヲ感シ斯ノ如キ虚偽ノ風説ヲ伝ヘ日本軍ヲ呪ハントスル

モノナル可シ實際ハ却テ米國カ極東露領ニ於テ專横ヲ極メ  
ツツアル由ニシテ師団參謀部ニテ聞キタル処ニ依レバ  
一、九月五日「ハラノール」ニテハ我軍隊輸送列車停車中  
後ヨリ来リタル米国人ノ乗リ居ル列車ハ軍隊輸送列車ノ機  
関車ヲ奪ヒ之ヲ己ノ列車ニ連絡シ二個ノ機関車ヲ連続シテ  
出走シ去リタルコトアリ

二、九月六日「ボルジャ」ノ北方「ブイルカ」ノ南方ニ於  
テ米国人ノ乗リ居ル列車カ通過シタル後直ニ橋梁ヲ破壊シ  
為ニ後着セシ我カ輸送列車ハ之カ修理中空シク五六時間停  
車スルノ已ムヲ得サルニ至レリ  
三、九月七日「ボルジャ」駆ニテ米国赤十字旗ヲ掲ケタル  
列車ハ日本ノ將校ノ乗リタル最後ノ客車ノ連鎖ヲ外シ之ヲ  
残シ置キ発車セル等無礼ノ動作多ク全線ニ於テ日本人ハ一  
般ニ米国人ノ横暴ヲ憤慨シ居レリト云フ

三〇〇 九月十二日 (後浦潮外務大臣ヨリ)  
在浦潮菊池總領事宛 (電報)

### 西比利亞及東支鉄道ノ管理ヲスチーバンスニ

#### 一任方米國ヨリ申出ノ旨通報ノ件

##### 第三六二号

九月三日在本邦米國大使ハ左記(註)覚書ヲ提出シタルニ付回答  
案目下講究中ナリ内密御含迄

註 九月三日附該覚書英文ハ前掲二八八文書ノ附属書ト同文ナ  
ルニ付省略

三〇一 九月十三日 在本邦米國大使会談  
日本軍司令官ノ鐵道占領命令ニ關スル米國側

#### 情報ノ誤報ナル旨松岡書記官ヨリ説明ノ件

#### 米國大使松岡書記官会談要領

(大正七年九月十三日)

午後二時約ニ依リ米國大使ヲ往訪シタル松岡外務書記官ハ  
先ツ去ル日曜日外務大臣、米國大使ノ會見中大臣ニ於テ与  
ヘラレタル約ニ基キ在浦潮帝國總領事ノ返電(九月八日外  
務大臣ヨリ發セラレタル電問ニ對スル)ヲ伝ヘンカ為メ後

藤男爵ノ命ニ依リ來訪シタル次第ナル旨ヲ告ケタル上実ハ  
浦潮當地間ノ電信往復ニハ目下頗ル長時間ヲ要シ我總領事  
ノ返電モ十日ニ發シタルモノガ漸ク昨日到着シタル如キ始  
末ナリ想フニ外務大臣電訓ノ同總領事ニ達シタルハ九日夕  
カ十日朝位ニシテ同官ハ接電早々取調ヲ遂ケ即日返電ヲ發  
シタル如キ実情ナルベシ(九月八日ノ会談ニ於テ外務大臣  
カ米國大使ニ向ヒ返電ハ多分一両日中ニ來ルナラント告ゲ  
ラレタル關係上右ノ如ク一応ノ弁明ヲ為シ置ケルナリ)而  
シテ右總領事覆電ニ拠レハ我軍鐵道占領トハ何等形迹ナ  
キコトニシテ之ニ似寄リタル事實スラ存セズトノ事ナリト  
テ在浦潮菊池總領事來電第五五〇号ノ内容大略ヲ述ヘ更ニ  
実ハ浦潮方面以外ノ地方ニテ若シヤ誤伝ノ種トナリタル何  
等カノ事實ニテモナキ乎ヲ為念確カムルコト必シモ無用  
ナラサルヘシトノ趣旨ニテ去ル日曜日大使辭去ノ後哈爾賓  
其他ノ地方ニ在ル領事官ニ宛テ亦問合ハセ電信ヲ發シ置ケ  
ル處各地ヨリ只今マテニ接シタル返電モ鐵道占領ノ如キ全  
然跡形ナシト云ヘル点ニ於テ前陳菊池總領事返電ト全ク一  
致セルヲ以テ右ニ御承知アリタシ是ニテ本件ニ關スル閣下  
ヘノ御返事ハ尽セル処本日浦潮ニ向ケ御出發ノコトニテモ

一二 シベリア及東支西鉄道管理ニ關スル交渉一件 三〇一

次ニ松岡書記官ハ此程御提出ナリタル米國政府ノ西比利亞  
鐵道及東支鐵道管理ニ關スル米國政府ノ主張覺書ニ對シ実  
ハ出來得ルナラハ閣下御出發マテニ帝國政府ノ回答ヲ作製  
スル考ナリシモ其ノ運ニ至ラサルヲ遺憾トス然カシ精々取  
急キ詮議スル筈ナリトノ事ヲ閣下ニ告クヘキ旨大臣ヨリ命  
セラレタリト述ヘタルトコロ大使ハ以上ノ談話ニ付大臣ニ

謝意ヲ伝へカレア諸ヒ尚米國政府ヨリ先日ノ覚書（前掲覚書ノ事）ニ対スル補足トモハヘキ電訓ニ接セルニ付自分出發前之ヲ伝達シ度実ハ本日午後大臣ニ急遽會見ヲ願出テ置キタル次第ナリト語レリ

1101-11 九月十三日 後藤外務大臣 在本邦米國大使会談

### ハグニア及東支兩鐵道管理「スティーヴス」氏ニ委任方ニ閲ベル件

附屬書 同日在本邦米國大使ヨリ後藤外務大臣ニ手交ノ覚書

ハグニア及東支兩鐵道管理ニ閲シ米國政府ノ追加的訓令通報ノ件

#### 一 西比利鐵道管理提議ノ件

午後三時半米國大使來訪

本月三日外務大臣ト本件ニ閲スル會見ヲ為シタル次第本國政府ヘ報告シ置キタルトロ別添覚書ノ如ク追加的訓令ト

ハ認ムヘキ電報接受シタルニ付不取敢劉覽ニ供ストテ覚書

ハ手交ベ

大臣一覽ノ上本件ニ閲スル回答ハ理論ニシテベニナベ

#### Memorandum.

Referring to the Memorandum of the American Embassy of September 3, 1918, the proposal therein made contemplates that Mr. Stevens should, as official adviser of the Russian Minister of Ways of Communications, with the assistance of the Russian Railway Service Corps which is composed of American engineers in the service of Russia, undertake in cooperation with Russian officials and personnel the effective working of the railways.

In this connection three distinct questions presented themselves to the Department of State: first, legal; second, military; third, actual railway operation.

The Government of the United States does not consider that there has been effected any modification in the previously existing rights of Russia or China by either the Bolshevik movement or the presence of international military assistance in Siberia. It is evident, however, at least for the present, that military operations must be facilitated and that the actual movement of trains must be governed accord-

ト難カラザルモ自分ノ顧念スルハ現在当該地方ニ於ケル鐵道ノ實際運用如何ニ在リ若シ現状ニシテ役立チ居ルモノトセバ之ニ改変ヲ加フルノ要ヲ認メズ仍テ實際上ノ困難ハ如何實際ニ適セル解決方法ハ如何等専ラ現状ニ閲スル報告ヲ俟チツアリ且「ホルワット」革職ノ如キ同人ノ現職ニアルコトニ付テハ法律上ノ研究ヲ要スル次第ニテ未タ回答ノ最後決定ヲ見サルナリトノ意ヲ告ケラレ大使ハ現場ニ於テハ寒氣幾許モナクシテ来ルヘク理論問題権利詮議等ニ日ヲ如ク實際問題トシテ之ヲ取扱フコト最肝要ナリ別添覚書末段ハ即チ此辺ノ事情ニ顧ミ合衆国政府ノ其所信希望ヲ披瀝シタルモノト思考ス物資窮之セル地方住民並友軍「チャック」兵ノ困難ヲ想ヘハ慄然タラサルヲ得ス物資ノ供給ハ運輸機関ノ改善ニ俟ツ鉄道經營ノ完備一日モ忽諸ニ付シ難シト述く同日夕方浦潮向出張ノ途ニ上ルキ血ヲ別辞トシテ去ヘリ

（附屬書）  
九月十三日在本邦米國大使ヨリ後藤外務大臣ニ手交ノ覚書  
ハグニア及東支兩鐵道管理ニ閲シ米國政府ノ追加的訓令通報ノ件

報ノ件

ingly. It is, therefore, on these premises that the Department of State urges that Mr. Stevens, assisted by the Russian Railway Service Corps as stated above, be entrusted with the actual operation of the Chinese Eastern Railway as well as other parts of the Siberian railroad and its branches.

The Embassy is further instructed by the Department of State to convey to the Imperial Foreign Office the responsibility which the Government of the United States feels to secure, in cooperation with the Allied Powers, through Mr. Stevens and the Russian Railway Service Corps, the effective operation of the railways for Russia and for the service of the present military undertakings without prejudice to any legal or political rights previously existing, by whomsoever held.

Tokyo, September 13, 1918.  
(押記)

覚書

千九百十八年九月十三日付米國大使館覚書ニ閲シ同覚書所載ノ提議ハ畢竟露國通信大臣顧問ノ資格ニ於ケル「ペチーヴ」ハベ」氏ラシテ露國ニ雇傭セラソタル米國技師ヨリ成ル露

一二 シベリア及東支兩鐵道管理ニ関スル交渉一件 三〇一

三八八

国鐵道班ノ助力並露國官吏及從業員ノ協力ノ下ニ該鐵道ノ有効ナル運行ヲ企テシメムトスルニ在リ

此点ニ關シ國務省ノ逢着スル問題三アリ第一ハ法律上第二

ハ軍事上ノ問題ニシテ第三ハ鐵道ノ實際ノ運行之ナリ

米國政府ニ於テハ露國及支那ノ既往ノ權利カ過激派運動若

ハ西比利亞ニ於ケル列國ノ軍事的援助ノ存在ニヨリ如何ナル變更ヲ受ケタルモノトモ思考セス然レトモ少クトモ差當

リ軍事行動ヲ円滑ナラシメサルヘカラサルコト及鐵道カ右ノ趣旨ニ副フ如ク運行セラレサルヘカラサルコト明カナリ之國務省カ東支鐵道及他ノ西比利亞鐵道及其枝線ノ運行ヲ上記ノ如ク露國鐵道班ノ援助ノ下ニ「スチーヴンス」氏ニ委任セムコトヲ主張スル所以ナリ

尚國務省ハ當大使館ニ對シ米國政府ニ於テハ既往ニ於ケル法律上若ハ政治上ノ權利ハ何國ニ於テ之ヲ有スルトモ之ヲ害スルコトナク連合國ト共ニ「スチーヴンス」氏及露國鐵道班ヲシテ露國ノ為及現在ノ軍事計画ノ為ニ鐵道ノ有効ナル運行ヲナサシムルノ責任アルコトヲ感シ居ルコトヲ帝國外務省ニ伝達スルコトヲ訓令セリ

千九百十八年九月十三日東京ニ於テ

ハ勿論ナルヘキモ不取敢御参考迄ニ

三〇三 九月十四日 在浦潮木下鐵道院運輸局長ヨリ  
岩永鐵道院總裁秘書宛(電報)

シベリア及東支兩鐵道管理ニ關シ「スティーヴンス」トノ会談ニ付報告ノ件

(九月十六日接受)

十一日附貴電米國新提議ニ關スル後藤外相ヨリノ伝達承知。最近米國ハ當地方ニ於テモ從來ト稍々其ノ態度ヲ变へ万事積極的ニ出ントスル模様アリ「スティーヴンス」ハ「ウストロゴフ」ト提携シ「ウストロゴフ」ハ軍司令部ニ於ケル連合國鐵道會議ヲ操リ「ストライキ」ニ対シテモ米國鐵道隊ハ寧ロ「ストライキ」ニ同情ヲ表スル如キ態度ヲナスモノアリ曩ニ第五及ヒ六号(八月二十五日附)ヲ以テ報告セル彼等ノ態度ニ稍疑ヲ生シ、從來米國鐵道隊ノ動作ニ最モ好感ヲ有シタル小官モ多少彼等ノ反省ヲ促スノ必要ヲ認メタリ、從ツテ貴打電ニ接スルニ先タチ本月九日哈爾賓ニ於テ「ステイーヴンス」ヲ訪ネタル際談偶々「ストラ

三〇一 九月十四日

在中國芳澤代理公使ヨリ  
後藤外務大臣宛(電報)

シベリア及東支兩鐵道ノ米國單獨管理防遏ノ

第一二二四号

為ノ方策ニ關シ電稟ノ件

貴電第七七五号ニ關シ米國政府ノ提議御電示相成タルヲ幸ヒ卑見左ニ電稟ス

米國政府ノ提議ハ我方ニ於テ之ヲ容認シ難キ事勿論ナルガ此上ハ我方単独ニテ米國ニ当ルカ如キハ成功甚タ疑ハシキニ付可相成ハ英仏伊三国ニ協議ノ上西比利亞ニ出兵シタル連合與國全体ニ於テ引受クル事トシ妙クトモ米國ノ単独管理ヲ防遏スル事必要ニ有之英國ハ西比利亞並ニ帝國ニ対スル思惑上多分該協議ヲ応諾スルニ至ルヘク左スレハ仏伊両國ノ態度如何ニ拘ハラス米國トノ間ニ鮮クトモ日英米三国共同案ヲ商議シテ差支ナカルヘント存ス(仏伊ノ贊同ヲ得ハ尚更結構ナリ)米國ハ往電第一一二二号ノ通当地ニ於テ本件ニ關シ既ニ新聞政策ヲモ行ヒ居ル以上裏面ニハ更ニヨリ以上ノ活動ヲナシ居ルヤモ計リ難シ要スルニ本件ハ将来ニ對シ重大ナル關係モ有之帝國政府ニ於テ何等御違算無之

一二 シベリア及東支兩鐵道管理ニ關スル交渉一件 三〇三

三八九



鉄道ニ送ラレハ爾賓ヲ根拠トシ残余九十名ハ近ク浦潮ニ送ラレタル次第ナリ「スチーヴンス」氏ハ米国第一流ノ鉄道技術者ニシテ其手腕ハ巴奈馬運河開鑿ノ初期ニ於テ証明セラレタリ今ヤ同氏ハ露國ニアルコト一年有余其間露國鉄道問題ニ付不断ノ研究ヲ遂ケ其配下ノ技師ノ大分モ亦相当ノ経験ヲ積ミ「バイカル」「ムスク」並ニ其以西ノ露國鉄道從業員ト接触交際スルニ至レリ彼等ハ無私奉公ノ觀念ヲ以テ歎掌シ今後モ亦然ルヘシ米国政府ハ相互ノ率直ナル了解ニ資スルノ必要ヲ感シ連合國政府及露國人民ニ對シ確的且無条件ニ謂ハント欲ス即チ米国政府ハ露國鉄道ニ對シ何等ノ利益又ハ權力ヲ得ント欲スルノ意向ナシ斯ル意向ハ独リ政府ノ夢想セサル所ナルノミナラス米国人民モ亦之ヲ黙過セサルクシ「スチーヴンス」氏及其一行ハ露國人民ノ使用者ナリ其鉄道隊ハ露國政府確立迄在米露(脱)セラルルモノナリ

依テ貴官ハ本件米国政府カ極メテ重要視セル次第ヲ任國政府ニ開陳シ露國ノ鉄道ノ効果ヲ確保シ在來ノ法律上政事上其他ノ原因ニ依テ存在セル權利ニ影響ナク一意西比利亞ニ於ケル現在ノ武力援助ノ有効ヲ全フセンカ為メ米国政府カ

American Government to undertake this task, since their more effective co-operation in Siberia would naturally be welcomed by the Allies, whilst there is reason to suppose that they would be both able and willing to act effectively in re-organising the railways.

In these circumstances His Majesty's Government venture to suggest that the Imperial Japanese Government should invite the United States Government to undertake this work in Siberia.

September 16th 1918.

(欄外註記)

本書ハ大正七年九月十六日英國大使ヨリ幣原次官ハ手交セ

ハレタルモノナリ

(右欄註文)

(註復記文ナリ)

國政府ニ對シ此事業ヲ担当スルトムア勧説スルハ大ニ政治上ニモ利便アルシ何トナレハ米国カ西比利亞ニ於テ更ニ有効ニ協力スルハ連合諸國ノ素ヨリ歓迎スル所ナルベク加フルニ米国政府ハ單ニ該鐵道改善ノ為ニ有効ニ活動シ得ル力アルノミナラス之カ實行ヲ快諾スベシト信スベキ理由アルヲ以テナリ

右様ノ次第ニ付英國政府ハ帝國政府カ米国政府ニ對シ本件事業ヲ担当方勸説セラレル様提議ス

註 本覚書手交ノ際英國大使ハ本件ニ關シ同大使ニ訓令ヲ發スル迄ハ英國政府ニ於テハ西比利亞鐵道管理方ニ關シ米國政府ヨリ既ニ日本政府ニ申出ノ次第アリタルコトヲ未タ承知セサリシ旨附言セリ

其既ニ負ヘル義務ヲ履行セントスル点ヲ十分印象スルニ努メラルベシ  
在欧各大使ヘ転電セリ

### III OH 九月十六日 在本邦英國大使館ヨリ

ハグニア鉄道管理問題ニ付日本政府ヨリ米國政府ニ於シ勸説方提議ノ件

#### MEMORANDUM.

His Majesty's Government are sure that the Japanese Government realize the very great importance to Allied interests of the immediate re-organisation of the whole administration of the Siberian Railways. It is evident that such an undertaking is quite beyond the powers of any Russian officials, and the best solution of the difficulty would seem to be that American engineers should be placed at the disposal of the Commander of the Allied Forces for the purpose of supervising the military use of the railways in question. There would moreover be a considerable political advantage in persuading the

### III OH 六 九月十六日 在浦潮菊池總領事ヨリ 後藤外務大臣宛(電報)

露國鉄道管理問題ニ關ハ木村參事官ヨリ意見

#### 異申ノ件

第五六三号

(九月十七日接受)

木村參事官ヨリ

第四二二号

然レトモ「スチーブンス」氏以下ノ各員ハ露國政府及鐵道從業員ニ対シ専門事項上ノ助言ヲ与フヘキ特別任務ノ為選任セラレタルモノノ如ク「スチーブンス」氏ノ下ニ於ケル鐵道諮詢委員モ「エマーソン」大佐ノ下ニ於ケル露國鐵道ヲシテ露國鐵道ノ管理ヲ掌握セシメントスルニ在リ一方「ケレンスキ」政府時代ノ契約ヲ楯ニ取り華盛頓及ヒ東京ニ於テ外交上鐵道ノ管理ヲ要求シ他方浦塙ニ於テハ軍事輸送力増加ノ必要ニ藉ロシ當地滯在ノ鐵道班ヲシテ露國鐵道運転ノ任ニ当ラシメント苦慮セルモノノ如ク或ハ邪推ニ失スルヤモ知レザレト一般ノ鐵道管理問題ニ付外交上ノ交渉容易ニ決セザル間ニ事實上米國鐵道班ヲシテ既ニ運転ノ任ニ當レル東支鐵道ハ勿論烏蘇里及ヒ黑龍鐵道ニ対シテモ亦鐵道運転ノ実權ヲ握ラシムルノ事態ヲ助成シ置キ外交上ノ談判ニ有利ナラシメントスル底意ニ非ザルヤ從ツテ軍司令部ハ苦シキ立場ニ在リト思考ス

軍司令部ニ於テハ此底意ヲ看取シ米國鐵道班ノ鐵道運転獨占又ハ專橫ヲ抑制スルノ方法ニ付苦心シ居レルモ鐵道ノ改善及ヒ軍事輸送力ノ増加ヲ理由トスル以上正面ヨリ米國鐵道班ノ要求ヲ拒絶スルコト至難ナルヲ以テ(一)鐵道ノ管理ハ

露國人ニ一任スヘク唯タ其 advisory ノ機関トシテ技術班ヲ設ケ米國ヲモ之ニ引入レ他ノ連合諸國之ニ加ハリ共同ノ形式ト為シ公平ノ態度ヲ示シテ實ハ米國ノ專横ヲ牽制セン立タシムルノ案仏國ヨリ提出セラルルヤ大体之ニ贊同シ鐵道ノ運転ハ露國ヲ主トシ之ニ米、日、仏、英、支ヲ加ヘタル技術委員即チ Comité Technique Administratif ニ一任シ尚之ヲ監督スル為ニ其上ニ矢張リ連合諸國ノ代表者ヲ以テスル Le Comité Supérieur ヲ置キ更ニ之ヲ司令官ノ隸屬下ニ属セシメ飽迄連合國共同ノ形式ヲ取り且ツ二段ノ監督機關ヲ置キ以テ米國ノ獨占專橫ヲ共同ト公平ノ理由ニ依リ牽制セントセリ(九月七日會議決議)連合軍ノ總指揮官タル地位上斯ノ如ク共同ト公平ノ理由ノ下ニ實際ハ米國ヲ牽制スル策ニ出ヅルノ外ナカルヘシト思考ス而シテ今ヤ司令官ハ此決議ニ對シテ裁決ヲ与ヘサル可ラサル場合トナリ頻ニ政府ノ右ニ對スル決定ヲ急キ居ラル次第ナリ他方ニ於テ米國カ其鐵道班ヲ利用セソコトヲ頻ニ要請セルニ對シテハ之ヲ採用スルト否ト又其使用方法ニ付テハ連合各

國代表者ヨリ成ル鐵道委員会ノ研究議決ノ結果ニ待タサル可ラストノ理由ニテ今日迄之ヲ引留メ居ルモ左ナキダニ米國ハ素ヨリ近頃ニ至リ英、仏スラ日本ガ独リ、折角当地ニ遊ヒ居リ技倅モ有リ大ニ利用スヘキ米國鐵道班ノ使用ヲ拒絶シツツ有リト疑ヒ居ル際又實際上之ヲ利用スルコトヲ拒ム可キ正当ノ理由ナキ今日此問題ヲ何時迄モ此儘ト為シ得サル情勢ニ在リ旁々先ツ九月七日ノ決議ノ機關ノ設置ヲ急ギ之ニ対スル牽制策ヲ講シ置キ然ル後米國鐵道班利用ノ場合ニハ我鐵道班ヲモ同時ニ使用スル手管トシ以テ米(脱)ナリト信ス

乍去米國再ヒ公然露國鐵道(同支線ヲモ含ミ)一般管理ヲ貴地ニ於テ要請セル以上ハ鐵道問題ハ最早ヤ單純ナル軍事輸送問題ニ非ズシテ重大ナル外交問題タリ然ルニ鐵道委員会ニ対シ米國指揮官タル「グレーヴス」ハ單ニ軍事輸送力增加ノ問題タルカ如キ口吻ニテ今日「チタ」以東ノ一切ノ鐵道ハ大谷司令官ノ權内ニ在ルモノト認メ此權内ノ鐵道ニ揮命令ニ基ク措置ニハ之ニ同意スルコトハ自己ノ權限内ニ置クヘキハ勿論鐵道ノ運転又ハ管理ニ付テモ司令官ノ指揮命令ニ基ク措置ニハ之ニ同意スルコトハ自己ノ權限内ニ

### 一一一 シベリア及東支兩鐵道管理ニ関スル交渉一件 三〇七

覚書案

三九六

當局者ノ援助機関ト為シ（八月二十一日ノ決議ノ如ク）右ノ組織成立ノ上直ニ米國鐵道班ヲ日本鐵道班ト出來得レハ英仏ノ班ヲモ加ヘ同時ニ烏蘇里進ソテハ黒龍鐵道ニモ使用スルコトトシ米國ノ運輸獨占ヲ抑制スルコトシテハ如何カト思考ス九月七日ノ決議ノ一項タル技術委員会ニ露國鐵道ノ經理運輸実行ヲ一任スル案ハ即チ鐵道ノ共同管理問題ニ関連スル重大問題ナルカ故ニ之ヲ外交問題トナシテ其決定履行等ヲ東京ニ移スコト至当ナルヤニ存セラル差支ナクハ軍司令官ニ於テ貴電第三六二号ノ如ク再ヒ米國ノ提案アリシコトヲ述ヘテ前記共同管理問題ト共ニ當地出先キニ於テ之ヲ決定シ得サルコトヲ言明セラルレハ「層妙ナランカトモ思ハル」

本電ハ軍司令官及ヒ參謀長ノ閲覽及ヒ許可ヲ得且ツ木下局長ニモ内示シ置キタリ  
在哈爾賓松平部長ヘ転電セリ

三〇七 九月十七日 開議決定

露國鐵道管理ニ關スル米國提議ニ對スル回答

覺書案ヲ閣議ニ提出ノ件

帝国政府ハ米國政府カ九月三日附米國大使館覺書ヲ以テ提議セラレタル西比利亞橫斷鐵道及東支鐵道ヲ「スチーヴンス」氏ノ手ニテ一般的ニ管理セシメムカ為協定ヲ遂クルヲ得策ナリト認メラルニ至リタル現下ノ事態ハ十分之ヲ諒認スル次第ナルカ帝国政府ハ右提案ハ専ラ軍事的必要ヲ考慮スルニ促サレタルモノト信セサルヲ得ス蓋シ軍事的必要ヲ外ニシテハ他ニ同提案ノ如ク露國吏員ノ革職ヲ必要トスル方法ヲ是認シ得ヘキ理由ナケレハナリ最近ニ于ケル「ホルワット」將軍ノ政治的運動ニ對シテ如何ナル批判アリトスルモ同將軍カ東支鐵道長官トシテ正当ニ任命セラレ且最後ノ露國正統政府ニヨリテ其ノ任命ヲ確認セラレタルコトハ否定シ得サル所ナリ將又烏蘇里鐵道ハ東支鐵道ニ其ノ經營ヲ委任セラレタルモノナルカ故ニ「ホルワット」將軍ハ東支鐵道長官ノ資格ヲ以テ適法ニ烏蘇里鐵道ヲモ管理スルモノト認メサルヲ得ス尤モ「スチーヴンス」氏及同氏ノ監督ノ下ニ在ル鐵道班ノ各員モ同様右最後ノ露國正統政府ニヨリ選任セラレ且露國民ニ屬スル基金中ヨリ其ノ費用ノ支弁ヲ受ケ居ルコトハ日本政府ニ於テモ十分了知スル所ナリ

鐵道問題愈重大トナリ軍司令部ニ於テモ米國ノ提議ニ付テ之カ対策苦心中ナリ松平部長留守中差出ケ間敷キモ事急ヲ要スルモノト思ハルニ付小官ノ卑見上申ス  
米國ノ本旨ハ此際是非「スチーヴンス」以下ノ米國鐵道班隊モ共ニ露國鐵道ノ管理ヲ為スノ權限ヲ与ヘラレタルモノニ非ス又特定任務ノ範囲以外ニ亘リテ一般的ニ露國民ノ雇傭者トシテ行動スヘキ權限ヲ与ヘラレタルモノニモ非サルベシ

從テ「ホルワット」將軍及同將軍ノ下ニ於ケル鐵道從業員カ適法ニ有スル職權ヲ外國側ヨリ剝奪スルカ如キコトアラハ之正ニ露國ノ内政ニ對スル干渉ト目セラレ連合國政府カ從來声明セル政策ニ反スルモノト解セラルヘク是帝國政府ノ切ニ憂慮ニ堪ヘサル所ナリ

果シテ然ラハ今回米國政府提案ノ方法ハ極メテ重要ナル軍事的ノ必要ヲ理由トシテ弁明スルコトヲ得ヘキヤ否ヤノ問題ヲ生ス八月二十一日浦潮斯徳ニ開催セラレタル連合各國代表武官及露國鐵道從業員ノ會議ニ於テ露國鐵道ノ管理經營ハ依然露國吏員ノ手ニテ行ハルヘキコトヲ決議セル次第ハ米國政府ニ於テモ承知セラル所ナルベシ而シテ軍事的

必要ノ問題ハ該會議ニ参列セル連合各國武官ニ於テ慎重考究セラレタルコト疑モナキ所ニシテ其ノ決議ハ事實現場ニ於ケル軍事的専門家ノ熟慮ニ成レル所見ヲ代表スルモノナルカ故ニ十分尊重セラルヘキモノトス

從テ帝國政府ニ於テ淡白ニ其ノ所見ヲ披瀝セハ（急迫必須ノ軍事的需要ノ見地ヨリ結局該決議ノ変更ヲ要スルニ至ル迄）ハ今回米國提案ノ如キ重大ノ疑惑ト軋轢トヲ生シ易キ措置ハ共同交戰國中何國ニ於テモ之ヲ避クルコト安全ナル方策ナルヘシト信スルモノナリ

（欄外註記）

〔（ ）内ハ左記ノ如ク閣議ニテ変更（軍事輸送ノ為絶対必要ナル場合ノ外）〕

三〇八 九月十七日 日本外務省ヨリ  
在本邦米國大使館宛

シベリア鐵道及東支鐵道ノ一般管理問題ニ關ハ回答覺書送付ノ件

Minister for Foreign Affairs presents his compliments to the American Chargé d'Affaires, and has the honour to send herewith a Memorandum setting

forth the views of the Imperial Government on the question of general direction of the Trans-Siberian and Chinese Eastern Railways as proposed in the Memorandum of the American Embassy of September 3.

Ministry of Foreign Affairs,  
Tokio, September 17, 1918.

(密 緩)  
Confidential

#### MEMORANDUM.

The Japanese Government fully realize the situation in which it has been found advisable by the Government of the United States to make an arrangement proposed in the Memorandum of the American Embassy of September 3, for placing in Mr. Stevens' hands general direction of the Trans-Siberian and Chinese Eastern Railways. They presume that the proposals have been actuated solely by considerations of military necessity, as no other reasons would seem to justify a measure which will necessitate the displacement of Russian officials contemplated in those proposals. Whatever may be said against

General Horwath of his recent political move, it can not be denied that he was duly appointed as Director of the Chinese Eastern Railway, and that his appointment was duly confirmed by the last recognized Government of Russia. In that capacity, he is also lawfully in charge of the Ussuri Railway, administration of which has under Russian law been entrusted to the Chinese Eastern Railway. It is well understood that Mr. Stevens and the members of the railway units under his supervision were equally chosen and empowered by the same Government of Russia which confirmed General Horwath's authority, and are being paid and supported out of funds belonging to the Russian people. It would however appear that they were so chosen and empowered for a specific mission of giving technical advise to the Russian Government and railway officials, and that neither the Advisory Commission of Railway Experts under Mr. Stevens, nor the Russian Railway Service Corps under Colonel Emerson have been authorized to assume direction of Russian railways, or generally to act as agents of the Russian people outside the

scope of the defined mission. Accordingly, the Japanese Government sincerely apprehend that if General Horwath and the railway officials under him were to be removed by foreign Powers from the office which they have lawfully held, such action might with good reason be regarded as constituting intervention in Russia's domestic administration, which it has always been the avowed policy of the associated Governments to denounce.

It then remains to examine whether the measure now proposed would be warranted by military necessity of supreme importance. It will be remembered that at the conference of the Allied military representatives and the Russian railway officials held at Vladivostok on August 21, it was decided that the direction and management of Russian railways be left in the hands of Russian officials. No doubt the question of military necessity was carefully weighed by the Allied officers who took part in the conference, and full importance should be placed on the decision then adopted, representing as it does the considered views of the military experts on the spot.

In this situation, the Japanese Government are frankly of opinion that in the absence of absolute necessity for purposes of military transportation it would be a safer course for any of the belligerents to refrain from action such as is now proposed, which with all its good intentions, might readily give rise to serious misgivings and frictions.

Ministry of Foreign Affairs,

Tokio, September 17, 1918.

(註 右記書前掲閣議決定、並略トシ)

110九月十八日 在藤外務大臣(別電)  
後藤米國石井大使宛(電報)

「北支鐵道及東支鐵道管理問題」の圖々表

→申由並其回向右記報トシ

第11711號

往電第11141號「關ソ在本邦米國大使(九月十一日更別電)」、姫キ覚書ヲ提出ヤニ付帝国政府(九月十七日別電)ノ姫キ回答覚書ヲ回國代理大使(交付セリ)

右別電共、各大使(輸電ノリタシ)

一二 シベリア及東支兩鐵道管理ニ関スル交渉一件 三一〇 三一

使館覺書英文即チ前掲三〇ノ文書ノ附屬書ト同文ナ

ルニ付省略ス

2 石井大使宛往電第三七五号別電二ハ九月十七日附帝国政  
府覺書英文即チ前掲三〇八文書ノ別紙ト同文ナルニ付省  
略ス

三一〇 九月十八日 後藤外務大臣ヨリ

（在中國林公使在哈爾賓佐藤總領事各宛  
電報）

西比利亞及東支兩鐵道管理問題ニ關スル米國

ノ申出並我回答ニ付通報ノ件

在中国林公使宛第八〇一号

在哈爾賓佐藤總領事宛第三七〇号

往電第一七七五号（北京）第三五〇号（哈）ニ關シ在本邦

米國大使ハ九月十三日更ニ別電<sup>(註1)</sup>一ノ如キ覺書ヲ提出セルニ

付帝國政府ハ九月十七日別電<sup>(註2)</sup>一ノ如キ回答覺書ヲ同國代理

大使ニ交付セリ

註1 林公使宛往電第八〇二号（佐藤總領事宛）別電一ハ九月十三日附米國政

府覺書訳文即チ前掲三〇文書附屬書ノ和訳文ナルニ付省略ス

2 林公使宛往電第八〇三号（佐藤總領事宛）別電二ハ前掲三〇七文書即チ九月十七日閣議決定ノ

第五六四号 （九月二十日接受）

松平政務部長ヨリ左ノ通

九月十八日「エリオット」ニ面会ノ際談適々米國ノ鐵道管

理引受問題ニ及ヒタルカ同氏ハ目下「ウラル」地方ニ彈薬

軍需品等ヲ速ニ輸送セサル可ラサルニ拘ラス鐵道ノ輸送力

微弱ナルハ遺憾ニ付此際米國ノ技師カ多数手ヲ連ネテ遊ヒ

居ル折ヲ利用スルハ最モ都合良キコトト信ストテ米國ノ提

議ニ同情シ日本側ノ異存ヲ了解セサル口吻ヲ漏シタルニ付

本官ハ既ニ東京ニ於テ本件ハ日米當局者間ニ交渉中ナルヲ

以テ當地方ニ於テ之ヲ論スルハ delicate ニ付本官ハ何モ意

見ヲ申述ヘサルモ英國政府ニ於テハ米國ニ露國鐵道ノ管理

ヲ委任スルニ對シ異存ナキ次第ナルヤト尋ネタルニ何等異

存ナキモノト思考スル旨ヲ述ヘ寧ロ日本カ異存ヲ有シ鐵道

改良カ後ルルコトヲ不満ニ思ヒ居ル様子ナリキ本件ニ關シ

テハ過日浦潮ニ於テモ同様ノコトヲ坐談トシテ話シタルコ

ト有リ當時ハ今回ノ如ク判然ト意見ヲ述ヘタルニ非ラス本

官ハ日本カ容易ニ相當ノ技師ヲ派遣シ得可キ地位ニアル旨

及日本ノ國論ニ顧ミル時ハ直ニ米國ニ一任スルコトノ困難

ナルコトヲ本官一己ノ考トンテ話シタルニ止リシカ其後英

國ヨリ鐵道專門ノ軍人來浦シ頻リニ鐵道狀態ヲ研究シ居リ

一面「ノツクス」モ来リテ「ウラル」戰線ニ有力ナル戰闘

力ヲ作ラントスル計画等ニ顧ミ鐵道ノ改良ヲ一日モ早ク実

行ス可キ必要ヲ認メ米國技師ニ管理ヲ一任シタキ考ヲ起シ

タルモノノ如ク尤モ本官カ米國ノ希望ハ單ニ一時的ノ管理

ニ止ラス将来ニ亘リテ其実權ヲ獲得セントスルモノト思ハ

レ從テ重大ナル政治上ノ意義ヲ有スルニ付輕々ニ決定スヘ

キモノニ非ラスト述ヘタルニ対シ米國カ該鐵道ヲ占領スト

モ思ハレサルニ付差シテ心配ナカル可シト簡單ニ答ヘタル

ヨリ見ルモ「エリオット」ハ单独ニ軍事上ノ見地ヨリ改善

ヲ急キ居ルモノニシテ別段政治上深キ考ヲ有スルモノニア

ラスト思ハル

在浦潮總領事ヘ転電セリ

一二 シベリア及東支兩鐵道管理ニ関スル交渉一件 三一一 三二

回答覺書案ト同文ナルニ付省略ス

（在哈爾賓佐藤總領事宛電報）

シベリア及東支兩鐵道管理問題ニ關シ松平政

務部長エリオット會談ノ件

（九月二十二日接受）

最近米國政府ハ日支兩國政府及極東連合軍ニ對シ東支鐵道

管理權ヲ要求シタルヤニ風説セラル所若シ之カ事實ニシ

テ右要求ノ容レラルルコトアランカ當方面ニ於ケル我が國ノ

二二 シベリア及東支兩鐵道管理ニ關スル交渉一件 三一〇 三一

三二

三三

四〇一

出兵モ結果ニ於テ半バ其意義ヲ失フコトナキヤト思考セラル蓋シ帝国政府カ時局ノ推移ニ鑑ミ内外紛々ノ事情ヲ排除シ断然東露及北満方面ニ対シ出兵セラルニ至レルハ要スルニ将来同方面ニ於ケル國力発展ノ根拠ヲ確保セントスルニ之レアルヘク而シテ我出動軍隊ハ着々予期ノ成績ヲ収メ國民活動ノ機運漸ク旺盛ナラントスルノ今日突如中間勢力ノ為メニ其機先ヲ挫折セラレ同地方面カ地理的ニモ經濟的ニモ中断孤立ノ状態ニ置カルルハ我國民ニ執リ殆ント忍ヒ難キノ苦痛タラスンハアラス素ヨリ米國ノ要求ナルモノハ或ハ一時的ノモノナルヤモ知レサルモ露國ノ現状ヨリ察スルニ時局カ将来如何ニ收拾セラルトモ彼レニ在リテハ到底辺境ノ一鉄道ヲ顧慮スルカ如キ余裕アルヘントモ思ハレストスレハ一度米國ノ掌裡ニ帰シタル這般ノ権利ニ対シ殆ント之カ回収ノ期ナキヲ覺悟セサルヘカラス之レ帝国ニ執リテハ実ニ由々數大事ナリ然ラハ帝国政府ハ之ニ對シテ如何ノ措置ニ出ツヘキヤト云フニ從来本官ハ日露協約ノ精神ニ依リ露國カ東支鐵道ニ閔スル既得ノ権利ヲ維持スルコト不可能ナル場合ニハ日本ハ露國ニ代リテ単独ニ之レカ擁護ノ責ニ任シテ然ルヘシトノ意見ヲ有スル次第ナルカ既ニ

東支鐵道ノ行政權カ無造作三支那政府ノ手ニ移リタル今日支那ハ東支鐵道會社創立當時ノ形式上ヨリ飽迄之レヲ露支那ノ共同物ト為シ最早既往ノ如ク同鐵道ニ對シテ全然無關係ノ地位ニ立ツコト之レナキハ何人モ疑フ容レサル所ナリ事情右ノ如クナルニ於テハ帝国政府ハ此際寧ロ支那ヲ助ケテ同鐵道ノ管理權ヲ其手ニ取メシメ名実共ニ露支兩國ノ手ニ托シ現狀維持ニ勉メ以テ米國勢力ノ進漸ヨリ之レヲ擁護シ而シテ支那ニ對シテ同鐵道ニ依ル我國力ノ東露及北満方面ニ於ケル發展上ニ何等窮屈ヲ感スルコトナキ丈ケノ保障ヲ為サシメ置クコト最モ得策ナリト思考ス御参考迄ニ卑見申進ス（十九日）

北京奉天哈爾賓ヘ転電セリ

### 三一四 九月二十日 參謀本部調書

#### 判決

#### 東清鐵道ノ輸送力増加ニ閔シ緊急措置ヲ要ス

東清鐵道輸送力ノ劇減ハ作戦上至大ノ関係ヲ有スルヲ以テ帝国ハ輸送力ヲ援助增大スル目的ヲ以テ哈爾賓長春間ヲ四

呪八時半軌隔ニ改訂シ同区間ノ輸送ハ満鉄ヲシテ之ヲ担任セシムルヲ要ス但シ本改訂は全ク軍事上必須ノ要求ニ基クモノナルカ故ニ其必要止ム時ハ何時ニテモ原状ニ復セシムヘク又現在ノ露國從業員ハ改訂後ニ於テモ情況之ヲ許サハ依然該線ニ使用スルヲ妨ヶス

#### 理由

東清線ノ同盟罷工ハ一時終熄シタルカ如キモ其後ニ於ケル輸送力ハ予テ東清鐵道管理者ト協定セル輸送力七列車ニ対シ僅ニ二、三列車ヲ運転シ得ルニ過キサルノミナラス今後短時日内ニ之ヲ増大シ得ル望亦甚鮮シ、同盟罷工ノ為約二週日ニ亘リ輸送全ク杜絶シ多量ノ輸送物件停滯シタル後更ニ上記ノ如ク協定輸送力ノ減退セル結果我軍ハ適時後貝加爾州ニ進入シ冬營準備ヲ完了スルコト不可能ニ陥ラントシツツアリ之レ実ニ我軍ノ忍フ能ハサル所ナリ如之「サマラ」方面ニ於ケル「チェック」軍不利ノ情況ニ基キ之カ救援ノ為在極東「チェック」及連合軍ノ西進ニ伴ヒ車輛ノ散逸一層大ナラントス元來「チェック」軍等ニアリテハ

隨所ニ車輛ヲ押收シテ之ヲ自己ノ所有トナシ之ニ起臥シテ更ニ返却セサルノミナラス最近「ガイダ」ノ如キハ東清鐵

道及後貝加爾鐵道ニ對シ「チェック」軍西送ノ為ニハ全力ヲ尽スヘク之カ為一般ノ交通列車ヲ廢止スヘキヲ命スルカ如キ不当ノ処置ヲナセルモ東清鐵道ハ之ヲ拒絶スルノ實力ヲ有セス從テ車輛ハ遠ク西方ニ散逸スルノ狀況ニ在リ以上ノ実況ニ鑑ムル時ハ冬期ニ於ケル我軍ノ補給ノミニ関シテモ未タ樂觀ヲ許サス況シヤ我軍ノ後貝加爾進入ハ「チエック」軍ノ推進及極東治安ノ維持ノ為最必要ニシテ今ヤ一日ヲ寛フスヘカラサル情態ナルニ於テハ特ニ輸送力ノ不足ヲ感セサルヲ得ス故ニ此際ニ於テ東清鐵道輸送力ノ増大ヲ計ルハ出兵目的ノ達成及極東治安維持ノ為緊要無ニノ事項ナリトス

東清線輸送力ノ不足ハ輸転材料ノ散逸其根本原因ニシテ且急速ニ車輛ノ增加方法ヲ講スルコト亦至難ナリ從テ迅速ニ輸送力ヲ増大スヘキ方法ハ東清南部線ヲ改築シ該線ニ使用セル車輛ヲ哈爾賓以西ノ輸送ニ使用スルノ外全ク手段ナシ故ニ我軍ハ軍事上ノ必要ニ基キ東清南部線ヲ満鉄軌隔ニ改築シテ東清線ノ輸送力ヲ援助スルヲ必要トス

改築ノ結果増加シ得ル輸送力は哈爾賓、滿州里間ノ現在輸送力ノ殆ント三分ノ一ニ達スヘシ此輸送力ハ現時ノ情況上

至大ノ価値アルコト論ヲ竣タス依テ速ニ改訂作業ニ着手スルヲ要ス若夫レ軍事上ノ必要止ムニ於テハ何時ニテモ之ヲ原状ニ復スヘキハ露國從來ノ権利ヲ尊重シ内政不干渉ヲ主義トスル帝國ノ必然採ルヘキ処置ナルハ是ニ絮説ヲ要セサルナリ

以上ハ軍部ノ意見ニシテ之カ実行ニ關シテハ外交上ノ折衝ヲ竣シヲ要スト雖軍事上ノ要求甚急ナルニ鑑ミ特ニ急速解決ノ処置ヲ採ルコト緊要ナリト認ム

三一五 九月二十一日

在中国芳沢臨時代理公使ヨリ  
後藤外務大臣宛(電報)

### 東支鐵道ニ關スル中國政府ノ抗議ニ對シ反駁

ヲ加ヘ置クコト可然旨稟申ノ件

第一二五八号

(九月二十三日接受)

往電第一二三一号ニ關シ

其後更ニ考慮ヲ遂クルニ東支鐵道ニ關シ從來事實上ニ於テ何等ノ権利ヲ行使スルコト能ハサリシ支那政府カ俄ニ頑強ナル抗議ヲ反覆シテ飽ク迄モ日本ニ対スル讓渡ヲ無効ナラシメムトスルカ如キハ少クトモ事實ヲ無視セル書生論ト云フノ外無ク即チ支那政府ハ東支鐵道ニ対シ實際投資ヲ為

今日軍司令部ニテ日本側關係者会合ノ上次ノ相談ヲ為セリ  
(一) 鐵道管理權ニ關シテハ露國ノ主權ヲ尊重シ列國之ニ容喙セサルコト、從テ過日仏國ノ諸委員會設置ノ申込ニ対シテハ次ノ意味ニテ答フルコト

鐵道管理ニ就テハ日支ト米國トノ間ニ於テスル處アリ故ニ外交機関ニ於テ之カ解決ヲ見ル迄ハ從前通リニナシ置クヘシ

(二) 輸送請求ニ關シテハ烏蘇里方面ハ浦潮軍司令部ノ列國委員之ヲ區處ス但シ浦潮方面ヨリ直接「ザバイカル」方面ニ輸送スル軍隊アルトキハ浦潮軍司令部ノ列國委員ヨリ露國管理者ニ請求シ露國管理者ハ要スレハ哈爾賓日支合同機関ト交渉ノ上之ニ応スルモノトス

(三) 米國大使大谷司令官ニ対シ「スチーブンス」一行ノ内浦潮滞留ノ者ヲ露國鐵道ニ滯在シアル米國側ト合意ノ上鉄道業務上ニ「インストラクター」トシテ使用セラルルヨキハ次ノ意味ニテ回答スルコト

軍事輸送ヲ良好ナラシムル為メ現在東清鐵道ニ於テ実行シアル方法ニ準シ浦潮ニ滯在シアル米國側ト合意ノ上鉄道業務上ニ「インストラクター」トシテ使用セラルルヨ

一二 シベリア及東支兩鐵道管理ニ關スル交渉一件 三一七

シタルコトナク且ツ從前共同經理ノ件ニ關シ商議ヲ行ヒタルコト無キト同時ニ支那政客ノ主張スル領土主權ノ問題ハ公法上ノ關係(脱)國カ鐵道ノ讓渡ヲ商議スルハ毫モ領土主權ノ問題ト関渉スル所無ク要スルニ何見地ヨリ云フ

モ支那政府ハ日露兩國間ノ協議ニ對シ抗議ヲ提起スルノ理由無シト云ハサルヘカラス然ルニ若シ先方ノ抗議ニ對シ何等論駁ヲモ加ヘサルトキハ却テ先方ノ主張ヲ黙シタルカ如キ口実ヲ与ヘシムル虞モ有之旁々叙上ノ趣旨ニ依リ一応ノ論駁ヲ与ヘ置ク方可然ト思考セラルニ付テハ折返シ何分ノ義御回電アリタシ尚貴電第八〇一号別電ノ二米國ニ對スル帝國政府ノ回答ハ論旨頗ル肯綮ニ當リ遺憾無ク米國側ノ主張ヲ破壞セルモノト存セラル所東支鐵道ヲ事實上米國其他ノ単獨管理ニ歸セシムルカ如キ誘因ヲ除去スルコト極メテ必要ナルハ申迄モ無之右ノ見地ヨリ云フ前記支那政府ノ抗議ニ對シ此際反駁ヲ加ヘ置クコト可然ト思考セラル御参考迄ニ申添フ

三一六 九月二十二日

在浦潮木下鐵道院運輸局長ヨリ  
岩永總裁秘書宛(電報)

### シベリア及東支兩鐵道管理問題ニ付日本側關道代表ヨリ提議ノ件

浦參第一二五五号

トハ異議ナシ尤右ハ全然鐵道管理問題トハ關係ナキモノト了解ス猶各國指揮官ノ同意ヲ求メ確答スヘシ  
本日ノ會議ニハ星野、長尾両氏モ出席セリ  
三一七 九月二十三日

由比浦潮軍參謀長ヨリ  
田中參謀次長宛(電報)

### シベリア及東支兩鐵道管理問題ニ付英國側鐵道代表ヨリ提議ノ件

英國側ノ鐵道代表武官「ジャック」來訪シテ曰ク「ピショノ」提案ノ鐵道問題ニ對スル決定ハ一ニ日本政府ノ回答ヲ待チツツアル事情ナルカ自分ノ考ニテハ米國ノミニ鐵道ヲ委托スルハ好マサル所ナルモ紛糾セル現在ノ國際關係並露國鐵道現状ノ儘ニテハ軍事ノ要求ヲ充ス能ハス依テ軍事輸送委任ハ從来ノ如ク軍司令官ノ令下ニ業務ヲ実施シ別ニ露國ノ主權ト管理權トヲ侵害スルコトナク列國ヨリ鐵道業務ニ堪能ナル有力者ヲ出シ一團トナリ露國鐵道吏員ノ援助指導ニ任シ以テ鐵道業務ヲ改善シタシ若シ今日ノ儘ニ放棄セハ露國自ラ独立シテ万事ヲ解決処斷スル力ナキ故軍事輸送ヲ円滑ナラシムルコト能ハサルヘント

右ハ米国ノ提案及ヒ「ヒシヨン」案ノ対案トモ見ルヘキモ  
トニシテ現状ニ鑑ミルニ大勢ハ現制ヲ維持シ能ハスサレハ  
テ日本ノミニテ鉄道業務ヲ壟断シ若クハ単独ニテ露国鉄  
道ヲ指導シ能ハサルヲ以テ右ノ提案ヲ容レテ米国ノ専断ヲ  
防止シ一日モ早ク鉄道運行ヲ円滑ナラシムルヲ必要ト考フ  
右ノ案ヲ採用セラルルニ於テハ交換条件トシテ東支鉄道ノ  
指導援助ハ日本ニ於テ担任スル如ク協定セラレ得ル如ク感  
セラル目下英仏ハ西伯利亞鉄道改善ノ為ニハ日米ノ歎心ヲ  
得ルコトニ熱中シアル故此際日本ノ鉄道政策ヲ積極ニ実施

本官病復ノ為九月廿三日船津ヲシテ外交次長（陸續長ハ山  
海閥ニ赴キ不在中）ニ面会ノ上米國大使館ノ覚書二通ノ概  
要及帝國政府覚書ヲ口頭ニテ説述セシメタル後尚ホ帝國政  
府覚書ハ「パラフレーズ」シタル全文写ヲ手交シタル所陳  
次長ハ早速明日ノ國務會議ニ報告スヘキ旨ヲ答へ尙船津ノ  
問ニ対シ米國代理公使ハ本件ニ関シ前後二回外交部ヘ申入  
ルル所アリタルモ國務會議ニテ廿三日東支鐵道ハ可成現狀  
ヲ維持シ米國ノ申出ハ一応之ヲ拒絶スルコトニ決シタル旨

ヤシハハ時機ニ得タハニハ「一木」少佐ニ「尚矣一シ、一ノ」少佐  
全鉄道長官ニ「ホルワット」ヲ推スモ可ナリトノ意見ヲ渢  
シタリ從来「ホルワット」嫌ノ英國側ヨリ此事ヲ聞クハ彼  
等ノ意向ニ変化ヲ生セルカ如シ

三一九 九月二十四日 在蒲潮菊池總領事ヨリ  
後藤外務大臣宛(電報)  
ホルワット極東太守任命東支鐵道ニ閔スル米  
國提議等諸問題ニ閔シルニヨール松平政務部

東支鉄道管理問題ニ関スル米國提議ニ対スル  
後藤外務大臣宛（電報）

第五九五号

第一二〇四

(六)一一五二指壓

本ハ如何ニ見ルヤト尋ネタルニ付本官ハ日本ニ於テ異存ヲ  
挾ムヘキ理由ナシト思考スル旨ヲ述ヘ仏国政府ニ於テ異議  
ナキヤラ尋ネタル所同氏ハ「ホルワット」ハ地位経歴ニ於  
テ不足ナキモ変転常ナク鞏固ナル意思ヲ有スルモノト思ハ  
レザルモ右任命ニ対シ別ニ異議ナキ旨ヲ述ヘ唯米國カ反対  
ナル趣ヲ聞キタルニ依リ可成極東太守ハ連合各国ニ都合ヨ  
キ人ヲ得タシト言ヘルニ付本官ハ米國力内政不干涉ヲ特ニ  
標榜シ居ルニ付「ウオロゴツキー」ト「ホルワット」ト合  
意ヲ以テ定ムルモノニ異議ヲ挾ム理由ナカルヘク又連合國

三一〇 九月二十六日  
在仏国松井大使(ヨリ)  
後藤外務大臣宛(電報)

## シベリア鉄道管理問題二関シ仏国外相ト会見訓令執行ノ件

第四三九号

(九月二十八日接受)

々尋ネタルニ付本官ハ概略差支ナキ範囲ニ於テ日本側ノ立

場モ説明シタル後仏國政府ニ於テハ米國ノ提議ニ異存ナキ

頃ノヌレ米国覚書、日本國政府ニ提出シテノヌレモノノ屋内

次第ナレヤト尋<sup>シ</sup>タレ所<sup>ニ</sup>鉄道輸送力ノ増進、割下ノ急務也

領シ外ハ光國覚書ノ日本國政府ニ提出セリ外ハ千八程的

次第六十八  
尋六十八所鐵道轉造力大增造八萬一千急務故

確ニアラサリシ様記憶ス大体差支ナキコトト思ヒ既ニ同意ノ旨回答シタリ右回答ハ為念早速御送リスヘシトノ事ニ付

誤解ヲ与フルコトハ面白カラサル三付軍事上一時米国ニ管

一二 シベリア及東支両鉄道管理ニ関スル交渉一件 三〇

二二 シベリア及東支両鉄道管理ニ関スル交渉一件 二二〇

四〇七

本使ハ本問題ハ帝国政府ニ取リテハ重要ナルモノニシテ而  
カモ極メテ微妙ナルモノナリト述ヘタルニ貴説ノ通責国ニ  
利害ニ大関係アルヘキハ自分モ了解スト答ヘラレタリ（九  
月二十六日）

卷之三

三一  
九月二十六日  
在浦潮菊池總領事ヨリ  
後藤外務大臣宛(電報)

在浦潮菊池總領事ヨリ  
後藤外務大臣宛(電報)

○  
二  
務部長二談話ノ要領報告ノ件

松平政務部

第六八号

大使ハ目下露国民力急ニ要スルモノハ食料ヨリモ衣類ニシテ如何ニシテモ嚴寒ニ入ル前充分ノ品物ヲ輸入セサル可ラサルニ付約金（脱）万円丈ヶ綿製品（毛布下著、沓下等）急ニ日本ニ注文シ之ヲ露国ノ「コオオペラチーヴ、ソサエティー」ノ手ヲ経テ分配セシメントスル旨ヲ語リ尚ホ「チエ報告ス

ス米国ノ鉄道隊員ハ皆米國ニ於テ有要ノ人物故目的ヲ達ス  
レハ一日モ早ク本国ニ引揚ケタキ心算ナリトテ熱心ニ語リ  
日本ノ反対ハ唯參謀本部ニ存スルモノト思ハルカ右ノ点  
ハ言質ヲ与フルモ可ナリトテ努メテ米国野心ノ誤解ヲ解カ  
ントシ、尚本件ニ関シテハ大使ヨリ國務卿ニ宛テタル電信  
ナリトテ読聞カセタルカ其大要ハ『日本出立前後藤男ハ米  
国提議ニ対シ英仏ノ反対アルヘキヲ述ヘタルカ当地ニ来リ  
タル後、各方面ノ意向ヲ探リタル所「ノックス」將軍、「ジ  
ヤック」（英國鐵道家）及ヒ「オルストン」（英國ハイ、  
コミツシヨナー代理）何レモ米国提議ニ賛成シ居レリ「チ  
エック」及「オムスク」政府モ皆之ヲ希望シ居レリ、此際  
是非トモ大谷司令官ニ於テ鉄道保護ニ任セラレ「スチーブ  
ンス」一行ヲ利用セラル様石井大使ニ極力説カレタシ』  
トノ意ナリ尚ホ同大使ハ仏國モ亦異議ナキモノト思考スル  
旨申居タリ尚「エマーソン」大佐ヲ呼ヒ運行ノ計画ヲ詳細  
説明セシメタルカ右ハ木下局長ヨリ詳報アリシコト思考  
スルニ付略ス必要アラヘ報告スヘシ尚ホ大谷司令官ノ下ニ  
米国鉄道隊ヲシテ活動セシムルト雖モ露国人ヲシテ全ク干  
渉セシメス不必要ノ人員ハドシドシ解雇スル積ナリ之カ為

ニ露国人ノ反感ヲ買フモ正義ノ為メナレハ意トスルニ足ラ  
ス但シ「ホルワット」鐵道長官又ハ如何ナル名義ヲ有スル  
トモ実權ヲ与ヘサル限りハ差支ナク又一旦軍事上ノ必要終  
レハ「ホルワット」ニ返還スルモ新政府ニ返スモ差支ナシ  
ト云ヒ「オムスク」政府ニ閔シテハ未タ之ニ援助ヲ与ヘ又  
ハ承認スル時機ニ達セサルニ付暫ク之ヲ期待セサル様「ウ  
オロゴツキ」ニモ語リタリト云ヒ「ホルワット」カ執政  
官ノ一人トナリ又ハ極東ニ太守ヲ置キテ「ホルワット」ヲ  
任スルヤ否ヤノ問題ハ露国人自身ニテ決スヘキ問題ニシテ  
自分ハ何等趣味ヲ有セス現ニ「ホルワット」側ノ者ニモ其  
旨申伝ヘタリ要スルニ自分ノ目下重キヲ措ク問題ハ経済援  
助ノ問題ト鐵道ノ問題ニシテ新政府組織ノ問題ニハ趣味ヲ  
有セスト云ヒ東支鐵道長官トシテノ「ホルワット」ヲ極力  
罵倒セルニ拘ハラス政治上ニ於ケル「ホルワット」ニ対シ  
テハ極メテ淡白ノ態度ヲ示シ居リタリ本官ハ成ルヘク當方  
ノ意見ヲ述ヘス先方ノ意見ヲ聞ク様ニシテ大使ノ話ハ大谷

幣原外務次官  
在本邦英國大使 會談

一二 シベリア及東支両鉄道管理ニ関スル交渉一件 三一

三三一 九月二十七日

「スク」兵士七万五千人分ノ外套及ヒ洋服ハ現ニ米国ヨリ當地ニ輸送ノ途中ニ在リト云ヒ、英國ノ議論ニ係ル列國經濟委員会ニ関シテハ真ニ援助ヲ与ヘ得ルハ日本ト米国ノミ故シタルハ軍事上ノ必要ヲ充タスダメ鐵道ノ「オペレーション」ヲ全部「ステーヴンス」ニ委カセラレタキ希望ニシテ「アドミニストレー・ション」ヲ取ルノ意ニ非ス（此區別ハ同大使モ判然セサルニ非サルヤト思ハル）現今ノ如ク「ホルワット」カ全ク鐵道ニ対シ整理ノ能力ナク軍隊ノ輸送上支障多ク而カモ多數ノ車輛ハ徒ニ「ホルワット」兵其他ノ宿舎トシテ濫用セラレ居ル狀態ナルニ付大谷司令官ニ於テ軍事上ノ必要上鐵道ノ保護ヲ引受ケ米國鐵道班ト共ニ齊ラセル材料ヲ用ヒテ著々輸送力ヲ増進シ軍事上ノ必要ナント大谷司令官ニ於テ認ムレハ何時ニテモ米國隊ヲ引揚ク可ク右ハ全ク一時的ノモノニシテ何等米國ニ於テ野心有ルニ非ス但シ「ホルワット」鐵道長官又ハ如何ナル名義ヲ有スルトモ実權ヲ与ヘサル限りハ差支ナク又一旦軍事上ノ必要終レハ「ホルワット」ニ返還スルモ新政府ニ返スモ差支ナシト云ヒ「オムスク」政府ニ関シテハ未タ之ニ援助ヲ与ヘ又ハ承認スル時機ニ達セサルニ付暫ク之ヲ期待セサル様「ウオロゴツキー」ニモ語リタリト云ヒ「ホルワット」カ執政官ノ一人トナリ又ハ極東ニ太守ヲ置キテ「ホルワット」ヲ任スルヤ否ヤノ問題ハ露国人自身ニテ決スヘキ問題ニシテ自分ハ何等趣味ヲ有セス現ニ「ホルワット」側ノ者ニモ其旨申伝ヘタリ要スルニ自分ノ目下重キヲ措ク問題ハ經濟援助ノ問題ト鐵道ノ問題ニシテ新政府組織ノ問題ニハ趣味ヲテハ極メテ淡白ノ態度ヲ示シ居リタリ本官ハ成ルヘク当方ノ意見ヲ述ヘス先方ノ意見ヲ聞ク様ニシテ大使ノ話ハ大谷罵倒セルニ拘ハラス政治上ニ於ケル「ホルワット」ニ対シ司令官及政府ニ達スヘキ旨ヲ述ヘ置キタリ

シベリア及東支兩鐵道管理ノ米國政府案ニ閲  
スル件

西比利亞鐵道管理問題ニ閲シ英國大使幣原次官会談要領

(大正七年九月二十七日)

九月二十六日在本邦英國大使幣原次官ヲ來訪シ西比利亞鐵道管理問題ニ閲スル米國政府ヘノ貴國政府回答拝見致シタルカ日本政府ニ於テ「ホルワット」ヲ免黜セントスル米國案ニ対シ内政不干涉ノ理由ニ依リ反対セラルハ至極尤モト存スルモ此際西比利亞鐵道ヲ改善スルノ必要アルコト並ニ此ノ目的ノ為メ「スチーヴンス」等ヲ利用スルノ極メ妥当ノ処置タルハ何人モ否定シ克ハサル所ナレハ自分(英大使)一個ノ私案トシテハ西比利亞鐵道全部(東清鐵道ヲ含ム)ノ管理ハ依然露国人ノ手ニ之ヲ委セ置クト共ニ其ノ指揮ノ下ニ米國技師一行ヲ隸屬セシメ以テ之カ實際上ノ運転ニ当ラシムルコトトセハ最モ便宜ナルヘント思考シ右英本国ニ電稟シ度ク存シ居ル次第ナリト述ヘタルニ付幣原次官ハ「スチーヴンス」等ノ技術ヲ此機會ニ利用スルノ極メテ有益ナルヘキハ素ヨリ異議ナキ所ナルモ本問題ニ閲シ茲取リタリ

ノ通リ目下内閣交送セントシツツアル際ニモ有之本問題ノ如キモ新内閣ニ於テ如何ナル方針ニ出ヅルヤモ逆賄致難キニ依リ打電(註)ノ儀ハ見合ハサレタシト答ヘラレタル所大使ハ之ヲ諒トシ然ラハ自分(大使)自身ノ意見具申方モ同時ニ暫ク見合ハスコト致スヘキニ付大臣並ニ參謀本部側トモ御打合ノ上改メテ貴見拝聴スルコトヲ得ハ幸ナリト述ヘ引取リタリ

註 磐原次官ノ私見ハ打電見合要望ニモ拘ラス英國大使ハ本国ニ電報セリ

三二三 九月二十七日 在哈爾賓星野少將ヨリ  
田中參謀次長宛(電報)

東支及シベリア兩鐵道輸送ノ悪化ヲ招キタル

根本事情ニ閲シ具報ノ件

星電第十二号

昨夜哈爾賓ニ着本日武内中将以下ト会見東清鐵道輸送ハ中將ノ適當ナル手配ニ依リ追々良好ナル状態ニナリツツアリ来月二十日頃ニハ第三師団ノ集中及糧秣輸送モ終ル見込今ノ處之レ以上急クモ無効ナリト思フ、鐵道運行紊亂ハ米國及支那カ東西「チエック」連絡以来我第三師団ノ西進ヲ必

ニ特ニ貴大使ノ切実ナル御注意ヲ邀ヘタキハ南滿州ニ於ケル日本ノ特殊地位從テ南滿ト最モ密接ノ関係ニ立テル北滿州ニ對スル日本國民ノ神経ノ極メテ鋭敏ナル一事ニ有之此時局ニ際シ東清鐵道ヲ事実米國技師ノ手ニテ運転スルコトトモ相成ラハ日本國民ノ神経ハ痛烈ナル刺激ヲ受ケ延テハ日米両國間ノ關係ニ甚タ面白カラサル惡結果ヲ醸成スルニ至ルナキヲ保シ難ク自分(次官)ノ衷心憂慮ニ堪ヘサルハ實ニ此一点ニ存スト述ヘタルニ大使ハ何国ト雖日本ノ此点ニ於ケル主張ヲ無視スルコトヲ得サルヤ必セリト答ヘタルニ付次官ハ就テハ全然自分(次官)一個ノ私見トシテ鐵道管理問題ニ対スル最モ適當ト思考スル解決案ヲ述フレハ東清鐵道ヲ除キタル西比利亞鐵道ハ米國技師ノ手ニテ又東清鐵道ハ日本技師ノ手ニテ改善スルコトシ共ニ露国人ノ下ニ属セシムル仕組トセハ可ナラント思考スルニ在ルヲ以テ付次官ハ夫ハ至極妙案ナリ原来英國ノ本意ハ實ハ如何ニモシテ米國ヲ西部西比利亞迄引張リ出サントスルニ在ルヲ以テ右ハ此ノ目的ニモ副フ所以ナレハ其ノ趣早速英本国ニ電報シ度シ差支ナキヤト質ネタルニ付次官ハ否右ハ初メニモ断リ置キタル通リ全然自分一個ノ考ナルノミナラス御承知

一二 シベリア及東支兩鐵道管理ニ関スル交渉一件 三二四

四一二

員ノ如キハ空論ニ耽ルモノニシテ実際ノ力ナシ由比電ノ英國「ジャック」提案助言委員設置ノ如キモ其効果ハ少ナカルヘシ何トナレハ鐵道ノ主脳者ノ命令カ系統的ニ行ハレサル現状故一二ノ助言杯カ役ニ立ツ筈ナケレハナリ故ニ委員会ハ單ニ之ヲ言論機関ト認メ日本ハ速ニ前電ノ如キ停車場司令部ニ鐵道隊ヲ用フルノ方策ヲ実行セラレタシ此事ハ東

清線ニ於テ特ニ必要ナリ露國ハ平時ヨリ停車場司令部ヲ置キ其權限ハ頗ル大ナルモノニシテ現ニ「ニコリスト」ノ我歩兵中尉ノ司令官ハ鐵道沿線ノ警察權ノ一部ヲ執行シ居ル有様ニシテ旧來ノ露國司令官ハ其權限ヲ我司令部ニ預リテ毫モ怪マサル有様ナリ

米国大使ト長春局長會議要旨ハ既ニ鐵道院ヨリ承知ノコトト信ス彼ハ人道上ヨリ見テ鐵道ヲ現在ノ儘ニ為シ置クニ忍ヒス何レノ國ノ名ニテモ速カニ改善スルヲ要スト主張スル由ニ付対案トシテ東清後貝加爾改善ヲ日本ニテ担任シ烏蘇里、黑龍、列國共同、「イルクツク」方面米國ニ担任セシムル等ノ方策ヲ正式ニ外交上ノ問題トスルコト一案ナルヘキカ御参考迄、吾出先ノ仕事ニ非ス又米國ト「ウストロゴフ」ノ關係大ニ左右スルモノト認ム

三二四 九月二十七日

(在浦潮菊池總領事ヨリ  
後藤外務大臣宛(電報))

シベリア及東支鐵道管理問題ニ關スル「ホル

ワット」ノ「モーリス」米國大使トノ会談要

領報告ノ件

(九月二十九日接受)

第六〇八号

松平政務部長ヨリ

第七五号

「ホルワット」ト米國大使トノ会見ニ關シ「クレム」カ

「ホルワット」ノ命ヲ受ケテ本官ニ内報セル要領御参考迄ニ左ニ報告ス

「ホルワット」ハ米國大使来浦後訪問スルコトヲ避ケ居リタル處兩三日前同大使ヨリノ招請ニ応シ訪問シタル所「モーリス」ハ西比利亞經濟援助及軍事上ノ必要ノ為メ鐵道ノ運行ヲ引受ケ度旨及「アドミニストレーション」ニハ關係セサルヘキ旨ヲ極力説キタルニ対シ「ホルワット」ハ列國軍事委員會ニ於テ議定セラレタル如ク鐵道ハ露國ニ於テ經營スヘキモノニシテ唯列國ノ國際的管理ヲ受クルハ異存ナキモ米國ノミニ托スルコト能ハサル旨ヲ述ヘ唯機關車貨車

其他ノ材料ハ援助ヲ米國ヨリ得度旨述ヘタル所大使ハ現在ノ材料ヲ以テスルモ其方法宜敷キヲ得ハ十分ナルニ付先ツ

米國鐵道班ヲシテ運行ニ任セシメラレ度若シ其上不足ナルニ於テハ更ニ考量ノ上援助ヲ与フルモ可ナリト云ヒシカ

「ホルワット」ハ自己ノ説ヲ主張シ纏ラス尚大使ハ「スチーヴンス」一行ニ対スル「ホルワット」ノ待遇ヲ非難セルニ対シ「ホ」ハ同一行トノ關係ハ今日迄良好ニシテ何等「スチーヴンス」ヨリ不平ヲ聞キタルコトナク尤モ若シ鉄道ニ関シ良キ忠告アラハ何人ヨリ之ヲ聞クモ辭セサル旨ヲ述ヘ結局米大使ハ至急哈爾賓ヨリ「スチーヴンス」ヲ招キ更ニ相談スヘキ旨ヲ述ヘ別レタルカ「スチーヴンス」ハ大使ノ電命ニテ昨夜来浦セルニヨリ二十七日午後「ホルワット」  
「スチーヴンス」米大使会合更ニ協議スル筈其結果ハ當方ニ報通スヘシト約セリ  
哈爾賓ヘ転電セリ

三二五 九月二十九日

(由比浦潮派遺軍參謀長ヨリ  
田中參謀次長宛(電報))

シベリア及東支兩鐵道管理ニ關スル日米妥協

案ニ付請訓並米國大使松平政務部長会談要旨

一二 シベリア及東支兩鐵道管理ニ關スル交渉一件 三二五

三二五

四一三

一一 シベリア及東支兩鐵道管理ニ関スル交渉一件 三二六

四一四

官力「スチーヴンス」ヲ不適當ト認メ其ノ業務ノ中止ヲ命セラルレハ何時ニテモ之ニ服従ス勿論此ノ時局終ラハ全部此ノ地ヲ引キ上クル筈ナリ要スレハ之ニ対スル質言ヲ与ヘテモ可ナリト述ヘタリ、而シテ「アドミニストレーシヨン」及「コントロール」等ノ文字ヲ使用セサリシ由、要スルニ此ノ言カ「スチーヴンス」ノ老後ノ花ヲ咲カサントスルニ在ルカ將又大々的政略ニ在ルカ遺憾乍ラ未タ其ノ真相ヲ窺知シ得ス更ニ探究ニ努ム可シ

三二六 十月二日

在浦潮菊池總領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

シベリア鐵道管理等ニ關スル米國側ノ新提案

二付好意的考慮ヲ加フル方可然旨具申ノ件

第六二八号

松平政務部長ヨリ

第九〇号

十月二日「モーリス」大使「スチーヴンス」ヲ帶同シテ本官ヲ來訪シ鐵道問題ニ関シ種々「スチーヴンス」ヲシテ説明セシメ尚往電第八一号ノ案ヲ更ニ進メ大谷司令官又ハ他ノ日本將軍ヲシテ其管轄区域ノ鐵道保護ヲ取ルコトノ命令

ヲ発セシメ露西亞人ヲ委員長トスル列國「アドヴァイソリーニ、コミッティ」ヲ設ケ其下ニ「スチーヴンス」及列國ノ技術家ヲシテ運行ヲ掌ラシメ(但シ「スチーヴンス」ヲ大谷司令官ノ任命及右列國評議員會ノ承認ニ依リ「ダイレクター、ゼネラル」トス)而シテ「スチーヴンス」ハ列國委員會ノ決スル所ニ依リテ働くコトトシ尚從業員ニハ露國人及列國從業員ヲ用フルコトニセハ如何ト申出テタリ尚大使及「スチーヴンス」ハ軍事上ノ必要終ラハ直チニ米國側ハ引揚クヘキ旨從米同様力ヲ籠メテ繰返シ居リタリ本官ハ右ノ趣帝国政府へ伝達スヘキ旨ヲ述ヘ置キタリ露國鐵道今日ノ情況ハ紊亂ヲ極メ輸送力微弱ニシテ軍隊輸送ハ勿論經濟援助ノ為メ多大ノ物資ヲ西伯利亞内地ニ運搬セントスルモ到底迅速ニ実行出来サル狀態ハ既ニ鐵道當局ヨリ詳細報告アリタルコトト思考ス此際米國側ニ於テ前記ノ如キ方法ヲ設ケテ一般ノ誤解ヲ防クニ努メ今日迄派遣セル米國ノ技術家及材料ヲ用ヒテ一面目下ノ急務タル鐵道輸送力ノ増大ヲ図リ他面本問題ニ關スル彼等ノ体面ヲ保タントスルニ当リ日本側ニ於テ彼等ノ提議ヲ斥ケ而モ之レニ代リテ迅速ニ輸送力ノ改善等ヲ行フヘキ提案モ出ササルニ於テハ列國ヲ

シテ却テ日本ノ野心ヲ疑ハシメ而シテ今後軍隊輸送及經濟援助ノ敏活ニ行ハレサル責任ヲ日本ニ帰セラルニ至ラハ面白カラスト思考スルニ付右米國案ニ対シテハ好意的考量ヲ加ヘラル方可然ト思考ス英仏代表者モ右案ノ通過ヲ切ニ希望シ居レリ

尚「モーリス」大使ハ往電第九五号「ギルザ」ノ公文ニ開シ米國ハ到底「チエック」カ「ウラル」ノ西ニ在ル間軍事上經濟上援助ヲ与フルコト能ハサルニ付彼等ニ「ウラル」ノ東ニ引揚ケ東部西伯利亞ニ存在スル「チエック」軍ヲ「オムスク」ニ集中セハ後方ノ守備ハ日本米國共ニ引受クヘク又鐵道ヲ改善シテ物資ノ援助ヲモ為スヘキモ「ボルガ」ノ戰線ニ対シテハ援助ヲ与ヘラレサル旨「ギルザ」ニ説キ聞カセタリト秘密ノ話トシテ語リタリ又「モーリス」ハ「オムスク」政府交通大臣ヨリ鐵道用ノ油欠乏シ居ルニ付約百万弗程ノ各種油ヲ得度キ旨申出テタルカ目下ノ如キ鐵道ノ狀態ニテハ到底手ノ付ケ様無キニ付其希望ニ応シ兼ヌル旨答ヘタル由申居リタリ

東支及シベリア兩鐵道ノ米國單獨管理ヲ防遏  
スル必要アル旨意見稟申ノ件

第一三一六号

西比利亞鐵道管理問題カ将来ニ対シ極メテ重大ナル關係ヲ有スルハ申迄モ無之右ニ就テハ疾ク卑見電票ニ及ヒタル力其後問題漸ク紛糾ヲ來タシ最近御電示ニ依レハ英仏伊三国政府共ニ米國側ノ主張ヲ支持セントスルモノナルヤニ認メラル所右ハ我方トシテ到底承服シ難キ所ナルハ勿論三国側ノ見ル所ハ畢竟現状ニ於ケル輸送力ノ維持増進ヲ主眼トスルニ過キシシテ「ホルワット」將軍及其部下ニ於ケル鐵道員ノ適法ニ有スル職權ヲ外國側ヨリ剥奪スルカ如キ措置ニ出ヅルハ之露国内政ニ關スル干渉ト云フノ外ナク從テ連合國政府カ從来声明セル政策ニ背反スルモノト云ハザル(脱)ノ帝国政府ノ正当ナル主張ヲ閑却セルモノト云ハザルベカラズ所詮之ヲ何レノ方面ヨリ立論スルモ帝国政府ノ主張ハ極メテ公正明確ニシテ連合國ハ鮮クトモ東支鐵道ニ關スル限り是非共「ホルワット」將軍ノ有スル權限ヲ尊重シテ之ヲ援助スルコト當然且唯一ノ合法手段ト思料セラルニ就テハ更ニ在英仏伊大使ニ御電訓ノ上各任國政府ノ切

三二七 十月二日

在中國芳澤臨時代理公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

一二 シベリア及東支兩鐵道管理ニ關スル交渉一件 三二七

四一五

一一一 シベリア及東支兩鐵道管理ニ関スル交渉一件 三二八

三二九

四一六

実ナル再考ヲ求メラル等遲滞ナク適切ナル措置ヲ講セラレ以テ鮮クトモ米国ノ単独管理ヲ防遏スルニ付御違算ナカラソコトヲ希望ス御参考迄ニ申進ス

三二八 十月三日 參謀本部總務部長ヨリ  
由比浦潮派遣軍參謀長宛(電報)

東支鐵道管理ニ関スル妥協案ニ対シ回訓ノ件

第一八七号至急親展(十月四日、參謀本部ヨリ外務省ニ送付)

浦参第二八六号見タ。日米兩國技師ヲシテ露國鐵道側ノ援助指導ヲナサシムル問題起ルモ現在ノ情況ヲ基礎トスルトキハ「ニコリスク」ヨリ哈爾賓ヲ經テ「カルイムスカヤ」ニ至ル間(哈爾賓、長春間ヲ含ムコト勿論ナリ)ハ我國ニテ担任スルコト必要ナリ貴電ノ如ク東清東部線ヲ米国ノ指導担任区域トスルハ絶対ニ不可ナリ何トナレハ東清東部線ヲ米国ニテ西部線ヲ日本ニテ指導スルコトトナラハ輪転材料ノ利用上大ナル不利ヲ來スコト明ニシテ自然軍事上ノ要求ヲ充シ難キ結果ニ陥ルヘケレハナリ加之滿州ハ西伯利亞全作戰軍ノ策源地タルノ關係上哈爾賓「ニコリスク」間ノ鉄道ハ我烏蘇里軍ノ後方連絡線タルコトモ米国ノ指導ニ委

シ難キ所以ナリ。右ノ場合ニ於テ浦潮ヨリ「ハバロフスク」ヲ經テ「カルイムスカヤ」ニ至ル全鐵道ノ指導援助ハス。米國大使カ松平トノ会談ニ於テ米國鐵道隊ヲシテ露國鐵道ノ「オペレー・ション」ヲヤラセタント述ヘ「アドミニストレーション」又ハ「コントロール」ノ文字ヲ避ケタリトノ件ハ菊池總領事ヨリ外務大臣宛電報ニテモ承知セリ但シ「オペレー・ジョン」トハ鐵道ノ運行經營ヲ實施スルコトニシテ其實質ハ「スチーヴンス」ノ意ノ如ク運行ヲ支配スルコトナリ「コントロール」ト大差ナシ此ノ場合ニハ我軍ハ其補給一切ヲ「スチーヴンス」ノ經營ニ委スルコトナルヘシ故ニ我國ハ米國鐵道隊カ露國鐵道ノ前記区间ヲ指導援助スルヲ可トスルモ之ヲ「オペレー・ション」スルコトニハ同意シ難シ。以上御念迄ニ。浦参第二九四号ニ対シテハ更ニ回答セラルル筈

三二九 十月六日 參謀本部總務部長ヨリ  
由比浦潮派遣軍參謀長宛(電報)

シベリア鐵道管理問題ニ關スルジャック新案  
ニ妥協ノ必要アリトノ意見具申並請訓ノ件

浦参第三二六号(十月九日參謀本部ヨリ写外務省接受)

一、第一九〇号見タ「ジャック」新案ハ米国側ノ大ニ讓歩セルモノニシテ「ホルワット」ヲ主腦トシ「スチーヴンス」ヲ長トスル列國協同委員ノ指導援助ヲ主義トスルモノナリ畢竟現下ノ情況露国人自身ニ於テ鐵道ヲ救濟改善スル能力アラサルカ故ナリ而シテ此ノ案ハ列國ノ軍事外交官悉ク之ニ同意シ殊ニ「ホルワット」モ米、英、仏代表者ニ概要之ニ同意ナルコトヲ洩シタルモノナルカ故ニ此ノ案ニシテ主義上容レラレサレハ此ノ上ノ折衝ヲ重ヌルコトハ甚タ困難ナルモノアリ又列國力擧ケテ露國鐵道ノ現状ニ改善ヲ加ヘント急ク所以ハ軍隊輸送ノ外西伯利亞ノ露国人救濟ノ情況ニアルヲ以テ日本ノミカ自己ノ利害ノミニ固着シテ列國共通而モ人道的救濟ノ道ヲ阻止シテ自ラ其責任ヲ負フカ如キハ日本將來ノ為利益ニアラサルカ故ニ米国ノ讓歩ヲ認容シ英仏ノ意向ヲ參酌シ日本ノ意志ノ概要ヲ達シ得ル程

一一一 シベリア及東支兩鐵道管理ニ關スル交渉一件 三二九

四一七

度ニ於テ之ヲ實行シテハ如何  
二、貴電中北滿方面ヨリノ情報ヲ総合スルニ云々トアルハ荒木大佐カ當地ヨリ哈爾賓ニ帰ル際「ジャック」最初ノ提案ヲ齊シ之ヲ武内ニ示シタルモノニアラサルカ其ノ後「ジャック」ト個人的交渉ヲ重不浦参第二九四号ノ如ク讓歩セシメテ打電セシ次第ナルヲ以テ其ノ間ニ相違アルカ如ク考ヘラル  
三、貴電中「スチーヴンス」ヲ主腦トスルトキハ全然憂慮ナシト認メ難シ云々ハ同感ナルヲ以テ日本ヨリモ有力ナル技師ヲ入レ之ニ対抗セシメテ米国ノ企図ヲ制肘スルト同時ニ「ホルワット」ヲ充分支持シテ全權ヲ米国ニ移サンメサル如ク指導スルトニ依リ日本ノ所信ヲ貫クコトニ努ムルヲ以テ大勢ニ順応シタルモノトシテ我慢出来サルヤ  
四、長春、哈爾賓、「チタ」方面ニ対スル日本輸送ノ優越権ヲ獲得スルニ努ム云々ハ第三師團輸送ノ初メニ當リ暫ク之ヲ妨ケタルモ其ノ他ノ前後ニ於テ「チタ」奉天間優越權ヲ獲得シタルト同様輸送ノ大部ハ日本ノ掌中ニアリシノミナラス今後浦潮ニ上陸スヘキ列國軍ノ兵力ヲ想像シ又既ニ上陸セル兵力ノ補給ノ為ヲ顧慮スルモ今後モ左程多クノ日

## 二一 シベリア及東支西鉄道管理ニ関スル交渉一件 三三〇

四一八

本ノ希望スル優越権ヲ妨クルコトハナカルヘク推断セラル  
殊ニ日本軍ノ若干カ西進スルニ至ラハ列国ハ喜ンテ列車ヲ  
供給シテ輸送ノ便ヲ図ルヲ疑ハス故ニ他ニ野心ノ包蔵セラ  
ルルニアラサレハ此ノ優越権ノ問題ハ左程憂フルニ足ラサ  
ルカ如シ。若シ再ヒ野心ヲ貫徹セントセハ現下ヨリ其ノ地  
歩ヲ進メ置クカ然ラサルモ其ハ戦後ニ於ケル媾和談判ノ結  
果ニ俟ツヘキモノ多ク单ニ戦時ノミヲ基礎トシテ組織シタ  
ル輸送業務カ永久ノ問題ニ対シ大ナル影響ヲ及ホスモノト  
モ考ヘラレス貴意如何ニ

五、貴電第一八七号ノ区域ハ余リニ列国ノ意見ト懸隔シ為  
ニ之ト協調スヘキ案ト認メ難シ既ニ配置シアル米國技師團  
ヲ他ニ放逐スルコトハ不可能ナラン此ノ如クスルヨリハ各  
停車場ニ日本技師ヲ協同配置シテ之ヲ制肘スルカ如クシテ  
ハ如何

六、先方カ戦時ニ限り且管理經營ニ触レスト迄讓歩シアル  
際日本ノミノ不同意ニ依リ其ノ解決ノ時日カ遷延シタル今  
日ニ於テ此ノ紛糾ヲ東京ニ移スハ軍司令官ノ立場トシテ其  
ノ威信ニ関スルヤ大ナルヲ以テ何トカ考慮セラレ之ヲ円満  
ニ解決スルコト出来サルヤ

七、当地ニ於ケル列国間ノ日本ニ対スル輿論ハ鉄道問題等  
ニ依リ漸次嫌氣ヲ來シ日本ノ企図ハ極東ニ於ケル利権ヲ獨  
擅セントスルノミニ在リト言ヒ或ハ株ノ上ニ在ル（不明）  
ノ如ク己ノ食セサル株ヲ牛馬ノ來リテ取ルヲ妨クルトノ惡  
言巷ニ伝ハリツツアル等将来ノ外交上甚タ面白カラサルモ  
ノアリ故ニ此ノ際容レ得ルコトハ妥協シテ協同ノ意ヲ失ハ  
サルカ如クシ有終ノ美ヲ期スルコト反テ君國将来ノタメニ  
非ザルカ

八、以上貴電第一九〇号ニ対シ尚當方ノ考ヘト意思ノ疏通  
セサルモノアルヲ以テ重ネテ至急貴意ヲ得テ當方ニ於ケル  
最後ノ交渉ニ取リ掛リタン

三三〇 十月七日 在米國石井大使（内田外務大臣宛ヨリ）  
シベリア鉄道ノ実務執行ハ「スチーヴンス」  
部隊ニ担任セシムルコトトシタキ旨日本政府  
ヘ伝達方國務長官ヨリ申出ノ件

第五四八号 （十月九日接受）  
需メニ応シ十月七日國務卿ニ會見シタルニ同卿ハ「モーリ  
ス」大使ノ電報ヲ手ニシナカラ西比利亜鉄道問題ニ關シ日

本政府ノ考慮ヲ煩ハシタシトテ予テノ主張ヲ繰返シ（）日本  
ハ大多数ノ兵力ヲ西比利亜ニ有シ鉄道運輸事項モ日本軍司  
令官ノ最高監督ノ下ニ在ルコトナレバ実務執行ニ関シテハ  
露國傭聘員ニシテ現ニ西比利亜ニ在ル「スチーヴンス」ノ  
部隊ヲシテ担任セシムルコト公平ナルベク兵數ニ於テ絶対  
多数ヲ有スル日本カ鉄道管理迄モ合セテ掌握スルハ露国民  
ニ対スル關係上甚タ面白カラズ（）之迄米國案ニ反対シ居リ  
タリト想像シタル英國ノ目的ハ鉄道運輸ノ敏活ニアレバ此  
ノ目的ニ副フベキ日米國ノ取極ハ如何ナルモノニテモ同意  
スヘシト申来リ此方面ノ反対ハ最早消滅セルコト（）後藤男  
カ其在職中「スチーヴンス」部隊ヲシテ西比利亜鉄道ヲ管  
理セシムルニ異議ナカリシコトハ或第三者ヲ通シテ承知セ  
ル所ナルコト（）米國政府ハ常ニ事態ノ許シ次第一日モ速ニ  
西比利亜ヨリ軍隊ノミナラズ總テ（「スチーヴンス」部隊  
ヲ含ム意ナル可シ）ヲ撤退スルノ希望ヲ抱持スルコト等ニ  
重キヲ置キ本使ヨリ右意見ヲ帝国政府ニ伝達方申出タリ  
之ニ対シ本使ハ往電第四九五号貴電第三七五号ノ趣意ヲ繰  
返シタル上我新内閣ニ於テ本件ヲ考慮スルノ便ニ供スル為  
メ更ニ貴官ノ意見ヲ伺ヒタシト前提シテ『西比利亜鉄道輸

送ノ敏活ハ「スチーヴンス」一手ニテ之ヲ引受クルニアラ  
ザレバ実現セシムル能ハザル理由ナン例ヘバ東支鉄道ヲ日  
本技師ニテ引受ケ其他ヲ「スチーヴンス」部隊ニテ引受ク  
ルト仮定シ日米技師ノ協力有レバ全線輸送ノ敏活ハ期シ得  
ベキニアラズヤ右ハ全然本使ノ私見ナルモ日本技師ノ一部  
担当ノ如キハ國民ノ感情ヲ和ゲ我政府ヲシテ貴政府トノ間  
ニ了解ニ達セシムルノ最便法ナル可シ』ト述ベタルニ國務  
卿ハ前記（）ヲ繰返シ明答ヲ避ケタリ本使更ニ右便法ハ本使  
当座ノ思付ナルモ右ト類似ノ日米協力案ヲ我方ニ於テ案出  
シ貴國政府ニ提議スルト仮定セバ貴國政府ノ態度如何ト推  
問セルニ國務卿ハ躊躇ノ後其ノ場合ニハ勿論慎重考慮ス可  
キモ前述ノ如ク英國政府ノ反対モ立消エトナリ又後藤男ノ  
態度ニ顧ミ前頭御依頼ノ趣旨ヲ貴大使ヨリ取次ガルレバ日  
米協同案ノ如キ面倒ヲ見ズシテ帝国政府ノ同意ヲ得可シト  
期待スルニ付右取次方重ネテ依頼スト述ベタリ  
在歐洲各大使ヘ転電セリ

三三一 十月十三日 在浦潮松平政務部長ヨリ  
シベリア鉄道管理問題ニ關スル米國案ニ露英

111 シグニア及東支西鉄道管理ニ関スル交渉一件 11111 四〇

仏ハ賛成ニ付東京ニ帰り日本側ト交渉スル件

モーリス米国大使内話ノ件

第11111号

「モーリス」大使ハ今十三日夜当地発哈爾賓ニ至リ11111日滯在ノ上満鮮經由帰任ノ途ニ就ク筈ナルカ同大使ハ十二日本官ニ対シ左ノ通り内話セリ

鉄道問題ニ關シテハ爾來当地ニ於テ各方面ノ意向ヲ確メタル處露國側ニ於テモ与國側ニ於テモ全然米國最後ノ案ニ同意ヲ与ヘタリ即チ露國側トシテハ「ホルワット」ノ意向モ確メ且今日ニ於テハ未タ新政府承認ノ運ヒニ至ラサルヲ以テ「ケレンスキイ」ノ政府ノ西比利鉄道總管理者タル「ウストロゴフ」ノ權限ヲ認ムルノ外ナキニ依リ同人ノ意向ヲ確メタル處右両人共絶対的ニ我案ヲ最良ノ方法トシテ認メタリ（往電第八一號第九〇〇號及十月二一日發機密第一七號）英國ハ日米ノ協定ニ何等異存ナキ旨ヲ声明シ東支鉄道株主ノ代表トモ見ルヘキ仏國ハ我案ニ賛成セリ如斯各方面

ヨリ凡テ同意ヲ得タルニ付尠ル所ハ日本政府ノミナリ故ニ本日出発「スチーヴンス」ヲ伴ヒ満鮮經由東京ニ赴キ直接外務大臣ト交渉スルシ米國最初ノ提案ハ當地ノ事情明カナ

ラサリン為メ露國鐵道當局ヲ除外セントセルガハ誤リナリシコト當地ニ來リ了知シ日本政府ノ主張正シキコトヲ認メタリ故ニ各方面ノ事情ヲ參酌シ凡テ露國當局ヲ其儘残シ其彼等ノ協力ヲ俟チテ實行スルノ方針ニ改メタリ長春哈爾賓間ハ日本政府ニ於テ「インテレスト」ヲ有スル線ニ付特ニ（脱）通過シテ注意スル積リナリ云々

本官ハ大使ノ案ハ其都度東京ニ電報セルモ今日迄何等聞ク所ナキニ付東京ニテ直接交渉セラルコト可然旨ヲ述ヘ置キタルカ同大使ハ石井大使セ「ランシング」ニ対シ個人トシテ同意セルモノノ如シトカ後藤男モ個人トシテ同意セリトカ僅カノ言葉尻ヲ押ヘテ恰モ全然同意ヲ得タル如ク吹聴スル傾向アルニ付其御舍ヲ請フ

11111 十月二十五日 在本邦米國大使館ヨリ

東支及西比利亞鐵道ニ運河案ト叫ハシハト米

國政府ノ態度表明ノ件

EMBASSY OF THE  
UNITED STATES OF AMERICA  
Note Verbale.

米國大使館ハ國務省ノ命ニ依リ左ノ通り帝國外務省ニ通報ス

「スチーヴンス」氏ヲシテ露國現在ノ機關ニ依リ露國人民ノ利益ノ為メ、一時東支鐵道及西比利亞橫斷鐵道實際運用ノ任ニ当ラシムル計画ヲ帝国政府ノ考慮ニ附セラレントムヲ提議スルニ当ラシ米國政府ハ「スチーヴンス」氏及同氏ヲ補佐スヘキ露國鐵道班ハ露國ヲ代表スルモノニシテ米國或ハ何等米國ノ利害關係ヲ代表スルモノニ非ザルトム付特ニ注意ヲ喚起セント欲ス之レ米國ハ露國鐵道ニ対シ利害關係ヲ設定シ或ハ自己ノ為メ之ヲ管理セントスル何等ノ希望或ハ画策ヲ有セサレハナリ

（別 紙）

東支鐵道及西比利亞鐵道運營案

PLAN

For the management of the Chinese Eastern and the Trans-Siberian Railways in the zone in which the Allied Military Forces are now operating.

1. The general supervision of the railways in

the zone in which the Allied Forces are now operat-

（欄外註記）

〔大正七年十一十五日米大使モーリス・スチーヴンス回  
半來談ノ際手交（内田康哉印）〕

（中略）  
（註 仮訳文ナリ）

口上書

111 ハマラ及東支西鐵道管理ニ關スル交渉一件 11111

四一

ing shall be regulated and controlled by a special Inter-Allied Committee, which shall consist of representatives from each Allied Power having military forces in Siberia, including Russia, and the Chairman of which shall be a Russian. The Inter-Allied Committee shall exercise its supervision through.

(a) Central office to be established for the operation of all the railways in the zone of allied military operations.

(b) An Allied Military Bureau to be created for the purpose of coordinating military transportation under instruction of the proper military authorities.

2. The protection of the railways shall be placed under the Allied military forces and the technical, administrative and economical management of all the railways in said zone shall be entrusted to John F. Stevens, who shall be appointed by the senior military officers of the Allied forces in the several districts occupied by them. Mr. Stevens shall be given the title of Director-General.

3. At the head of each railway shall remain a Russian manager or director with powers conferred

tee shall be appointed by the Chairman of the Committee, who shall have the right of distributing the work among such employees, as well as of dismissing them.

(欄外註記)

「前田「ベチーナー」へ直話依頼本案、〔ボヘム・ベーネー〕ガ露語リテ認メタルセノラ英語シタルセノリシテ各方面ノ同意ヲ得タルモノナリム」〔内田康哉印〕

### 三三三 十月廿六日 外務及陸軍兩省關係官會議 東支及西比利亞鐵道管理問題ニ關スル會議

附錄

附記 東支鐵道及西比利亞鐵道管理問題ニ關スル  
外務省案

大正七年十月廿六日午後一時外務省開会

出席者 奈良陸軍省軍務局長

中島浦塩派遣軍參謀

星野參謀本部第三部長

高柳參謀本部第一部長

幣原外務次官

小幡政務局長

111 ハヤマ及東支國鐵道管理ニ關スル件

四111

by existing Russian law. The mutual relations between the Chairman of the Inter-Allied Committee and the Director-General with said managers of railways, shall be regulated according to the laws and rules heretofore established for the operation of the Russian railways.

4. Each of the said managers shall have under him a railway office and a staff of engineers and employees. In such offices and on the railways the Director-General may appoint in his discretion assistants and inspectors chosen from among the citizens of the Allied Powers.

5. The Director-General shall appoint the general technical and administrative staff of the central office and distribute the work among the members of such staff.

The Director-General will appoint an assistant, who shall be a Russian citizen.

The staff of the central office, as appointed by the Director-General, may consist of Russian and Allied engineers and agents.

6. The clerical staff of the Inter-Allied Commit-

小村政務局第1課長

幣原次官

曩々在本邦英國大使カ西比利亞鐵道管理ニ關スル案ヲ外務省に提出シタル際米國大使ヨリヤ同様提出トヘルキ皿

ヲ越く居リタルカ十月廿五日「ヤーリス」大使「ベチーナー」氏同伴來省ノ上英國大使提出ノ分ト全然同一ナル案ヲ提出シ又別紙ノ如キ声明書ヲ持參シタルニ付

茲ノ会合ヲ煩ハシタル次第ナリト述く

政務局長ハ右米國政府声明書ノ訛文<sup>(付)</sup>朗讀セリ  
幣原次官ハ更ニ語ヲ繼ギ

米國側ニ於テ最初提議シタル際ト今日トニ於テハ其ノ主旨ヲ改メタル重要ナル点アリ即チ米國側カ露国人ヲ排斥

スルコトノ不可ナルコトヲ発見シタルコトニシテ十月廿一日

「浦潮上陸後一週間ニシテ予ハ從来自説ノ誤レルヲ悟リ  
鐵道管理ニ就テ露国人ヲ排斥スルノ非ナルコトハ全然男爵ノ御説ノ通りナルコトヲ信スルニ至リタリバ々」ト述

ク居リ今回ノ米國案ハ既チ其ノ趣旨ニテ作製セラニ居リ  
又其際同大使ハ後藤男ニ対シ米國案実行ノ際ハ米國鐵道

又其際同大使ハ後藤男ニ対シ米國案実行ノ際ハ米國鐵道

四111

班ハ各路線ニ在リテ露國從事員ヲ指導援助スヘク此ノ点ニツイテハ日本ヨリモ相當技術員ノ増派ヲ乞ハサルヘカラサルヲ信ス米國案ニ對シテハ英仏伊各國代表者「ホルワット」「ウストロゴフ」其他ノ同意ヲ得タルノミナラス松平政務部長モ個人トシテハ同感ナルニ之カ實行ヲ妨クル原因ノ那辺ニ在ルカハ如何ニシテモ理解スル能ハサル所ナレハ爾今東京ニ於テ此ノ点ニ就テ專ラ研究ヲ累ねムト欲スト述ヘタル由ナリ

外務省ノ案ハ要スルニ米國カ西比利亜鐵道殊ニ東支鐵道ニ根ヲ下スコトヲ防ゲバ我目的ハ略々達セラルヘシトノ見地ヨリ作製セラレタルモノナリ抑モ「スチーヴンス」ノ技術上ノ手腕ニ付テハ米國ハ勿論英仏伊各國ニ於テモ充分認識シ居ル所ナルヲ以テ日本カ同人ヲ排斥スルコトハ連合各國ハ決シテ尤モト思ヒ居ラサルノミナラス米國大統領トシテモ「スチーヴンス」ヲ重要ナル地位ヨリ抜イテ西比利亜ニ派遣シ置キナカラニ相当手腕ヲ振フノ地位ヲ与ヘサルニ於テハ其ノ立場ノ困難ハ想像スルニ難カラス故ニ米國案ハ成ルヘク之ヲ容ルルコトトナスヲ得策トスヘシ一方日本ノ満洲ニ於ケル特殊地位ハ米國ニ於

テモ既ニ認メ居ル所ナルカ故ニ東支鐵道ニ米國カ利益干係ヲ設定セサル様相當ノ保障ヲ取付クル充分ノ理由モ行掛モアリト信ス

星野第三部長ハ意見ヲ述フルニ先チ簡単ニ情況報告ヲナシヘシト前提シ

要スルニ西比利亜鐵道ノ現状ハ不完全ナカラ連合軍ノ要求ニ応シツツアルノミナラス地方人民ノ為ニモ何等差支ナシト認ム即チ

東支鐵道ニ在リテハ事變前ニハ一日四列車ノ運行ヲナシツツアリシニ日下ハ既ニ三列車運行シツツアリ整理セハ六列車マテハ運行セシメ得ヘシ黒竜江鐵道ハ事變前二列車ニ対シ目下モ二列車運行シ後貝加爾鐵道ハ東支鐵道ト略々同様ノ狀況ニアリ又烏蘇里鐵道ハ平均三列車運行シ居ルモ最モ悪シキ狀況ニ在リ

管理運転ハ露國側ニ於テ之ニ任シ居リ連合軍ハ輸送ニツキ必要ナル要求ヲナシツツアリ東支及烏蘇里鐵道ニ在リテハ「ウストルゴフ」、黒竜江鐵道ニ在リテハ「カチンコ」後貝加爾鐵道ニ在リテハ「ジラボフ」其ノ責任者タリ

狀況ノ下ニ何カ故ニ管理ヲ露國人ノ手ヨリ奪フノ必要アリヤ又仮ニ鐵道狀況不良トスルモ何カ故ニ「スチーヴンス」氏ヲ指定シテ之ヲ要職ニ置カサルヘカラサルカ現在ノ狀況ヲ以テスレハ最モ多數ノ軍隊ヲ出動シ居ルハ日本ナルカ故ニ若シ管理ノ必要アリトスレハ日本ニ於テ之ニ当ルヲ当然トセスヤ又米國案ノ趣旨ハ露國側ニ意嚮ヲ顧ミスシテ決行スルノ意ナリヤ果シテ然ラハ帝國出兵ノ宣言ニ反シ又露國代表者ト交渉シテ其ノ同意ヲ得ルモノトセハ所謂其ノ代表者ノ人選ニツキテハ大ニ注意ヲ要ス故ニ予ハ先ツ上記ノ諸点ニ付米國政府ニ質問スルノ必要アリト信ス云々

#### 中島軍參謀

浦鹽軍司令部ノ意見ヲ述フレハ元來大谷司令官ハ連合軍ヲ指揮スルノ地位ニ在ルカ故ニ連合軍輸送ノ便ヲ計ラムトスル計畫ニ對シテハ甚シク日本ノ利益ニ反セサル限り之ヲ排斥スルコト能ハサルト同時ニ鐵道ノ改善ニツイテハ事實上米國ノ資力材料ヲ要スルコトト信スルカ故ニ米國案ヲ容レテ「スチーヴンス」ニ運行セシメ只米國ノ專制ヲ防ク為其ノ上下ニ監督ヲ附セムトスルモノナリ

次テ私見トシテ左ノ通陳述セリ

自分ノ見ル所ニヨレハ今回ノ米國案ハ「ジャック」案ト同シモノト思フ米國ノ主張スル所ハ軍事輸送ノ目的上西比利亞鐵道ヲ改善スヘシト云フモ同鐵道ハ既ニ述ヘタル如キ狀況ニ在リテ最近著シク改善ノ緒ニ就キ居レリ如此

米国案ニハ英仏伊ノ各国ヲ初メ露國側ニ於テモ同意シ居ルトスレハ日本ノミ之ニ反対シテ鐵道ノ運行ヲ改善セムトル目的ヲ阻害スルハ各國協調ノ見地ヨリ不可ナルノミナラス将来鐵道ノ改善ハ到底米國ノ手ヲ離レテ望ムヘカラサルカ故ニ仮令今日米國ノ侵入ヲ防キ得タリトスルモ戰後ニ亘リテ之ヲ防クハ不可能ナリ然ラハ寧ロ今日司令官ノ下ニ於テ或程度ノ拘束ヲ加フルカ如キ仕組トナン置ク方得策ナラン尤モ出来得ルナラハ浦塙「チタ」間ノ管理權ヲ我手ニ收ムルコトハ希望スル所ナリ何レニスルモ両國間ニ何トカ一致点ヲ發見セムトス云々

幣原次官  
星野部長ノ只今述ヘラレタル所ハ要スルニ「スチーヴンス」ヲシテ運行セシムル必要ナキニアラスヤトノ点ニ帰着スト思ハルルガ然ラハ彼ヲシテ運行ニ任セシメテハ如何ナル害アリヤ

星野第三部長  
日本側トシテハ先ツ提案者タル米國側ヨリ提案ノ理由ヲ聞取ルヲ要スルコトト思フ

星野第三部長  
故ニ米國ヲシテ利益干係ヲ将来ニ設定セサル様証言ヲ取リ置ケハ差支ナク米國ハ國柄トシテ決シテ証文ヲ反古ニスル虞ナシト信ス

星野第三部長  
米國ヲ余リニ信スルハ如何アルヘキカ加之別ニ利益干係ヲ設定セストモ自然ニ其ノ勢力ヲ扶植シ得ルコトト思ハル仮リニ「スチーヴンス」ヲシテ管理セシムルトシテモ決シテ西比利亞鐵道全部ヲ与フルノ必要ナキカ故ニ米國ニハ「イルクツク」以西ヲ与ヘ日本ハ以東ヲ取ルヘシ之唯一ノ妥協案ナリ

幣原次官

### 奈良軍務局長

何トカ妥協ノ方法ヲ講スルコト必要ナリト思フガ最初カラ讓ルノ必要モナキコトナレハ「イルクツク」以西ヲ米

國ニ黒龍鳥蘇里ヲ英仏等ニ又東支後貝加爾ヲ日本ニテ管理ストノ対案ヲ提出シテ見テハ如何若シ外務省ヨリ公然提出スルコト面白カラストセハ木下管理局長等ヲシテ「スチーヴンス」ニ提出セシムルモ一案ナラム米國ノ誠意ニ付テハ多少疑ナキニアラサルノミナラズ「スチーヴンス」在任中ニ米國ヨリ材料、貨車、汽罐車等ヲ持チ來レハ米國ノ勢力ハ又抜クヘカラサルニ至ラム兎ニ角「スチーヴンス」ヲ全然排斥スルハ氣ノ毒ナルモ何トカ之ニ条件ヲ附ケネバ不可ナリ

幣原次官  
奈良軍務局長  
何トカ妥協ノ方法ヲ講スルコト必要ナリト思フガ最初カラ讓ルノ必要モナキコトナレハ「イルクツク」以西ヲ米國ニ黒龍鳥蘇里ヲ英仏等ニ又東支後貝加爾ヲ日本ニテ管理ストノ対案ヲ提出シテ見テハ如何若シ外務省ヨリ公然提出スルコト面白カラストセハ木下管理局長等ヲシテ「スチーヴンス」ニ提出セシムルモ一案ナラム米國ノ誠意ニ付テハ多少疑ナキニアラサルノミナラズ「スチーヴンス」在任中ニ米國ヨリ材料、貨車、汽罐車等ヲ持チ來レハ米國ノ勢力ハ又抜クヘカラサルニ至ラム兎ニ角「スチーヴンス」ヲ全然排斥スルハ氣ノ毒ナルモ何トカ之ニ条件ヲ附ケネバ不可ナリ

星野第三部長  
シテ「イルクツク」以西ニ甘ンセシメムトスルモ無理ナリ

星野第三部長  
区間制ト云フモ「イルクツク」以西六千哩以東一千哩モアルコトナレハ決シテ無理ノ案ニアラス又主トシテ日本ノ力ニヨリテ得タル鐵道ヲ横取セムトスルカ如キ米國ノ無謀至極ナル提案ニ対シ区間制ノ如キ対案ヲナスモ少シモ憚ル所ナキニアラスヤ

### 小幡政務局長

日本出兵ノ目的ハ「チエック」援助西比利亞ノ秩序維持ニ在リ日本カ鐵道ヲ占領シタリト云フモ其ハ「チエック」援助等ノ目的ヲ達スル際ノ副產物ニ過キス故ニ日本兵力血ヲ流シタリトテ鐵道ノ為メニ流シタルカ如ク思フハ誤レリ又鐵道ニ日本ノ勢力ヲ扶植スルコトハ國家ノ為メナリトスルモ其レ以上ノ目的ノ為メニハ鐵道ニ対スル勢力扶殖ノ如キモ犠牲トセサルヘカラサルコトアルヘシニ対シテハ委員会等ニ於テ制限ノ途アルニアラスヤ

高柳第二部長

米國ヨリ貨車、汽罐車ヲ買入ルコトハアルトモ勢力扶殖ノ問題トハ異ル之等ノ代金ハ露國政府ノ勘定トナリ東支鐵道ノ勘定トナルコトナシ又「スチーヴンス」ノ專横ニ対シテハ委員会等ニ於テ制限ノ途アルニアラスヤ

全然出口ヲ有セザル鐵道ハ何等ノ価値ナキカ故ニ米國ヲ

米國側トシテハ「スチーヴンス」ヲ二年間モ西比利亞ニ遊ハシテ居ル關係上何カ仕事ヲサセネバナラヌト云フノガ実情ナラム若シ甚シク不都合ノ点ナケレハ米國ニモ花ヲ持タセテ列國ト協調シテ行ク方大局上得策ナリト思考ス

### 星野第三部長

米國ヲシテ管理セシムルコトハ國防上ニ非常ナル影響アリト思フ

### 幣原次官

モ両國間ニ何トカ一致点ヲ發見セムトス云々

幣原次官  
星野部長ノ只今述ヘラレタル所ハ要スルニ「スチーヴンス」ヲシテ運行セシムル必要ナキニアラスヤトノ点ニ帰着スト思ハルルガ然ラハ彼ヲシテ運行ニ任セシメテハ如何ナル害アリヤ

星野第三部長  
日本側トシテハ先ツ提案者タル米國側ヨリ提案ノ理由ヲ聞取ルヲ要スルコトト思フ

### 星野第三部長

米國ヲ余リニ信スルハ如何アルヘキカ加之別ニ利益干係ヲ設定セストモ自然ニ其ノ勢力ヲ扶植シ得ルコトト思ハル仮リニ「スチーヴンス」ヲシテ管理セシムルトシテモ決シテ西比利亞鐵道全部ヲ与フルノ必要ナキカ故ニ米國ニハ「イルクツク」以西ヲ与ヘ日本ハ以東ヲ取ルヘシ之唯一ノ妥協案ナリ

幣原次官

テハ講和會議ニ於テ不利益ヲ蒙ルコトアルヘシ

一一 シベリア及東支兩鐵道管理ニ關スル交渉一件 三三三

# 一一一 シベリア及東支兩鐵道管理ニ関スル交渉一件 三三三

四二八

星野第三部長

「スチーヴンス」一件位ニテ講和會議ニ於ケル我立場ニ

影響アルヘシトモ思ハス何レノ途先ツ質問ヲ發スルコト

ニ願ヒタシ

奈良軍務局長

外務省案ハ陸軍側ヨリ云ヘハ最後ノ案ナルニ付兔ニ角

「スチーヴンス」ノ權限縮少案ニツキテ考ヘタシト思フ

幣原次官

權限ヲ縮少スルトモ軍務局長ノ述ヘラレタル如キ米國ノ輪軸材料等ヲ持來ルヘシトノ心配ハ残ルヘシ結局「スチーヴンス」ニ任セル以上ハ其ノ手足ヲ縛シ改良ヲサセスト云フカ如キ態度ヲ執ルノ必要ナキニアラスヤ

尚一二意見ノ交換アリシモ結局更ニ妥協案ヲ作製次回迄ニ持寄ルコトトシテ四時半散会ス

註 別紙米國政府聲明書訳文省略ス前掲十月二十五日在本邦米國大使持參ノ口上書ノ訳文参照

ハ同大使ガ「スチーヴンス」起草ノ案ナリトテ十月十五日

外務省ニ呈示セルモノニシテ前掲在本邦米國大使ガ外務省ニ提出セルモノト同一内容ナリ

要録中ニ外務省案ナルモノニ言及シアル處之ニ該當スト認メラル文書ヲ次ニ附記ス

## (附記)

東支鐵道及西比利亞鐵道管理問題ニ關スル外務省案

一、米國政府ハ其ノ提倡ニ係ル東支鐵道及西比利亞橫斷鐵道運行ノ為メ同國鐵道技術員ヲ使用スルコトハ全然西比利亞ニ於ケル露國及聯合軍隊ノ軍事上ノ須要ニ応スルニ限ルモノナル旨声明スルコト

二、米國政府ハ更ニ進テ現戰爭中タルト戰後タルトヲ問ハス同政府自身ノ為メニモ又同國國民ノ為メニモ東支鐵道ニ関シ何等ノ利害關係ヲモ設定スル意図ナキ旨並米國技術員カ該鐵道ノ經營ニ干与スルコトハ戰爭結了ト共ニ終止スルモノナル旨ヲ声明スルコト

三、米國政府ハ軍隊輸送ヲ便ナラシムル目的ヲ以テ大連哈爾賓間ニ直通列車ヲ運転セシムル為メ戰爭中長春哈爾賓間ノ鐵道軌隔ヲ標準軌隔ニ変改セントスル計画ニ対シ何等異議ヲ挾マサルコト

## (欄外註記)

〔十月二十三日写陸軍大臣ヘスミ〕

尚右取極案ハ Agreement concerning the Operation of Russian Railways ド称シ六ヶ条ヨリ成ル松平其他ノ日本官憲モ賛成セリトアルヲ以テ全文ハ御入手済ノコトト信ス茲ニ電報セス

三三三四 十月二十七日 在米國石井大臣宛(ヨリ)

内田外務大臣宛(電報)

米國國務卿ヨリスチーヴンス及在本邦米國大使ノ取締メタル東支及西比利亞兩鐵道經營取

極案ニ日本ノ同意ヲ要請ノ件

第六二八号

(十月二十九日接受)

國務卿ハ二十七日附書面ヲ以テ今回「モーリス」大使及

「スチーヴンス」在浦潮聯合各國代表者及「ホルワット」

(東清鐵道代表ノ資格) (オストルゴフ) (西比利亞沿線代表ノ資格) ト協議ノ上決定シタル鐵道經營取極案ナルモ

ノヲ送付シ來リ之ニ付キテ米國政府ハ右取極案ヲ承認スル

ト共ニ「モーリス」大使ニ對シ「スチーヴンス」氏ハ露國

鐵道ノ顧問及在露米國鐵道技術班ノ顧問トシテ參加スルモ

ノニシテ米國又ハ其ノ如何ナル利益ヲモ代表スルモノニアラ

ラサル義ニ付明確ナル了解ヲ付ケ置クヘキ旨訓令シタリ此

点ハ米國ガ露國ノ鐵道ニ對シ何等私心ナキヲ明ニスル意味ニ於テ自分ノ重要視スル所ナリ此ノ了解ノ下ニ日本モ他聯合國同様該取極案ニ承認ヲ與フヘキハ自分ノ信賴スル所ナリ云々ト申越セリ依テ右ニ對スル挨拶振回電アリタシ

一一一 シベリア及東支兩鐵道管理ニ關スル交渉一件 三三五

三三五

三三五 十月二十八日

在本邦米國大臣會談

シベリア鐵道管理問題ニ關スル米國大使幣原

次官会見録

附記 十月二十八日在本邦米國大使持參ノシベ

リア鐵道管理案ノ和訳文

一、大正七年十月二十八日在本邦米國大使來省幣原次官ニ

對シ去ル二十五日同大使ノ持參セル西比利亞鐵道管理ニ關スル案ハ當時國務省ニ電報シ置キタル處今回其ノ承認ヲ得タル案ハ襄ニ同大使ノ持參セルモノト殆ト全然同一

ニシテ只第二項ニ於テ「スチーヴンス」ハ連合國軍事官憲ニヨリテ任命。セラルヘシトアリタルヲ承認。セラルヘシト変

更セラレタルノミ右變更ニ付米國大使ハ説明シテ曰ク「スチーヴンス」カ大谷司令官ニヨリテ任命セラルヘキコトハ

米国側ニ於テ何等異存ナカリシ所ナルモ同司令官ノ権限ハ北滿洲及其以西ニ及バズトノコトナリシヲ以テ過日ノ案ノ如ク各区ヲ守備スル連合軍ノ先任将校ニヨリテ任命セラルベシトシタル次第ナリ然ルニ國務省ニ於テハ(一)右ノ如クスルトキハ区間ニヨリテ異リタル國ノ軍事官憲ニヨリテ任命セラルコトトナリ極メテ複雜ナル關係ヲ生スルニ至ルヘク(二)殊ニ西比利亞出兵ハ日米間ノ諒解ニヨリテ実行セラレタルモノナルモ他ノ諸国トハ別ニ予メ充分ノ諒解アリタル次第ニモアラサルカ故ニ「スチーヴンス」カ日米以外ノ國ノ軍事官憲ニヨリテ任命セラルルノ理由ナシ(三)又之ヲ他方面ヨリ考フルモ「スチーヴンス」ハ露國ノ雇傭者ナルカ故ニ露國以外ヨリ任命セラルト云フコトモ妥當ニアラサルカ如ク考ヘラルニヨリ旁々任命ナル語ノ代リニ承認ナル語ヲ用イタル次第ナリト

二、幣原次官ハ右米国大使ノ説明ヲ聴取シタル後実ハ米国案ニ対シ予テヨリ疑問トセル点アリ其ハ第三項ニ國際委員会及理事長ト各鉄道支配人トノ関係ハ露國ノ鉄道運行ニ関スル從来ノ法規ニ依ルヘシトアル處右ノ如キ國際委員会若ハ理事長ト云フカ如キモノハ從來露國ニ存在セサリシ所ナ

ルニ付從テ之等ニ關スル露國從來ノ法規ナルモノ存スル謂レナシト思考セラル此点ニ關スル米國大使ノ所見如何ト質問シタルニ同大使ハ誠ニ貴説ノ如キモ実ハ國際委員会及理事長ト各鉄道支配人トノ關係ヲ「ホルワット」及「ウストロゴフ」等ト各鉄道支配人トノ從來ノ關係ニ準セシメントスルノ意ニ出タルニ過ギズ答ヘタリ

三、次ニ幣原次官ハ例ヘハ機関車貨車ノ購入等ハ「スチーヴンス」ノ権限トシテ自由ニ為シ得ル所ナリヤト質問シタルニ米國大使ハ「スチーヴンス」ハ車輛ノ配給運輸等単ニ「オペレーション」ニ關スル全權ヲ有スルノミニシテ輪転材料ノ購入等ニ至リテハ固ヨリ國際委員会ノ承認ヲ得サルヘカラスト答ヘタリ依テ次官ハ然ラハ輪転材料ヲ購入シタル場合アリトシテ其ノ費用ハ誰ノ負担ニ帰スル次第ナリヤト質問シタルニ大使ハ其ハ他日露國ニ連合國ノ承認セル中央政府樹立セラレタル場合同政府ノ責任トナル次第ナリト答ヘタリ次官ハ更ニ若シ右中央政府ニ於テ其ノ支払ノ責任ヲ執ルコトヲ肯セサル場合アリトセハ如何ト尋ネタルニ米國大使ハ右様ノ場合ニハ米國政府ノ負担トナルヘシト答ヘタルヲ以テ次官ハ國際委員会ノ承認ノ下ニ購入セラレタル

### 物ノ支払ニ付米国政府ノミ其ノ責ニ任スト云フカ如キ理由

ナカルヘク寧ロ連合各國政府ノ共同責任ニアラサルカト反問セル處米國大使ハ自説ノ謬レルヲ自認シ其ハ貴説ノ如ク連合國政府タラサルヘカラスト答ヘタリ

四、右問答終リテ余談ニ移リタルカ米國大使ハ(一)西比利亞鉄道運輸狀況ノ極メテ不良ナルコトヲ指摘シ是非至急改善セサルヘカラスト極言シ(二)又「スチーヴンス」ハ「インターナシヨナル、ジエラシー」ノ渦中ニ投スルヲ不愉快トン寧ロ關係ヲ離脱セシコトヲ欲シ居ルカ如シト述ヘ次テ「スチーヴンス」ノ如キ技術上ノ手腕ヲ有シ且二年間モ西比利亞ノ鉄道狀況ヲ研究シタル者ヲ逸スルコトハ「インターナシヨナル、ロス」ナリト述ヘ居リタリ(三)尚次官ヨリ「ウストロゴフ」ニ対スル大使ノ感想ヲ尋ネタルニ彼ハ「モスト、ディフィカルト、マン」ニシテ單簡ナル問題ヲ協議スル場合ニモ種々ノ議論ヲ戰ハシ時間ヲ徒費スルニハ困却セリト述ヘ居リタリ

註 十月二十八日在本邦米國大使ガ幣原次官ニ手交セル案ヲ省略シ外務省作成ノ其訳文ヲ次ニ附記ス

### (附 記)

十月二十八日在本邦米國大使ガ幣原次官ニ手交セル案ヲ省略シ外務省作成ノ其訳文ヲ次ニ附記ス

現下連合軍ノ出動地域内ニ於ケル東支鐵道及西比利亞務ハ現ニ西比利亞ニ軍隊ヲ派遣シ居ル連合各國(露國ヲ含ム)ノ代表者ヨリ成ル特別連合國際委員ニヨリ指導監理セラルヘン  
委員長ハ露西亞人タルコト  
該委員ハ  
(1)前記連合軍隊出動地域内ニ於ケル一切ノ鐵道運行ノ為メ設立セラルヘキ中央局及  
(2)當該軍憲指導ノ下ニ軍事輸送ヲ調節スル為メ創設セラルヘキ連合軍事局ヲ經テ右監督ヲ行フモノトス

(2)鐵道ノ保護ハ連合國軍隊ニ委スヘキコト  
前記地域内ニ於ケル一切ノ鐵道ノ技術的行政的並ニ經濟的經營ハ連合軍ノ占領セル各地方ニ於ケル同軍ノ先任將校ニ依リ確認セラルヘキ「スチーヴンス」氏ニ委任セラレ同氏ニハ經理總長ノ称号ヲ与フヘキコト  
(3)各個鐵道ノ主幹ニハ現行露國法ニ依リ附与セラレタル權

一二 シベリア及東支兩鐵道管理ニ関スル交渉一件 三三六 四三二

限ヲ有スル露國人專務ヲ残シ置キ連合國際委員長及ヒ經理總長ト此等專務トノ關係ハ露國鐵道運行ノ為從來制定

セラレ居ル法規ニ依リ定メタルヘキモノトス

(四)前記各鐵道ノ專務ハ鐵道事務所ヲ有シ其ノ部下トシテ技師並ニ從業員ヲ有スヘキコト

經理總長ハ其裁量ニ依リ右鐵道事務所及鐵道ニ連合國市民ヨリ選任セラルヘキ補助員及巡察員ヲ任命スルコトヲ得

(五)經理總長ハ中央局ノ一般技術員並事務員ヲ任命シ之等諸員間ニ事務ノ配分ヲナスコト

經理總長ハ其ノ補佐員ヲ任命スルコト但シ該補佐員ハ露國人タルヘキコト

經理總長ニヨリテ任命セラルヘキ中央局々員ハ露國並ニ連合國ノ技師並ニ事務員ヲ以テ組織スルヲ得

(六)連合國際委員ノ書記ハ委員長之ヲ任命スルコト又該委員長ハ之等ノ使用人ヲ罷免スルノ權利及之等使用人中ニ事務ノ配分ヲ為スノ權利ヲ有ス

三三六 十一月五日 (由比浦潮派遺軍參謀長ヨリ  
田中參謀次長宛(電報))

シベリア鐵道ノ輸送円滑化ニ關シ我浦潮派遺軍司令部ヨリ在哈爾賓武內中將ニ送附セル意見 見転送ノ件

浦參四五七號(十一月八日參謀本部ヨリ寫外務省ニ接受) 武內中將ニ對シ次ノ鐵道業務ニ關スル意見ヲ送附セリ

浦參交一六三

昨今連合與國間ニ於テ極東露領鐵道問題ニ關スル議論騒カシク何レモ暗々裏ニ於テ其利權ノ獲得ニ努力シツツアリ日本軍ニ於テモ元ヨリ著意ヲ此点ニ置キ以テ帝國利權ノ拡張ヲ計ルヘシト雖モ露骨的行動ヲナストキハ露國並ニ連合與國ノ感情ヲ害シ國交上ニ不利ヲ生シ引テ将来ノ國策ニ惡影響ヲ來スノ虞アリ近時鐵道業務ニ關シ露國側又ハ連合與國側ヨリ大谷司令官又ハ連合高等鐵道委員長中島少將抗議的嘆願書頻々トシテ提出セラレツツアリ此等書類ヲ閱スルニ元ヨリ事實ノ相違セルモノ又ハ針小棒大ニ吹聴セルモノ等多々アリ從ツテ深ク意ニ介スルニ足ラスト雖モ此ノ際成ル可ク露國普通列車ノ運輸ヲ円満ナラシムルヲ必要トス特ニ目下日本軍隊輸送ハ大体ニ於テ一段落ヲ告ケタルノミナラス西比利亞各地ノ住民ハ物

資ノ欠乏ニ苦シミツツアル実情ナルヲ以テ普通列車ノ運行ヲ円滑ナラシムル為ニハ啻ニ之ヲ妨害セサルノミナラス却テ之ヲ援助スルヲ緊要トナス浦潮派遺軍行動地域内ニ於テハ既ニ屢々日本軍鐵道業務關係者ニ対シ夫々注意スル所アリ為ニ面目ヲ改メツツアリト雖モ烏蘇里、黑龍江、後貝加爾、東清ノ諸鐵道ハ彼此極メテ密接ナル關係ヲ有スルヲ以テ此際後貝加爾鐵道方面ニ於テモ鐵道業務ニ關シ充分ノ考慮ヲ払ハレンコトヲ望ム参考ノ為メ露軍抗議ノ數例ヲ左ニ挙グ

一、「ボグラニチナヤ」駅ニ於テ日本指揮官ハ鐵道從業員ニ干渉シ「ウスリー」鐵道ヨリ東清鐵道ニ入り込メルヨリ以上ノ車輛ヲ還送スルヲ許サス此ノ行為ハ鐵道管理ヲ妨害ス

二、各國軍司令官ノ干涉ノ為メ滿洲里停車場勤務ハ根本的ニ破壞セラレタル後貝加爾鐵道上ニ於ケル技術上ノ困難

ノ結果滿洲里駅ニハ多クノ車輛アリ速ニ鐵道管理業務ヲ常態ニ復シ是等ノ車輛ノ修理ヲ要ス而シテ此事タルヤ軍事當局者カ鐵道業務ニ干渉スルヲ止メタルトキニ於テ始メテ実施シ得ルナリ

一二 シベリア及東支兩鐵道管管ニ關スル交渉一件 三三七 四三三

三、日本軍司令官カ運輸技術ニ干渉スルコトハ今日迄繼續シ東清線ニ送ルヘキ空列車第7号ノ輪軸材料ハ停車場ニ於テ駅長ノ制止セシニモ拘ラス日本將校ノ為メ武力ヲ以テ差押ヘラレタリ同列車ハ日本司令官カ「オロウヤンナ」駅ニ於テ拘留セントシタルモ後貝加爾鐵道長官カ此レニ干渉セル為メ成効セサリシナリ

三三七 十一月十六日 (在米國石井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報))

日本國交保持ノ為シベリア鐵道ノ管理ヲ米人ニ委スルコトニ日本ノ同意ヲ得タキ旨國務長官ヨリ申出ニ付請訓ノ件

第七一二号 (十一月十八日接受)

本使去ル八日以來微恙ノ為引籠リ居タル處國務卿ヨリ是非本使ニ面会シ度シトノコト故十六日往訪シタルニ問題ハ西

比利亞ノ事ニテ國務卿ノ言フ所要領左ノ如シ

西比利亞ニ於ケル日本ノ兵數ハ或ハ四万五千ト言ヒ或ハ七万五千ト言ヒ實際ヲ知ル能ハサルモ東ニ角彼我兩政府了解ノ程度ヲ遙ニ超過セリ過日大統領カ貴大使ニ述ヘタル通り日本軍隊ハ事實西比利亞鐵道ヲ獨占シツツアリ今又聞ク所

ニ依レハ日本人ハ軍隊ノ援助ヲ以テ各所鉱山ヲ詐索シツツ

アリ露国人ハ日本ガカク西比利亞ヲ我物視スル行動ニ対シ  
痛ク憂慮シツツアリト言フ当初貴大使モ御承知ノ通り日本

軍隊ハ与國數軍隊ノ指揮権ヲ執ル以上切メテ鉄道タケニテ  
モ露國傭聘ノ米国人ニ扱ハシムレハ露国人ノ疑惑ヲ予防シ  
得ヘシト考ヘ米政府ヨリ此見地ニ於テ幾度カ貴国政府ノ

同意ヲ求メタル次第ナルカ前述ノ始末ニテ大統領カ予防セ  
ント苦心セル露国人ノ疑惑盛ニ起リツツアリ大統領ハ殊ノ  
外刺激ヲ受ケ (President has got very much irritated)

ed) 若シ此ノ事態継続スルトセハ米國ハ已ムヲ得ズ西比利  
亞ヨリ軍隊全部ヲ呼返スノ外無キモ斯クテハ其理由ヲ公衆  
ニ説明スルノ必要ニ迫ラルヘク果シテ右様ノ場合トモナラ  
ハ日米ノ国交ニ大頓挫ヲ來タスヘキニ付斯カル手段ハ避け  
サル可ラス (一面ニ於テ本問題ニ関シ帝国政府ノ誠意ヲ疑  
フノ余地ナク又貴國陸軍官憲ニ於テモ米國ニ對スル約束ヲ  
無視スルノ念アルベキ筈ナク恐ラク出先ノ者ガ氣ニ逸リ何  
心ナク行動スルモノナランカスカル事ハ自分モ我陸軍ニ閑  
シ実驗シタルコトアリ) 就テハ西比利亞ニ於テ吾人ノ使用  
スル鐵道ノ事實上ノ管理ヲ米人ニ委シテ露国人ノ疑ヲ防ク

ノ外良策ナキカ如シ云々

之ニ對シ本使ハ過日大統領ノ談話ニ對スル帝國政府ノ回答  
未着ナルモ最近陸軍大臣ヨリ我武官ニ達シタル電報ニ依レ

バ日本軍隊ガ西比利亞鐵道ヲ獨占スルガ如キハ事實無根ニ  
シテ日本軍隊ハ該鐵道ノ使用ノ一部ヲ喜ンデ米國軍隊ニ提  
供スベシ尚過日本使ヨリ大統領ニモ述ベタルガ如ク西比利

亞ニ於ケル米國官憲ガ日本軍隊ニ閑シ種々ノ報告ヲ送ル如  
ク我官憲モ亦米國官民ノ行動ニ付種々ナル報告ニ接シ居ル

モ帝國官憲ハ西比利亞ニ於ケル彼我官憲ノ完全ナル了解ニ  
重キヲ置キ米國官憲ノ正義ニ信賴シ斯ノ如キ報告ニ信ヲ置

カザルコトヲ勉メツツアリ右信賴ノ念ハ貴國官憲ヨリモ酬  
ユル所アルベキヲ望ムト述べ機関車取り去リノ件「ウスリ  
ー」鐵道「ボイコット」煽動ノ件ヲ説明シ置ケリ次テ國務  
卿ハ浦塙結氷ノ不便ニ鑑ミ米國軍隊幹部ヲ哈爾賓ニ移サン  
トシ又小部隊ヲ「オムスク」辺迄送ラントノ考アル處哈爾  
賓ニ於テハ「バラック」ナシトテ断ハラレ鐵道モ日本軍独  
占ノ始末ニテ是亦困難ナリト語レルニ付貴國軍隊ヲ「ザバ  
イカル」又ハ其以西ニ送ル必要アル場合ニ我官憲カ鐵道使  
用ノ一部ヲ喜ンテ貴國軍隊ニ提供スヘキハ前述ノ如シ貴國

軍隊ヲ哈爾賓ニ移スノ意アリトセハ此点ニ付本使ハ何等訓

令ヲ有セサルモ本使個人ノ意見ヲ忌憚ナク云ハシムレハ右

ハ貴國ニ於テ為サレサル方賢明ノ策ナルヘシ既ニ幾度カ述

ヘタル通り滿洲ハ我政府ト云ハス陸軍ト云ハス國民一般ニ

於テ忘レ難キ記念アル地方ナレハ實際ノ必要ナクシテ外國

軍隊ノ右地点ニ駐在スルコトハ我國民ニ誤解ヲ生セシムル

ヲ免レス例ヘハ中南米ノ一部ニ日本軍隊ヲ上陸セシムルカ

如キハ如何ニ強キ理由アリトモ米國々民ノ興奮ヲ起ササル

ヲ得サルト均シ尚本使全快ノ上ハ改メテ委細ヲ説明スルノ

機会アルヘシト述ヘタルニ國務卿ハ右ハ至極望ム所ナレト

モ其以前上記本使ヨリ只今自分ノ述ヘタル所ヲ貴國政府ニ

電報セラレタシト依頼セルニ付本使之ヲ承諾セリ帝國政府

ニ於テハ米國軍隊ヲ浦塙ニ残置シ幹部ノミ哈爾賓ニ移サン

トスルニ對シテモ異議アル次第ナルヤ御訓令ニ此点ヲモ

御内示相成タシ國務卿ハ軍隊幹部ト云ヒ乍ラ哈爾賓ニ於ケ

ル「バラック」ト云ヒタルヲ見レハ先方ニ於テ移転ヲ希望

スルハ幹部ノミナルヤ軍隊ヲモ含ム次第ナリヤ不明ナリキ

註 在米國石井大使發外務大臣宛電報第七一二号全文一部修正  
ノ上十一月二十日左記ニ転電セラレタリ

一一一 シベリア及東支西鉄道管理ニ關スル交渉一件 三三八

在中國林公使宛第一〇六九号

記  
在哈爾賓山内總領事代理宛第四九〇号  
在浦潮松平政務部長宛第九三号  
(松平ヘハ「右菊池ニ転達アリタシ」)

三三八 十一月十六日  
(在米國石井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報))

### シベリア鉄道管理問題ニ關スル國務長官ノ發

#### 言ニ付補足報告ノ件

第七一九号 (十一月十八日接受)

往電第七一二号米人ヲシテ事實上鐵道管理ニ任ゼシムトノ

國務卿ノ言ニ對シ本官ヨリ右ハ先般米國政府提議ノ趣旨ト

相違セルガ如シ即チ右提議ニ依レバ鐵道經營ハ連合國軍權

支配ノ下ニ露国人之ニ當ルモノト了解シタルガ只今ノ言ハ

新提議トシテ受取ルベキヤト反問シタルニ對シ國務卿ハ先

般ノ提議ニ於テモ事実ハ米人ノ担任スル所トナルベキニ付

彼は格別差支無シト曖昧ナル答弁ヲナセリ右補足旁々申進  
ズ將又國務卿ハ講和會議ニ列席スベキ米國代表者ノ數ハ七

四五五

尚序ニ申進ジ度キハ去ル一日大統領ガワザワザ本官ヲ呼寄セ談話シタル所ハ（往電第六五二号）米国政府ノ最モ重キヲ置ク所ナリト認メラルル処右ニ関連シ十一日当地大使館陸軍武官ノ許ヘ陸軍大臣ヨリ弁明補足的ノ來電アリタルニ不拘未ダ閣下ヨリハ何等御回電ニ接セザルニ付右ハ可成至急何分ノ義御回訓アル様致シ度シ

註 本電一部修正ノ上十一月二十日左記ノ通り転電セラレタリ

記

在中国公使宛第一〇七〇号

在哈爾賓山内總領事代理宛第四九一號

在浦潮松平政務部長宛第九四四号

（松平ヘハ「右菊池ニ転達アリタシ」）

三三九

十一月十七日 在米國石井大使宛（電報）

シベリア鐵道管理問題ニ關スル米國案ニ對シ

日本側修正案ヲ提示及スチーヴンス不同意ノ旨通報ノ件

十月下旬米國大使浦塩ヨリ帰京本大臣ヲ來訪ノ際西比利亞

第五三五号

且本件ニ付テハ種々ノ案アリタルモ右修正案ナラハ我カ廟議ヲ纏メ得ル見込アル旨ヲ述ヘ尚右ノ趣旨ハ在米大使ヲシテ充分ニ大統領又ハ國務卿ニ説明セシムヘシト附言シタルトコロ本件ハ主トシテ「スチーヴンス」ニ關係スル問題ナレハ本タニモ同人ヲ同伴シ更ニ協議シタキニ付夫レ迄在米大使ヘ電報ノ義ハ見合ハセアリタント答ヘ同大使限リニ於テハ兎モ角我主張ヲ諒トシ引取リタルカ八日「スチーヴンス」ハ大使ト共ニ來省シ日本修正案ノ如キ両頭計画ニテハ運行出来ズトテ不同意ヲ固執シタリ依テ更ニ本大臣ハ右修正案ニシテ不可ナラハ他ニ二案アリ即チ甲ハ列國共同ノ委員会（advisory council）ヲ組織シテ其共同委員ノ長ニ「スチーヴンス」ヲ置キ右委員ノ權限ハ飽ク迄鐵道改善ニ關スル忠言ヲ与フルニ止マラシムルノ案ニシテ乙ハ区分ヲ別チ浦潮ヨリ「ウスリ」、黒龍江鐵道ヲ経テ「カルイムスカヤ」ニ至リ更ニ同地ヨリ西方ニ至ル西比利亞鐵道、以上全線ノ運行ヲ「スチーヴンス」ニ一任スル案ナルカ右乙案ニヨル時ハ「スチーヴンス」ノ懸念スル鐵道運行ノ中断ヲ防止スルコトヲ得ヘキ訣合ナリト述ヘタルニ彼ハ甲案ハ過去ノ実驗ニ徵シ何等ノ効ナク又乙案ハ全然同意シ難シトテ

一一 一三 シベリア及東支兩鐵道管理ニ關スル交渉一件 三三九

鐵道管理問題ニ付貴電第六一八号ト同様ノ案ヲ示シ日本政府ノ同意ヲ求メ互ニ意見交換中談偶々 National Susceptibilities ノコトニ及ヒタルニ付本大臣ハ右ハ何レノ國ニモ免レ難ク現ニ本大臣米國ニ大使トシテ在勤中ニモ「マグダレナ」湾ノコトニ関シ屢々無根ノ風説行ハレ米国人ハ日本ノ行動ニ付多大ノ疑惑ヲ抱キタル如キ例モアリ衆民ノ誤解ハ如何トモスヘカラザルコトアルコトニ陳述シ米國案ニ対シテハ兎ニ角慎重考究スヘキ旨答ヘ置キ其後関係當局ヲシテ会合ヲ重ネシメ充分審議ヲ遂ケタル末漸ク「スチーヴンス」ト最モ懇親ナル木下前鐵道院運輸局長ヲ「スチーヴンス」ト相並ンテ Director-General タランマルコトニ米國案ヲ修正スルコトニ議繕リ十一月七日米國大使ヲ招致シテ右ノ案ヲ示シ何分鐵道沿線ニハ日本軍隊最モ多数ヲ占ムル次第ニモアリ如何ニ鐵道運行ヲ「スチーヴンス」ニ一任スルトモ其間動モスレハ誤解衝突ヲ生シテ事實上円満ナル運行ヲ期スルコト容易ナラサルヘク之カ為延イテ日米間ニ不快ナル事態ヲ生スルノ虞ナシトセス此ノ憂患ヲ予防セムカ為ニハ結局日米協力ノ方法ニ依ルノ外ナキコトト思考スルヲ以テ切ニ修正案ヲ容レンコトヲ希望スル旨寫ト説明シ

於ケル日本ノ立場及現在ニ於ケル西比利亜出兵ノ状勢等ニ照シ且又日米両国ノ親善關係ニ顧ミ我修正案ニ同意ヲ得タキ旨切実申入ルルノ必要ヲ見ルニ至ルヤモ知レサルモ不取敢以上御含迄電報ス尚愈貴官ヨリ米国当局へ申入レラナスニ当リテハ右ニ先チ「モーリス」大使トモ本件ニ関シテ一応打合タキニ付追テ何分ノ電訓アル迄本電ノ次第ハ貴官限り御含置アリタシ尤モ大統領又ハ國務卿ト御会見ノ折先方ヨリ本件ニ談及シタルトキハ貴官限りノ information 1) 接シ居ル事ヲ以テ本電ノ趣旨ニ内告セラルモ差支ナシ

川國〇 十一日四日 内田外務大臣ヨリ  
在米国石井大使宛(電報)

#### ハグニア鉄道管理問題ニ關ハ米国大使トノ内

##### 協議成立ノ件

別 電 十二月四日内田外務大臣発在米国石井大使宛電報第六〇二号  
ハグニア鉄道管理問題ニ關シ米国大使ト  
ノ協定案

第K〇1号(註意)  
貴電第六〇一八号ニ関シ其後本大臣ハ「モーリス」大使ト度

第K〇11号

#### Plan

For the supervision of the Chinese Eastern and the Trans-Siberian Railways in the zone in which the Allied Military Forces are now operating.

1. The general supervision of the railways in the zone in which the Allied Forces are now operating shall be exercised by a special Inter-Allied Committee, which shall consist of representative from each Allied Power having military forces in Siberia, including Russia, and the Chairman of which shall be a Russian.

The following boards shall be created, to be placed under the control of the Inter-Allied Committee.

- (a) A Technical Board consisting of railway experts of the nations having military forces in Siberia, for the purpose of giving advice and assistance in the matter of technical, administrative and economic management of all the railways in the said zone.
- (b) An Allied Military Transportation Board,

111 ハグニア及東支西鐵道管理ニ關ベシ交渉一件 川國〇

for the purpose of co-ordinating military transportation under instructions of the proper military authorities.

2. The protection of the railways shall be placed under the Allied Military forces, while the management of the railways shall be left in the hands of Russians. At the head of each railway shall remain a Russian manager or director with the powers conferred by existing Russian law. Those Russian officials shall, as far and as readily as possible, follow the advice and accept the assistance of the Technical Board.

3. The Technical Board shall act through a President elected by a majority of the members of the Board and who may, with the approval of that Board, appoint assistants and inspectors in the service of the Board, chosen from among the nationals of the Powers having military forces in Siberia, to be attached to the central office of the Board. He may assign, if necessary, the corps of railway experts to the more important stations. In assigning railway experts to any of the stations, interests of the

々非公式ニ意見交換ヲ遂ケ種々ノ曲折バアリタルモ結局別電第六〇一一号ノ案ニテ内協議纏リタルニ付之ニ依リ西比利亜鐵道問題解決方同大使ヨリ本国政府ニ請訓シタル筈ナリ尚該案中ノ技術部ハ「スチーヴンス」ヲ部長ニ選挙スル了解ノ下ニ連合各國(支那ヲモ含ム)代表者ヲ以テ組織セラルベク又我立場ニ対シテハ充分ノ願念ヲ払ハシメ日本軍隊ノ出動スル地方ニハ可成日本鐵道専門家ヲ簡派使用スル事ニ諒解整ヒタルモノナリ斯クシテ過般來懸案タリシ本件モ茲ニ漸ク解決ノ見込立チタルニ付貴官ニ於テハ右御含ノ上必要ノ場合ニハ前記「モーリス」大使電稟ノ次第ヲ支持シ本件解決ニ御尽力相成様致シ度シ尚本件「モーリス」大使トノ会談ノ際同大使ヨリ前記技術部ニ「チェック」代表者ヲモ加ヘテハ如何トノ話アリタルニ付本大臣ハ「チェック」ク」<sup>1)</sup>云ハベ客分ノ如キモノニ付其代表者ヲ加フル必要ナルベキ旨答ヘタルニ同大使モ之ニ賛同セリ  
本電含迄ニ在英、仏、伊大使ニ転電アリタシ  
(別 電)  
十一月四日内田外務大臣発在米国石井大使宛電報第六〇二号  
ハグニア鉄道管理問題ニ關シ外務大臣及米国大使間協定案

respective Allied Powers in charge of military protection of such stations shall be taken into due consideration. He shall distribute the work among the clerical staff of the Board whom he may appoint in his discretion.

4. The clerical staff of the Inter-Allied Committee shall be appointed by the Chairman of the Committee who shall have the right of distributing the work among such employees, as well as of dismissing them.

川四一 十一月五日

内田外務大臣ヨリ  
在米國石井大使宛（電報）

日本ガ東支鐵道讓受商議中ノ報道ハ無根ナル

旨在本邦米国大使ニ断言セル旨通報ノ件

第六〇九号

帝国政府ハ東支鐵道讓受ノ目的ヲ以テ吉林ニ於テ同鐵道支那側督弁ト内密商議中ナリトノ報道米国政府ニ達シ大統領ハ大ニ驚キ居レル旨國務省ヨリ來電アリタル趣十一月五日在本邦米国大使ヨリ來語アリタルニ付本大臣ハ斯カル事ノ有リ得ベカラサル次第ヲ指摘シ其ノ全然無根ノ風説ナルヲ

川四二 十二月十一日

由比浦潮派遺軍參謀長ヨリ  
田中參謀次長宛（電報）

後貝加爾鐵道ノ窮状救濟ニ關シ浦潮派遺軍司

令官ガ第三師團長及野戰交通部長ニ發シタル

訓電ヲ參謀本部へ報告ノ件

浦參第五八四号

（十二月十四日写參謀本部ヨリ外務省ニ接受）  
軍司令官ヨリ別紙一ノ如ク第三師團長ヘ別紙二ノ如ク野戰交通部長ヘ電報セラレタリ  
別紙一

後貝加爾ニ於ケル鐵道及電信ハ連合与國ハ固ヨリ露國側ノ

者ト雖モ之ニ妨害ヲ加ヘサルコトヲ必要トス依テ貴官ハ此目的ノ達成ニ努力セラルルヲ望ム、該鐵道ノ現況ハ窮状其極ニ達シアリテ英國仏國ノ如キハ之ヲ以テ「セミヨーノフ」ノ所為ニ帰シ從テ彼ヲ援助スル日本カ之ヲ指導シテ露國軍復興ノ妨害ヲ為スモノナリトノ疑ヲ有ス？今日ニ於テハ一方ニ此疑ヲ冰解シ他方ニ於テハ鐵道輸送力ヲ改善スルノ必要アリテ別電ノ如ク野戰交通部長ニ訓電セリ貴官ハ該官任務実行ニ関シ所要ノ助力ヲ与フヘシ

別紙一

後貝加爾鐵道ノ情況漸次不良ニ陥リ今ヤ殆ト其極ニ達セントスルノ報露國鐵道側及英、仏、ヨリ訴ヘアリ其ノ原因ハ鐵道從業員以外（主トシテ「セミヨーノフ」ヲ指ス）カ鐵道管理並ニ運行ニ干渉スルコト、後貝加爾ノ中間駅ニ卸下スヘキ荷物カ積載ノ儘到着駅ニ放置セラレアルコト、各國軍ノ各列車長ハ自己ノ便宜上各個ノ申出ヲナシ処決スル能ハサルコト、鐵道從業員等カ從来俸給ノ支払ヲ受ケス從テ業務ニ熱心ナラス機関車ノ情態モ日々不良トナルコトト云フニ在リ之ヲ事實ニ鑑ミルニ該鐵道ノ運輸力ハ甚シク少ナク現ニ東清線ニ於テ又行ヲ待チツツアル列車ノ二十余ニ達

111 ハーラー及東支兩鐵道管理ニ關スル交渉一件 川四一

セルコトハ貴官ノ詳知セラルル所ナラン此ノ如キ情態ニアルヲ以テ該鐵道ノ窮状ヲ救濟スルコトハ目下ノ急務ニシテ殊ニ之ノ主因ヲ「セミヨーノフ」ノ妨害並ニ車輛押領等ニ帰セントスル列國ノ疑アリ而シテ英國ノ如キハ公然之ニ関シテ日本ガ露國軍復興ヲ妨害スル「セミヨーノフ」ヲ援助スルモノナリトノ言ヲ發シアル今日ニ於テハ日本ノ立場トシテハ之ノ際公然ノ態度ヲ以テ此ノ疑点ヲ冰解セシムルノ必要アルト同時ニ該鐵道ノ窮状ヲ救フ方法ヲ講スルヲ急務ナリトス

之カ為當部ニ於テハ往々後貝加爾ヲ國際化スルモノナリ等ノ批難ヲモ顧ミス後貝加爾ニ鐵道ノ分會ヲ設ケ以テ之カ整理ニ任セシムルヲ要スルナラント考ヘアル間ニ英仏側ヨリ略之ト同様ノ要求アリ英國ハ之カ為ニ「チタ」ニ日本、英國、米國、仏國ヨリ成ル技術委員会ヲ組織シ露國「ズラボフ」ヲ長トシ列車運行ヲ援助指導シタキ意見ヲ提出シ來レリ之恰モ當方ノ意見ト略一致スルモノナリ抑モ該鐵道ノ窮状調節ハ第三師團ニ影響ヲ來スモノナルカ英國ノ露軍再興ニ要スル武器被服五軍團兵力十萬人分總計四百列車ノ輸送ヲ目下開始シツツアルノ際ニシテ彼等カ極力鐵道改善ニ努

一二 シベリア及東支兩鐵道管理ニ関スル交渉一件 三四一

四四二

力セントスルハ諒トスヘキ理由アリ就テハ英國提議ノ委員会ノ成否ニ拘ラス先ツ「チタ」ニ於テ日本側ト露國鐵道側トノ間ニ列車配給其他輸送ニ関スル指導ヲ為スノ必要ヲ感セリ仍テ貴官ハ「ズラボフ」ト協商シテ一委員会ヲ組織シ恰モ浦潮ニ於ケル委員会ノ如ク定期会合シ指導ヲ与ヘラレ

タシ若シ之カ為「セメヨーノフ」ノ行動ヲ制圧スルノ必要ヲ生セル場合ニハ第三師團長ノ援助ヲ要求セラルヘシ第三師團長ニハ當方ヨリ此事ニ關シ訓令シ置ケリ尚列車配給其他ニ關シテハ公明ノ処置ヲ執ラルヲ要ス

## 事項一三 國際常設經濟委員会一件

三四三 一月三十一日

在仏國松井大使（ヨリ  
本野外務大臣宛）

### 國際常設經濟委員会第二十八回會議報告送附

ノ件

附屬書 右報告

（三月二十八日接受）

大正七年一月三十日

在仏特命全權大使 松井慶四郎（印）

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

本月十二日開催ノ國際常設經濟委員会第二十八回會議報告別紙ノ通リ長岡委員ヨリ提出致候ニ付及転達候条御查閱相成度此段得貴意候 敬具

（附屬書）

國際常設經濟委員会第二十八回會議報告

一、委員会ノ諸決議ニ對シ聯合各國政府ノ執リタル措

置一覽表ニ關スル件

二三 國際常設經濟委員会一件 三四三

右一覽表（別紙第一号及第二号）ハ第二十七回會議ノ際白國委員ノ為シタル提議ニ基キ書記局ニ於テ作成シタルモノニシテ第一号ハ千九百十六年六月乃至十二月第二号ハ千九百十七年一月乃至六月中ノ諸決議ニ關スルモノナリ而シテ千九百十七年七月以後ノ決議ニ付テハ之ニ對スル各國政府ノ決定ヲ知ルニ未タ充分ノ時日ヲ経過セサルニ付当分一覽表ヲ作成セサル趣ナリ

二、伊國黒表ニ關スル件

伊國委員ヨリ同國黒表ヲ經濟委員会書記局ニ送附セル処（第三号）該表中ニ葡國及其殖民地ニアル商人及會社名掲記セラレ在ル為葡國委員ハ曩ニ英仏両國ノ黒表ニ對シテ為シタルト同一ノ抗議ヲ提出シ右ニシテ削除セラレサル限り葡國ハ黒表統一ノ提議ニ贊同スルコト能ハサルコトヲ開陳シタリ（第四号参照）

三、敵国人ノ著作権ニ關スル件

委員会書記局ハ別紙第五号ノ通り敵国人ノ著作権ニ關スル